

# 機動戦士ガンダム 宇宙世紀vol.3

伝説編



## 心に残る名シーン

ガンダムは違う!ファンが魅せられた  
リアルなシーンを初期の話数から振り返る

# 今までにない世界観



## 宇宙

巨大なエアロックである港の描写。  
当時の技術で回転を描いていたのだ

量産兵器として阿しロボットが登場。  
その巨体と量産性に驚かされた



## ザンク

## 実験機

機動中のコクピットを解放したま  
また、戦艦中ではあり得ない描写  
だろう



## 近未来

無重力空間での重力は遠心力で  
得られる。湾曲した廊下をみせる  
だけで迫力満点



## エニデル

一枚の設計図でなく取り扱い説明  
書だ。しかしこの線のケースは何  
だったのだろう



# 逃亡者

ガンダムをすり抜けて逃げるシャア。  
WBの執筆をかわし、逃げ切る寸前にブラ  
イトの放った銃弾でカメラを破壊される



# 軟弱者

時代がかった台詞もセイラならOK！  
徹切れの良い演出でリアルに感じた



# バルカン

たかがバルカンでも演出により迫  
力がある。さらに納得させられる  
給弾シーンを見よ！



# 巧みな心理描写

3話「敵の補給艦を叩け」での名場面。ブライトが戦闘可能な者に攻撃に出るかどうかを問う。攻撃に消極的なブライトが拳手の状態で腹を決める様子が秀逸。



ブライトのお手並み拝見状態のアムロ。敵民道は逃げるに拳手



リュウ、ハヤトは当然としてオペレータも拳手



討って出る方に賛成の確認を取るブライト



カッツ・レツ・キッカは戦うべきだと勇ましい

微いを求めるようにセイラを見るとちゃんと……



苦笑するブライトは横で挙手するミライを見る



コインで遊んでいたカイも中途半端ながらも挙手

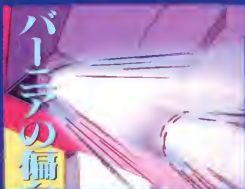
ブライトも挙手する事となり、やっとアムロの手が上がる



戦うには自分が必要だろうと自負するアムロと、危険な真似を避けたいブライトの心理戦が巧みに描かれていた。  
この状況は、視聴者の中核である高校生、大学生の若者たちが自分の立場に置き換えやすいシチュエーションなのだ。

# 細部へのこだわり

バーデの  
偏向



海中のランドセルだけで自在に動く秘密がこれ

宇宙空間ではこれないと  
機体が後退する



バズーカの反動

ディック魚雷を搬送する  
このリアルさ



手持ち武器



進化したMSがサク  
なのだと納得



指揮官といえど戦闘要員の時は  
戦闘服姿のブライト

リアルスーツ

刃の部分に電気を流して赤熱させるだけという割りに強い、強い

ガンダムの装甲より厚いシールドをズタズタに



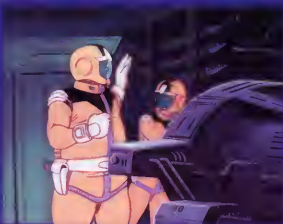
# ヒートホーク の威力

ガンダムバズーカなどは一刀両断



# 生身の G

アムロですら重Gを受けると気絶してしまうのだ



# 撃つ 覚えながら

操縦教本で戦うガンダムと同じく、ミサイルや機銃の操作も覚えながらだ

# 細部へのこだわり

高機動MS  
ガンダムの  
微妙な操縦方法



バーニアの稼働をアクセルワークでカバーする



ガンダムの  
喚装シーン

ベッドで上下分割、コアブロックの収納、  
コクピットが二枚重ねの装甲になる様子  
に、メカファンがとぎめいた





MORII SUIT

**機動戦士ガンダム**  
**宇宙世紀vol.3**  
**伝説編**

GUNDAM

# あのころはみんな 若かった

## ガンダム伝説とは何か？

機動戦士ガンダムは、20年後の今日観ても鑑賞に耐える名作である。過去、作品内容の追求はかなりされているのだが、それでも物足りない部分が多々あったような気がする。

やはりガンダムを語るには、ファンサイドの動きが欠落していたからではないのだろうか？ かといって、当時のファンの状況を説明しても、そう面白くもないだろうと考えるのが普通である。

ところが本年6月に機動戦士ガンダム宇宙世紀V.O.・1「歴史編」を発売したところ、いつものストーリー解説だけでなく導入部に当時のエピソードを幾つか入れてみた部分が若い人にかなり好評だったのである。意外といえば意外である。30代後半の読者に向けて、「昔はこんな事があったよね」と云うつもりでページだったのだが、20歳前後の読者に支持されるとは思わなかったのである。

編集稼業の愚友たちと話してみたのだが、どうやら我々が小学生の頃に熱中した戦記物

に通じるのではないかという結論に達した。

まあ、たしかに一年戦争の頃は生まれていない人が多いから戦後生まれのガンダムファンには興味ある歴史だったようだ。

本誌「伝説編」では、ガンダムが無名作品として放映されていた頃から熱狂的なファンがいた歴史を語る事にしてみた。

それは、いつてみればアニメックの歴史でもあるわけなのだ。ただし、それ以前のアニメファンの流れも是非解説する必要が出て来てしまった。

今年の8月1日に横浜パシフィコで、ガンダムビックバン宣言」という大イベントが開催された。さすがにガンダムだけあり、数年振りに会う顔が多かった。イベント当日またその後日、参加していた旧友たちと語らうと「我々は深く面白い歴史をリアルタイムで見ていたのではないか」という結論に達したのである。

同人誌ブームが起き、アニメファンが語り始め、なぜか商業アニメ誌が発売されるようになった一連の流れを目撃し、参加していた者が多いからこそその感想かもしれない。

今でこそアニメファンと言えばどんなジャンルの人々かは簡単に説明できる。

しかし、現在アニメーション関連の仕事で活躍する40代の編集者たちが、若者だったころにはこの言葉がなかったのである。なかったというよりは認知されていなかった時代である。

本書では、ガンダム放映よりも少し歴史を遡ってからの記述がある。アニメファンが集結し、動き出した頃からの解説をしてみようと思うからだ。そして、アニメファンという言葉が世の中に認められた頃に、ガンダムという作品が生まれ、あの大ブームを生み出すまでの全体の流れを振り返ってみたい。

なお、アニメファンの創成期の事だけに、拘わった人によって、その捉え方はまちまちである。記憶違いや誤記があるかもしれないが、基本的にアニメックの小牧雅伸が体験して来た事実をもとに構成してみた。

文中の「私」は、総て小牧の事としてお読みいただきたい。いまだに編集仲間に「ガンダムの小牧」と言われる秘密が少しは解けるかもしれない。

ガンダムの解説書のくせに、なかなかガンダムが出て来ないが、ガンダムが大ブレイクしていく様子が、ファンサイドから説明されるのは、おそらくこれが最初の本である。

また放映開始から後は、当時のアニメックに掲載された記事をなるべく多く引用し、当時の若者にガンダムが伝説として語られて行く様子を細かく解説してみた。

ガンダムの伝説か、アニメックの伝説だか書いているうちにわからなくなった部分も多々あるが、アニメックがガンダムの火付け役であるという認識は、間違いではないのでお許しいただきたい。

また現役編集者の方にとって、できるだけ不愉快な表現は避けたつもりであるが、文責は総て私にある。立腹されたら新宿御苑方向に向かい「小牧の馬鹿野郎」のひとことで済ませていただきたいものである。

そうなたら必殺兵器「いいじゃないか、友達だろ」を繰り出すしかあるまい。(笑)  
どちらにしろ文中に登場する人たちがアニメ文化に貢献したのは間違いない事実なのである。

小牧雅伸

# 機動戦士ガンダム 宇宙世紀vol.3

伝説編

心に残る名シーン  
3

序章●伝説前夜  
12

第一章●伝説の始まり  
15

第二章●アニメムックの誕生  
31

第三章●アニメックへの道  
45

第四章●ガンダム登場  
61

アニメックのガンダム特集  
107

第五章●ガンダム映画化  
181

第六章●アニメーションで振り返る近代年表  
187

# 第一章●伝説の始まり

## ガンダム前史

## ガンダム伝説始動

昭和54年4月7日土曜日午後5時半、関東地方では新学期の始まったばかりの学生がテレビの前で新番組が始まるのを待っていた。

名古屋テレビ製作の為に、関西の朝日放送では金曜日に放映されているのだが、今のようには電話網や電子通信が発達しているわけではなく、関東のテレビ朝日での放送を中心に話が進むのでご了承願いたい。

また昭和54年当時であれば、週休二日制の会社は少ないので、社会人としてガンダムをリアルタイムで観た人は特殊であった。

『機動戦士ガンダム』という正式タイトルは、3月末に最終回を迎えたダイターン3で発表されている。正式ルートではないアニメファンの間では、2月ごろから新番組に関する期待を含んだ噂が飛び交っていた。

『無敵戦士ガンボーイ』や『無敵超人ガーンボット』だのという友達に聞いた謎のタイトルが、正式なタイトルとして巷に流れ出したのは3月初頭ではなかったかと記憶

している。編集部には正月明けにはロゴが届いているから、一般への情報浸透は遅かったのではないだろうか。

もともと世間一般で話題になっているアニメーション作品は『宇宙戦艦ヤマト』であって、ガンダムはまったく無名であったのだ。

それにしても一部のアニメファンには、かなり密度の濃い事前情報が流れていた。

曰く、設定製作には「スタジオぬえ」が参加している。ストーリーもぬえが脚本らしいぞ。原案には「宇宙の戦士」を持って来るらしい。……どうも的確に情報を聞いた人間が友達に話す時には自分の希望的観測まで足して流布した結果らしい。

ここで言うアニメファンは、ほとんど原種とでも説明するしかないコアなファンの事であり、今でいう一般的なアニメファンではなかった。それは、別項で説明しよう。

TVにオーブニングが流れ始めると、我々の動きは停止した。ザンボット3やダイターン3で慣れているにもかかわらず、その情報量が圧倒されたのである。ましてや本編が流れ出すと、テーブルコーダーに雑音が入らな

※金曜日放映

困った事に全国ネットとはいえないので局で同時放映されているわけではない。最近はその時間差を楽しむ余裕さえあるが当時は放送時間が違う区域の情報はあまりなかった

※社会人

いつかまとめてみたいと思っているデータなのだが、1話を見て転載してサンライズに入社した人もいるくらい数々のドラマがあった。個人的には仕事中でもガンダムが見れるような職場を作ったよかったですと思っていたよ

## 第一章●伝説の始まり

※事前情報

何しろ半日前には設定書のコピーを持ち歩いている人間ぐらいなのである

※スタジオぬえ

宇宙戦艦ヤマトで一躍人気を得るが、コトファンにはよくから有名なあった

※ティファレーダー

たしかにベータマックスで録画していたマニアも一部存在するが10数万円を越える機体を誰もが買える訳ではなかった。よってガンダム前半は音声記録しかないのである

※オーニールタイプ

不思議な事に周囲にいる人間が口を揃えて特撮機だつたのでスペースコロニーを知っている者はかりであった。ある意味知識の偏りがある集団だった

※喫茶店

「コーヒー一杯で一日座つてられる喫茶店があったりしたものだ。(笑)」

「丘」が潰れてからでも10数年経過している

いように息を詰めて画面を食い入るように見るしかなかった。

「わつ、富野さん本気だよー」が感想と言うべきなのだろうか。20年後にLDで観ても、その完成度には圧倒される作品である。その時の我々の興奮度が理解できるのではないだろうか。

宇宙空間に浮かぶオーニールタイプのコロニーが、これはリアルに描かれた事があったろうか？ 実用兵器として実戦配備されたロボット、いやモビルスーツ「ザク」の存在感。いきなり謎の言葉を話した怪しい敵キャラ。それでいて、生活感溢れるコロニー内部の日常生活。テレビを見ているうちに魂があつちの世界に行ってしまうような作品が、ガンダムだったのである。

「終わったよな？」

「ああ、通常CMが流れているから終わりだろうな」

横で見ていた副編集長U杉の言葉でティファレーダーのスイッチを切りながら、興奮しきった頭で私は考えていた。

「なんて物が始まったんだよ」

たしかに他に表現のしようがなかったのである。

物語は理解したつもりであった。しかし、謎が多い作品である。見えていた映像を自分なりに反芻して咀嚼するには、暫く時間が必要であった。

翌日の日曜日、お茶の水の某喫茶店には、わらわらといつものメンバーが集まっていた。「見たか？」

「見たぞ、あのビームサーベルってのは、ブラズマ励起型だよな」

「赤色発光してたからレーザーじゃないのか」「レーザーを振って円弧軌跡は残らん」

いるのである。いつの時代にもこういう若者たちが。

やれジオン軍の残存勢力がどうの、ザクのジャンプ力がどうの、アムロが操縦できる為に必要な操作系がどうのと噂の巣をつついたような論争が繰り広げられたのである。

かくして、今も続くガンダム伝説はここに始まった。

しかし、それはごく一部のマニアの中だけで起きた現象だったのである。

## 宇宙戦艦ヤマトの頃

※フル・アニメーションと

リミテッド・アニメ

今でもそうなのだが、ア

ニメーションは一秒24フ

レームで動かなければなら

ないと考える人がいる。

ストーリー優先の人間は

1秒3コマのTV用アニメ

でも十分だった。

最近では3コマでさすが

に見えないけど……

※SFL系

早川書房のSFマガジ

ンのテレビト欄がきつ

かたで文通を始めた者が

それなりにいた。後にア

ニメックで評論を連載す

る中島紳介氏は70年代中

半に怪獣映画の再評価を

投稿する常連であった

※別個のネットワーク

ネットワークがどうやっ

て発生したのかは色々、

この時期に知り合った人

間がいなければ、今もこ

の仕事をしていない可能

性が高い

ガンダムのムーブメントを説明するには、話をさらに数年戻す必要がある。そもそもアニメ誌という存在がなかった頃で、ガンダム放映前にアニメ誌が誕生した経緯も話さなければ、ガンダムでの盛り上がりが説明できないからでもある。

昭和49年のテレビシリーズ「宇宙戦艦ヤマト」が発端であるのは間違いないだろう。

ヤマトというキーワードにより、色々な面でファン活動をしていた人材が交流を開始したのがこの年であった。

アニメファンはたしかに居たのだが、アニメーション作品をメインに活動していたという例は、この時期までほとんどない。勿論作品別の盛り上がりはあっても、アニメーションを主力ジャンルにして活動している人があまり存在しなかったのである。

学生サークルのアニメーション研究会や同好会は、8ミリ作品を製作するか、映画研究

をするのが基本であった。さらにアニメーションをまともに研究する場合は、デイズニールやフライシャーのフル・アニメーションであった。国産アニメの主流であるリミテッドアニメーションの醍醐味が評価されるようになるのは、かなり後の事であった。

鉄腕アトムから始まる日本のテレビアニメーション、つまりリミテッドアニメを真剣に研究する人はそう少なかったのである。

そういつた訳で、SF研やマンガ研、あるいは映画研や文芸研に所属しつつアニメが好きで個人的な活動をしていた人間が、他の学校の同好の士と連絡を取り合っていた時期ともいえるのだった。

地方にいと、そうそう同じ趣味を持つ者はいないのだが、予備校生や大学生として上京すると容易に仲間が見つかるものである。

それまで、まったく別個のネットワークに所属していた人々がクロスオーバーして行くという大変珍しい時期であった。学校生活にも慣れた5月ころからこれが始まった。

怪獣マニアというのも語弊があるかもしれないが今で言う特撮系の人々、アニメーション



## 第一章●伝説の始まり

※ヤマトのセル

話数別の下請けスタジオによっては、絵じやないのがあり、その話数のセルは減らなかつた

ンではジャンル別にトリトン系の人々、ガツチャマン系の人々、マジンガーZ系の人々が情報交換をしつつヤマトをキーワードに結びつけた面白い現象があった。

今では何でもない事かもしれないが、この時期の映像マニア先駆者たちは大変な凝り性で、独自の記録を保有していた。

毎回のエンディングテロップを速記してスタッフリストを残していた者や、テープ録音からシナリオらしきものを再構築していた者、ストーリーダイジェストをこつこつ書き溜めていた者etc…。

中には8ミリ（ビデオではないフィルムである）でお気に入り作品をテレビ画面から直接撮影を続けていた剛の者すらいたのである。

私の場合はストーリー優先で、この作品はこういうエピソードで構成されていたと、かなり大雑把な分類しかしていなかったで、そういった詳細をファイリングしている人たちには教えられる事が多かった。

そういった集まりで、アニメーションというのは設定資料に基づいて原画を描く人や、動画を描く人がいて、それを全部まとめる作

画監督がいるという、壮絶な真理を教えてもらったものである。（笑）

「そうかあ、それで毎回絵が違うのかあ」と納得したりしていたんだから可愛いもんだ。

それどころか映画のように監督がいて、脚本家がついて、演出が存在するという驚愕の事実に通りに着いたのであった。

（笑）話のようだが、部分を知っていても全体についての情報交換が、ファンレベルで行われたのはこの頃が最初なのである）

ただし、まだ純粋なアニメファンというのはこの時点では存在していなかった。SFファンダムでの知り合いが、怪獣映画ファンの団体かであったのだ。

この当時は撮影済みのセル画が、産業廃棄物として製作スタジオのお荷物だった時代である。円谷プロに見学に行けば、編集で切り捨てられたウルトラマンレオの屑フィルムが貰え（笑）桜台のオフィスアカデミーに行けばヤマトのセルが背景付きで貰えたのである。録音スタジオに見学に行ったら使用済みのAR台本にサインをくれる人まで居たという今からは信じられない呑気な時代である。

需要と供給のバランスでいえば需要がまったくなかった頃ともいえる。欲しがる人間がないのだから、ゴミにするくらいなら欲しい人が持つて行ってよかったのだ。(笑)

そういった産業廃棄物にプレミアが付くようになるのは「宇宙戦艦ヤマト」の再放送以後であり、セル画が販売されるようになるのも数年後であった。

私の場合は、運良くというか、悪くというか、大学生になった年で時間だけはあったからありとあらゆる場所に出没していたような気がしてならない。(事実そうなのだが)

それにしてもである……。この当時に世間の人々が気が付かなかった物に価値を見出した若者たちが、40歳を過ぎても今だにアニメだ特撮だとお仕事にしているのだから、まことに不思議なものである。(笑)

こうなると人材が集まったのは時代の要請ではなくて、もともと好き者が集まっていただけの時代だったのかもしれない。

昭和49年がどういう年だったかを、簡単に記述しておこう。テレビ番組としては、アルプスの少女ハイジ、ウルトラマンレオ、仮面

ライダーX、破裏拳ポリマー、寺内貫太郎一家、大草原の小さな家、ゲッターロボ、グレートマジンガーが放映されていた。

2月にはあのユリゲラーが来日して、日本中の壊れた時計を動かし大ブームになっていた。SFファンの見解としては何十万人が、壊れた時計を持つてテレビをみていれば、万に一つの可能性でも10個や20個の時計は動くだろうというものである。デジタル時計の少ない時期だから、古くなった時計油が体温で緩み、ちよつとしたショックで動き出す確率もそれなりにあったのではないだろうか。

さすがにゼンマイが切れていたのに動き出した例はないようだ。ただ、一部のタレントが「私の時計も動いたんでーす」などとバラエティ番組等で発言して、ブームの起爆薬になったように記憶している。

国内では、ルパンク島より帰還した小野田さんのニュースで沸いていた。その前のグアム島の横井さんは、錆びた銃を抱え、洞窟に隠れ住んでいただけだったのに対し、小野田少尉は現地偵察任務を続行していたという部分で、かなりセンセーショナルな扱いであつ

## 第一章●伝説の始まり



素當時のカット、私の同人誌に掲載された物。こういう嗜好の狼さんもいた。当時のファンが見たら、誰たか一目瞭然である

た。なにしろバリツとした軍人でしたから。

アメリカでは、ウォーターゲート事件で大統領がピンチに陥るし、青森県では、原子力船むつから放射能漏れが起き大騒動。そうでもなくても母港反対だった住民に完全拒絶をされさすらいの船になったのだ。つい先日、海洋調査船として就航した「むつ」は、本来ならこの頃から日本最初の原子力船として活躍するはずだったのである。

世相として一番記憶に残るのは10月14日の長島の巨人引退であろう。「巨人軍は永遠に不滅です」の生音声流すテレホンサービスは回線がパンクするほどに混雑した。もしこの時にダイヤルQ2サービスがあれば、かなりの稼ぎになったのではないだろうか。

ちなみに、年末の子供雑誌の付録には、この「さよならメッセージ」のソノシートがついたりもした。さすがは長島茂雄である。

余談ではあるがこの年からゲイラカイトが輸入され、日本の和風は絶滅の危機を迎える事になる。数年をまたずして流行から定番になったゲイラカイトは、今やスーパーで五百円も出せば買える商品になってしまったのだ。

## 同人誌の時代

さて、「宇宙戦艦ヤマト」本編の事に触れなければならぬ。この当時の若者たちは、各自のお気に入り作品を胸中に抱いていた。

しかし、資料という物は自分の記憶だけである。今のようにビデオからパソコンに取り込み加工してプリントアウトするなどという手段はない。再放送がなければ、記憶は風化する一方であった。ところが、手分けすれば資料は揃う状況になったのだ。放送終了と同時に散逸してしまう筈の資料が、ファンの手によって保存分類されるようになったのだ。

かくして第一次同人誌ブームが巻き起こった。せいぜい感想文か、ストーリー解説しか書けなかった同人誌に、設定資料は載る、シナリオ抜粋は載る、あろう事か制作者コメントまで掲載されてしまう同人誌蜜月時代の始まりであった。

版權問題もへつたくれもない。なにしろ版權管理者公認の「番組広報誌」みたいな同人誌なのだから。(笑)ダイレクトメールは情

※プロとして活躍

編集者やライターだけでなく、漫画家やアニメーターや画家になった者も多い

※怪獣倶楽部

池田憲章氏などは、この所屬だった。ロトさんこと、氷川竜介氏もそうだったが、なぜか会ったのはCBYLの例会だったと記憶する。

昭和50年結成の怪獣倶楽部だが、その原型PUFFはその前から活躍していた。

特撮関連の書籍が市民権を得るのは、このメンバーの功績である。まあ、これだけで本一冊出来るくらいの大活躍をした団体だ

報を必要とする人に届くのは3パーセント程度ではないが、同人誌であればその作品に興味のある人しか読まないわけである。部数は少なくとも打率100パーセントの宣伝媒体なのだからアニメーション番組を確実に扱う媒体がない時代であれば、歓迎されたのだ。

もっとも、あの当時のファンは礼儀正しく常識のある人が多かった。制作サイドとしても、年齢のやや高いファンからのリアクションによって情報が得られるというメリットがあったのも事実である。それが何よりの証拠に、当時からどこにでも出入りが許されていた人間は、今もプロとして活躍しており、問題を起こすような人間は、今ではほとんど消息不明である。

どうやらこのあたりから、アニメファンが組織的に動き始めたのかもしれない。

初期の「宇宙戦艦ヤマト」FCに「CBYL」があった。「コスミック・パトルシップ・ヤマト・ラボラトリー」つまり宇宙戦艦ヤマト研究所である。(笑) なんだ直訳と言うのかと、これでも英訳した場合にどうなるのかという議論の末に決まった名称なのだから。

なにしろ「CBYL」は放映中に活動していたという珍しい組織で、後に「ヤマト・アソシエーション」と名乗っている。

(あつ、あちこちでドキッとした人がいそうなので、これ以上書きませんが直接・間接にこのファンクラブで活動していた人は、凄いなになりますし、アニメ&特撮関係で現役の人もこれまた多数いらっしゃいますね)

ヤマト・アソシエーションは同人誌のレベルを越えて広く普及し、お手本とした怪獣倶楽部の機関紙のようにファン必携の書となっていたのである。図版の多用はアニメ系、スタッフリストは共通、評論は特撮系の得意分野であった。この頃からアニメが主体なのに特撮をやる人や、特撮が主体なのだがアニメが得意という人材がおり、かなり混成チームで活躍していたような記憶がある。

もっともヤマトも後半になると、類似の編集方針を取る同人誌がそれこそ雨後の竹の子のように誕生するのだが……

独自の価値観を持つファンが、お気に入り作品を再評価する。このパターンが確立されたのはアニメーション作品では「宇宙戦艦

## 第一章●伝説の始まり

※フランクフルト編

フランクフルト編なんて区別はない。ハイジがクララのお屋敷に引き取られ波瀾万丈の活躍をする時期をマニアがそう言っている

※清水の舞台から飛び降りる覚悟

家庭用のベータマックスが発売されるのが翌年で、この当時の家庭用ビデオはべらぼうに高額商品。なかには放送局放出品のUマチックを使う者もいた

※ベータ

画期的な映像録画手段として登場。録画時にタイムラグがないので、重用された。アニメーション彩色は自然色ではないので、再現性も良かった

※VHS派

結局生き残ったのはこっちだった。ところでこの時期には、もうひとつVコーダーという家庭用ビデオ規格もあった

「ヤマト」が最初であったのは間違いない。

それ以前の作品では、個人レベルの評価は出来ても団体としては機能しなかったからである。ただ例外的に永井豪FCのマジンガーZやデビルマンの同人誌は、漫画界に進出したプロが手掛けていた場合が多く、他ジャンルの同人誌とは別格の出来であった。

49年10月6日から放映開始となった「宇宙戦艦ヤマト」であったが、これが最悪の時間帯であった。日曜日の19時30分といえば、この年の1月から名作「アルプスの少女ハイジ」が始まっている。いかにSF系アニメが好きな人間でもフランクフルト編に突入したハイジを見捨てるわけにはいかない。アニメファンは悶々とした日曜日を送るのだった。

かといって特撮系アニメファンは安心してヤマトが見れたかといえさにあらず、やはり裏番組に「猿の軍団」が始まったのである。こういった場合にマニア度の高い友達がいるのは幸せであった。特撮マニアは、清水の舞台から飛び降りる覚悟でホームビデオを購入し、「猿の軍団」を録画し始めたのである。同じくSFマニアは「宇宙戦艦ヤマト」の

録画を開始したので、三つ巴の裏番組に悩むビデオ持っていない派は安心してハイジを視聴したのであった。

どちらにしても、ビデオはまだまだ貴重品であり月に一度はビデオのある友人宅に出向きまとめて見る必要はあったのである。

なんとか無理をすればビデオが買えるという状況になるのは、2年後であったが、それにしても誰も彼もがベータを購入してVHS派がひとりもいなかったというのがマニアの性であろう。(笑)

テープ1本に30分番組が2本しか収録できないというのに立派である。

ともかく極一部のマニアに絶賛された「宇宙戦艦ヤマト」であったが、結果的には惨敗する。合体ロボット全盛時代であり視聴率の中核をなす少年層には相手にされず、ファミリー層にはカルピス名作劇場のハイジが居たのが不運であった。日曜日のゴールデンタイムでありながら平均視聴率7パーセントの結果となり、予定の3クールを待たずして半年で終了してしまったのである。

それによって、割愛されたストーリーは数

知れずあった。設定ではマッドサイエンティ

ストを発揮して反乱を起こすはずだった真田技師長は何もせず、端役の戦機闘士がチンケな反乱を起こしてしまう。特にイスカンダルに到着してからの急転直下なストーリーに多くのファンが涙を飲んだものである。

結局、この打ち切りによって出したアイデアが使われなかった作家の不満もあって、初期設定がファンにどんどん流れたのだが、放送打ち切りになつたくらいだから、キャラクター商品もかなり限定されており、サンスターのノート、水筒、バスター程度で、バンダイから発売されたゼンマイで走るヤマト・コスモゼロ・コスモタイガーのプラモデルは、青年層にはあまり歓迎されなかった。

もともとゼンマイで歩くアナライザーは、なかなかできが良かったのだが。普通ならば「宇宙戦艦ヤマト」は昭和49年に名作ハイジの裏番組として放送され、打ち切りになつたアニメとして評価もされなかったはずである。「やはりアニメのターゲットは子供でなければならなかったのだ」という反省で終わった作品だった可能性は多い。

## ヤマトの再放送

さて「宇宙戦艦ヤマト」の放送が終了した昭和50年というのはどんな年だったのだろうか。テレビ番組として記憶に残るのは勇者ライディーン、ゲッターロボG、宇宙の騎士テックマン、鋼鉄ジーク、UFOロボグレンダイザー、ガンバの冒険、タイムボカン、フラングスの犬、一休さん、元祖天才バカボン、前略おふくろ様といったラインナップだ。

忘れてはならない「まんが日本昔ばなし」は、この年から始まる長寿番組であった。

一般的な世相としては、3月10日の山陽新幹線開通と沖縄海洋博であろうか。

怪しいところでは、巷に流行した「紅茶キノコ健康ブーム」である。色々な解説書や雑誌の付録の引き換え券を送ると爪ぐらいのサイズの元菌が送られて来るのだ。砂糖を多めにした紅茶を瓶一杯に作り、室温に冷ましてからこの元菌を入れるという簡単さ。(笑)一週間もすると、瓶の紅茶の上にはクラゲのごとき紅茶キノコが成長している。

※初期設定

アニメーションの初期設定だけでなく、企画の初期設定まで流れたので、ガミラス軍の初期の名前がラジエンドラなんて事までファンは知っていた

## 第一章●伝説の始まり

※再放送履歴

テレビ局独自の編成時間  
ならば、放送地区の要望  
である程度リクエストに  
応じられるという話が出  
て、「吾にブームとなっ  
た」のだ

この酸っぱい紅茶をカップに取り、適当な飲み物で薄めて飲むというものである。食中毒を起こしたという話は聞かないが、こんなものを飲んでどうして健康になるのかが不思議だった。これもあつという間のブームで、翌年になると、そんな物は誰も培養していなかった。昨年、某県の一部ではまだ紅茶キノコを培養している町内があるという話を聞き、それはそれで根性があるなあと関心したものである。

漫画ではあるが、少年ジャンプに連載された「サードキットの狼」が妙にアニメファンに支持されていた。これは後のスパーカーブームの原点となる作品であった。

ちよいと毛色が違うが、ベルサイユのバラが宝塚公演されて、そのストーリーの違いに原作のファンからすると「そりゃあ違うだろう」と突っ込みを入れた見に行った者がとても多かった。(笑)

巷にはビュティフルサンデーがしつこく流れていたのも記憶にある。まあこんな世相であったから宇宙戦艦ヤマトなどは過去の作品のひとつになっていたのだ。

しかし、ヤマトは放送終了でファンに忘れ去られたわけではなかった。ヤマトファンは水面下で熱い戦いを繰り広げていたのだ。

中核になった大学生たちは、ヤマト打ち切りの無念を同人誌にぶつけていた。

放映前から資料を集め、スタッフの話を聞いていた強みというべきだろう。ヤマトを見なかった人間と、見る事の出来なかった人間がこれに反応した。

「こんな面白い作品があったのか、どうすればもう一度見れるのか？ 他に資料は？」

となるわけである。ストーリーダイジェスト等は、書いた人間の思い入れで本編フィルムよりも感動的だったりするものだから、見たいという欲求はほとんど飢餓状態である。

かくして、小規模ながら再放送嘆願書も集まり、ヤマトを知らずばアニメファンに非ずという風潮まで生まれたのであった。

組織だった動きではない。同時多発の同人誌活動は、あらゆる場所で錯綜し、いつの間にかヤマトブームが静かに始まっていた。

一過性のブームならば沈静化したかもしれないが、ファンのピラミッドの頂点に位置す

る大学生たちは、競い合うように相手の長所

を取り入れ、新たな切り口でヤマト同人誌を

作り続けていた。高校生の中でも、ヤマトに

興味を持っていた層がこれに追従し、多少背

伸びをした中学生もこれを追ったのである。

なにしろ情報不足である。カラー印刷等は

夢物語、それでもアニメ系の集会があれば秘

蔵のセル画が閲覧されたりもする。

秘蔵のセル画というだけあり、作画監督ク

ラスの直筆原画がズラリと揃うと壮観で、本

放送を見た事のないファンの妄想を膨らます

だけであつた。(笑) そんなにいい絵は滅多

になかったんだってば。

こういう人は、もう妄想モードに入ってい

るので、後年の再放送でコスモゼロから古代

進がはみ出すようなシーンを見ても、美化し

て見ていたようである。これが俗に言うヤマ

トビジョンという「脳内画像修正」方法で、

鼻根の引き倒しでしかないのだった。

そういう事でヤマト信者にとって、布教の

場所には困らない状況があつたと理解してい

ただきたい。というのは、ヤマト放映の前後

には人気アニメが放映されていたのだ。

ヤマトの放送が開始された昭和49年は「マ

ジンガーZ」から引き続きの「グレートマジ

ンガー」や、ヤマトの半年前から放送が開始

された「ゲッターロボ」という比較的对象年

齢が高めのファンに支持される番組があつた

から、そういう集会に行つてヤマトの話をし

てもなんとかなつたのだ。

ヤマト終了の昭和50年は入れ替わりにあの

「勇者ライデーン」がスタートし、比較的ヤ

マトファンと近い年齢層に支持されている。

さらに5月からは「ゲッターロボ」の後番

組「ゲッターロボG」が始まっているのだ。

巨大ロボットファンもヤマトファンも求め

るものはストーリー性であつたから、このあ

たりは問題なくリンクしたようである。

作品別のアニメファンが、この時期を境に

他のアニメ作品も認めるようになっていたか

らだらう。面白ければ、その集会に関係ない

作品ですら論議的になったのである。

そして、昭和51年春に首都圏で「宇宙戦艦

ヤマト」は突如再放送されるのである。

夕方という時間帯であるにもかかわらず、

※マシンガーZ

マシンガーZの最終話と

グレートマシンガーの第

一話の区別はいまわか

らない。タイトルで区別

するのかな?



視聴率

低いとサンプリング的に  
信用できないと思うし、  
高いと人気がある証拠だ  
と思う。どちらにしろ  
V放映される限りは避け  
られない難関

平均視聴率20パーセントという、信じられない結果が出た。何しろ放送終了後に同人誌やファンの話だけで情報を得た人が多い作品である。家族とテレビを見ていれば「ハイジ」を見るしかなかった人もいるわけだし、本放送当時は放送されなかった区域の人もいる。

そういう人にとっては、憧れの「あのヤマト」である。どうやら、同人誌情報によって本物の映像に憧れていた層が一気に動いたのだろう。これを皮切りにして、地方局で順次再放送が始まり、各地に同じような現象が起き始めたのである。

学生が下宿で見るテレビが視聴率に影響するものかどうかは定かではない。どちらにしても初回放送の3倍の視聴率があったのだからヤマトの再放送を見た家庭は多かったのである。

この再放送のあった昭和51年がたいとういう年だったかの説明をいれておこう。

テレビ番組としてはキャンディキャンディ、母をたずねて三千里、大空魔竜ガイキング、ゴワッパー5 ゴーダム、超電磁ロボ コンバトラーV、UFO戦士ダイアポロン、グロ

イザーX、ブロック軍団IVマシーンブラスタ、マクネロボ ガ・キーンというラインナップで『巨大ロボット』の全盛期であった。

一般的な世相としては、日本を震撼させたロッキード事件がある。例の「ビーナッツ」○個受け取りました」というフレーズだけが、今も語り継がれる。次期主力戦闘機導入による賄賂事件だ。この影響が大きいせいか7月のモントリオールオリンピックについての際立った記憶がほとんどない。

それよりも9月6日のミゲ25に乗って函館空港に亡命して来たベレンコ中尉の方が詳細を覚えていそうな気がする。日本の空は大丈夫なのだろうかとか若い世代にも話題になった事件だ。どうも暗い話題の多い年である。無理やり明るい話題を探すなら、あの一世を風靡したピンクレディがデビューした年である。

あまりアニメファンには関係ないのだが、あるプラモメーカーが、もともと保有していたロタスヨーロッパに「サーキットの狼」の著作権を取得しパッケージを変えたところ爆

※肉筆「パイパー」同人

たことえ田「パイパー」といえども、百部作なら簡易オフの方が安い。今では連絡誌（ペーパー）として使われる場合が多い

発的に売れ、これを契機にスーパーカーブームが始まっている。小学生がカメラを構えて六本木交差点でスーパーカーを撮影するようになったのはこの年である。最近も似たような傾向が「ハチロク・トレノ」のプラモデルで起きているが、歴史は繰り返すものである。ひらけボンキッキから出た「およげたいやきくん」が大ヒットして、商店街や緑日では必ず流れていた時期でもある。

そんな年のヤマト再放送では今までなかったような現象が次々に発生した。一年遅れでヤマトを見た人々は、初期のファンと同じような行動を取ったのである。ほとんどトレースするように似た動きだったのが面白い。

なにしろ、お手本にする同人誌には困らないし、設定資料も標準的な物は流通しているのだ。この当時の神田神保町の10円コピーの置いてある店に行くと、必ず学生がヤマトの設定書をコピーするという現象が見れたものである。ちなみに10円コピーなど、今ではコンビニでもできるのだが、当時としてはあまり多くはなく、学生街にたまにある程度だった。

コピーセンターなる店もぼちぼち出来ていて50枚以上なら10円単価であったが、今の出力サービスをする店よりも少なかった。

そんなわけで、肉筆コピー同人は、当時としては高級品に分類されていた。もちろん個人ユースのワープロもなく、活字を使った簡易オフセット印刷などは最高級品である。

この時期は拡散と統合が各地で行われたようだった。どこかのサークルに所属している学生が地方に帰郷し、そこで資料を放出する事によって、子サークル、孫サークルが誕生したわけである。

その一方で、情報の拡散しきった端末にいたファンが周囲に呼びかけて、新たなサークルを結成するという動きも多かったのである。それにより、再放送で火のついた新規ヤマトファンからは、次々に同人誌が発行されていくという現象になったのだろう。

そのうちに、過去のヤマトの資料が全部集まるが故に、新たな欲求不満が生まれた。

各地のヤマトファンたちから「完全版のヤマトが見たい」という欲求が出て、次々にヤマトファンクラブを結成し、製作続行の嘆願

## 第一章●伝説の始まり

※アカデミー

勿論、宇宙戦艦ヤマトの製作会社、オフィス・アカデミーのせいでもある。

書を送付し始めたのである。この場合は同人誌よりも連絡誌のみが作られたようだ。

放送中に製作された同人誌の影響というものはかなり大きい。裏情報とでもいうべき制作される可能性のあった物語が、ひとり歩きを始めて「それを見たい」という欲求になったのである。

驚いたのは制作サイドで、視聴者からの具体的なアプローチというものはせいぜいファンレター程度だったのに、今度は集団である。正確な数は把握できないのだが、アカデミーに同人誌を送付して来たサークルだけでも二百近いのだから、相当数の潜在的なファンがいたと考えたのであろう。

さすがに初期のFCのように千人単位の会員がいたサークルばかりではないのだろうが、当初制作サイドが考えていた中学・高校生のターゲット層が一斉に反応しているのは関係者にとって自信が持てる状況であった。

「ストーリーが難解だから視聴率が悪かった訳ではなく、見れる状況ならばこんなに多数の若者が支持してくれる」という制作サイドの確信が翌年の劇場公開への原動力となって

いくのだった。

こうして、田ヤマトスタッフに招集がかけられ劇場版ヤマトが制作されて行くのだが、またまた、これらの極秘情報はコアなファンによってリークされ、野火のように噂が広がっていくのだった。



## 昭和49年晩秋の私の部屋

後にアニメックの初代副編になるU杉が、池袋の三疊一間のボロアパートにやって来た

時の記憶に基づいて描いたイラスト。

うーむ正確過ぎて怖い、ちょっと説明してみよう。

なんせ三疊だから、潜水艦の中のように棚や吊り下げ紐を使ってグッズが収納してあったのは事実で、トラックが表の通りを通ると、これが揺れて大変だったのだ。

しかも、やたら色々な物が落下して来た。

ぶら下がっているコスモガンは、ブラバンからフルスクラッチした1/1で、ストロボ回路を内蔵した自慢の逸品。

グリップ内のバッテリーで動作する。

(暇だったんだな)

机の上のレターケースは、当時の必需品で全国各地数十人と文通して情報収集をしていたのだった。

近所の西友で安売りグッズを買っていたのであるが、その前に転がるヤマト水筒ってのは、知る人ぞ知るOUI創刊2号に出たあれである(笑)

机の下に下がったヤカンの蓋については、まあ見なかった事にしておいてもらおう。

(初出:「マニフィック創刊号」)

## 第二章●アニメムックの誕生

# ヤマトブーム到来

## ヤマト劇場公開

ファンサイドの欲求により劇場公開が興業的に行けそうだと、昭和52年夏に公開される事となった「宇宙戦艦ヤマト」であったが、それ以前に別の動きがあった。

その話の前に昭和52年の動きに少し触れておこう。この年も歴史に残るアニメーション作品が目白押しであった。ルパン三世（俗にいうパート2）、タイムボカンシリーズヤッターマン、合身戦隊メカンダーロボ、惑星ロボダンガードA、合体魔術ロボギンガイザー、超電磁マシーンボルトスV、超人戦隊バタック、恐竜大戦争アイゼンボック、無敵超人ザンボット3、といったラインナップが次々に放映されていた。

世相としては、今からは信じられないような、家庭用テレビゲーム機（テレビにつなぐ1チップの原始的なゲームである）が色々なメーカーから発売された年でもある。今ならコンビニで買えるキーチェーンゲーム以下の内容だが、それなりに売れていた。

ニュージーランド沖では、ニューネッシー事件があり、証拠として残されたフィルムの網にかかった死骸は魚竜にみえた。しかし「ウバザメの死骸であろう」という学者の言葉でなんとなくケリがついてしまう。確かに操業中の漁船に腐りかけた死体を残すわけはいかず、投棄されたので調べようはない。

結局の所、謎だけが残された事件であった。前年の「ルーツ」のベストセラーにより、なぜか自分の「ルーツ探し」が一大ブームとなり、それは今日の「自分史」ブームに引き継がれている。

ヤマト劇場公開後の話ではあるが、エルビス・プレスリーの死亡も話題を呼んだ。

巨人軍の王選手がハンクアーロンのホームラン記録を抜きそうになり、日本中が熱狂したのもこの年である。夏頃から八百円から千円の定食を「75×円」定食というサービス品を出す店が現れ始めた。その日までの王選手ホームラン本数で提供する訳である。

これって記録を抜きそうになるほど高くなるんじゃないかと、貧乏学生の私は疑問に思ったものである。

※家庭用テレビゲーム機

ファミコン登場が第二次ブームとすれば、これは第一次家庭用ゲーム機ブームとなる。即ちぐらゐから色々なゲームが出たが汎用チップを使っているの、どれも似たような製品であった。

## 第二章●アニメムックの誕生



※まんが画廊

今はもうないが、いじかられた業界関係者は数知れずいる。後に、ここに引けばO・U・Tと号のバックナンバーが入手できる。とデマが流れた

ともあれ、9月3日にはハンクアーロンを抜く756号のホームラン記録が達成できたのだから、目出度い事であった。

この年の春には、みのり書房からミステリー系の雑誌「O・U・T」が発売されている。

毎号のように判型と紙質が変わり、特集記事も脈絡がない（ような気がする）20代前半をターゲットにしたサブカルチャー探求の月刊誌で、途中一年ほどしてからアニメ誌として定着する本である。この本の創刊2号の特集が伝説に残る「宇宙戦艦ヤマト」であった。

この企画の音頭を取ったのは、現在のファシロードの編集長であり、集まったメンバーがこの当時の特撮系やアニメ系の同人誌でブイブイ言わせていた人ばかりだから、今読んでも内容は濃いつたらありやしない。それが全ての始まりとなる本であった。

外注スタッフばかりだから、各自が作った原稿や画稿は「江古田のまんが画廊」で割り付けられ、校正もここで行われた。

喫茶店に設置された初期のテレビテニスの筐体は、格好のトレス台に変身し、その作業

は深夜まで続けられた。

注釈くらいでは説明しきれないのがマンガ画廊である。その設立も、従業員も不思議な喫茶店で説明が非常に難しい。もともとがアニメ関係の企画者とプロデューサーが設立した店で、純粋な客は何人いたのだろうというくらい業界関係者ばかりが集まっていた。

ともかく発売されたO・U・T創刊2号は、爆発的な人気を呼ぶ。それはそうかもしれない。C・B・Y・Lのスタッフや、第一特集のページを同人誌でそっくり乗っ取ったようなものなのだから（笑）。

発売してしまっただけのこの号は編集部保存分もなく、当時のスタッフが個人記録として保有するだけになったので、O・U・Tが後年になって特集をする場合に関係者から借りなければならぬというくらい幻の本になってしまったのである。この当時の関係者は、1年ほどでO・U・Tから活動の場を変えてしまったから、O・U・Tがアニメ誌となつてからの編集部には創刊当時の様子を知る者がいないという珍現象が発生した。これくらい、創刊時と絶頂期で内容も形態も違う本は珍しいのだ。

一般の人にも劇場公開が認知されるに従い、ヤマト特集をしたOUT2号を求める声が高まるのだが、持っているだけでステータスになる本を手放す人は殆どおらず、ちょっとした騒動になったものである。

さらに、この本は私が知る限りでも7ページジョンもあるのだった。別に増刷されたわけではない。親会社が紙業屋さんだったから、余った紙で本を作っていた。本の小口つまり切断面を見ると、折単位で色の違う紙が見えるのだが、この組み合わせが違うのである。

※女性の数  
ヤマトOUTである女性の発言が多かった。OBYLも代表は女子大生である

※人海戦術  
後にガンダムやイデオンの宣伝活動では、最初から戦術として組み込まれたのだった

※ロープ整理  
この潮流を辿ると、初期のコミケではないかと思う。今でも必需品ですから

(ここまで2号に詳しいのは当時のスタッフだけであろう。いくらなんでも古本屋でバー

ジョン違いまでは集めないでしようから) 劇場公開の準備が進むにつれ、公認のファンクラブ名簿等も整備されていくのだが、女性の数がやたらに多いのには驚いた。

ファンの構造として、ピラミッドの頂点に居るのは男子大学生が圧倒的なのだが、裾野は低年齢層で広がるのではなく、女子高生で埋まっていたわけである。さすがに人手不足で、初期のFC主催者は事務局の手伝いに駆り出されていた時期でもあった。

それでもまだ中核は男子だった時代である。だからこんなエピソードもある…。

劇場公開封切りの8月5日は金曜日であり、夏休みに入った学生も上曜のアルバイトは休みの場合が多く、まんが画廊にいつものごとくゴロゴロしていた。深夜族の走りみたいな連中が多く、深夜4時にまだ馬鹿話をしていた時に電話が鳴った。なんとアカデミー事務局からのものである。

「大変だ。池袋の映画館で徹夜行列が伸びて、大通りを越えてしまった。ロープを持って誘導してくれ」

というわけで、不幸にもまんが画廊でゴロゴロしていた連中は、始発を待たずして池袋に走り、行列を無理やりさばいて公園の中に折り畳むのであった。ファン動員の人海戦術第一号は、おそらくこれだろう。(爆笑)

これがあったからこそ、濃いアニメファンは、整理ロープ引ける体力が必要になっていくのである。

我々は午後からの部でも見るつもりだったが客足は止まらず、結局一週間程してからロードショーを見た記憶がある。



※他の特集

よく覚えていないがハイドロックや白磁ホラーという類柄のない特集であった

劇場公開されたヤマトに、そんなに女の子が多かったという印象はない。だからといって男ばかりだったわけでもなく映画館は若者たちで溢れていたという陳腐な書き方になってしまうのだ。

宇宙戦艦ヤマトは、当初のテレビ放映、再放送、劇場版で微妙にストーリーや音楽が違い、後にビデオ販売された物やLDでもまた少しずつ違うのだが、今はどれがどうだったか説明できないくらい記憶がぼやけている。

初期のファンがこういうのも何であるが、テレビ版の再編集に近い作りの宇宙戦艦ヤマトのロードショーではあったが各地のティーンエイジャーに支持され大人気であった。

もう異常人気といってもよいだろう。その夏に田舎へ帰った時には昔ながらの小さい映画館が、いつものように手描きの看板でヤマトを上映していて驚いたものである。今のようにボジフィルムをトレースして描くわけではない職人芸の看板である。テンタクルズが大蛸が漁船を襲っているように見える看板になるくらいだから、これも壮絶な絵であった。

帝国海軍軍艦の前に浮かぶ船幽霊としか見えない、ヤマトとスターシアはちょっとした見物であった。

逆に言うと、人気があったからこそ、全国津々浦々まで劇場公開されたのである。

興業成績、グッズ販売ともに凄い成績で、さらに米国を始め欧米各国に輸出されたヤマトは大成功を収め、その人気はやはり本物であると評価されたのである。

劇場公開の余韻が冷めやらぬ我々には次の仕事が続いていた。O.U.Tの他の特集が芳しくないなのでアニメ特集のパート2と、アニメと特撮だけの別冊を作ろうという企画である。こうしてO.U.T別冊「ランデヴー」の発刊準備が始まった。これまた個々の人々を書くに語弊があるのだが、マイティジャックの特集等は、怪獣倶楽部系の人々が担当した。ライディーンの特集は、ヤマトアソのメンバーが担当していた。当時の人脈を使えるだけ使ったという不思議な本であった。

当時としては珍しいA4のカラーグラフィックでアニメや特撮に限らず映像媒体を解説するという作りは、後のアニメ雑誌にかなりの影

※大手月刊誌

説明するまでもない事であるが、徳間書店発行のアニメージュの事である

※ハイネル人気

美形キャラといえば、ガルーダ・ハイネル・リヒテルとなるが、やはりホルテスVのハイネルは別格だろう。美形キャラであると同時に物語の舞台骨を支える敵キャラクタイとして描かれ、女の子に大ブレイクした。

響を与えたのである。35ミリフィルムのライディーンを、A4一杯に引き伸ばして表紙にする等は、プロの編集者の美学が許さないとこであるが「見たいから」という理由で、ほとんど砂目状態だったのだが、妙にマニアに受け売を伸ばしていた。

が、大手出版社からの同じような作りの月刊誌が創刊されるという情報で、これでは太刀打ちできないという上層部判断により翌年休刊された。考えてみたら惜しい話だ。

歴史に埋もれた本ではあるが「ランデヴー」という存在がなければ、後に続く本の幾つかは存在しなかった事になるだろう。

昭和52年には6月から始まった「超電磁マシーン ホルテスV」によるハイネル人気で女の子たちが、同人誌を作るのが流行するものもこの頃である。さすがにストーリー解説や設定紹介はほとんどなく、いわゆるパロディ系である。とはいってもストーリーとキャラクターの独自の解釈があったにせよ、内容は多くの男にも読めるものであった。

すこい余談だが最近流行の「やおい」ジャンルという呼称には抵抗がある。いや男同士

のラブラブモードマンガなんざあマジंगाーZの昔からあるのだ。デュークフリードが兜甲児の子を宿した、なんてネタくらいでは、驚かない。

それでも、この当時の路線ではそこに至る（どこだよ）までのシチュエーションが上手な作品が多かった。だいたい絵の巧い人がほとんどだったものなあ。そのうちに、絵は汚いはストーリーはないという類似マンガを描く人間が増えたのである。

またも同人活動をしていた人間は、そういう作品に対する蔑称として「山なし、意味なし、オチなし」を授け「やおい」と呼称したのである。

だから頼む。可愛い女の子が「私、やおいマンガが得意なんです」と自慢するのはやめてくれ。意味が全然違うんだからさ。

まあ、色々な作品が登場した年だったが、男性陣が狂喜乱舞するのは、やはり10月スタートの「無敵超人ザンボット3」であった。

勇者ライディーンの路線変更で消えた富野ロマンの復活である。視聴率的には振るわな

## 第二章●アニメムックの誕生

※長浜忠夫

初期の代表作はなんといつても「巨人の星」である。演劇的な演出を得意とする人、勇者ライディーンの3クール目から総監督。その後に「長浜ロマンロケットアニメ3部作」と呼ばれる「コン・パトラヴィ」、ポルテス・ダイヤモンドを製作する。

※バンクの魔術師

これはファンが勝手に与えた称号。絵を記号として編集したとは思えない演出で、新作部分がほとんどないにもかかわらず別の話にする人という裏め言葉。

かったもののライディーンの前半のムードが好きなアニメファンは多かったのである。

もつとも同じキャラクターを使いながら、ライディーン後半のキャラクター人気にも無視できない熱気があったのは事実である。

この当時の日本サンライズは、1スタと2スタが競い合っているという雰囲気強い時期であった。ガンダム論からやや外れるので割愛するが、長浜忠夫路線がこの時期のアニメファンの底辺を広げなければ、後のアニメブームはなかったのではないかと思う。

なんと言えはいいのだろう。ちよいと難解でマニア受けする作品を楽しむには、誰が見ても面白くて、そこそこの人気があるアニメーション作品がなければならないように思う。そういう意味では勇者ライディーンは象徴的な作品ではないだろうか。後半は後半で、「そのうち搭載武器の重さでライディーンが潰れるんじゃないか」というヨタ話をしつつ楽しめたのだから。うーん、それにしても長浜路線を研究していた男性はどこへ行ってしまったのやら。富野路線ファンにいいめられ続けて消えてしまったわけではあるまいに、

研究本が何ひとつないのは寂しい限りである。ともあれ、ザンボット3の放送は、アニメファンに一大転換期を迎えさせた。一時的にアニメに対する情熱を失いかけていた濃い層がどつと戻って来たのであるから偉大な作品といえるだろう。

「リアル」ってこういう事だよねと皆が納得した、後のガンダムに続く人間ドラマは今見ても斬新である。

ザンボット3は全22話として製作された物語なのだが、放映は23話であった。編成の都合上急速1本製作されたわけで、別にこの話がなくても物語は成立する。

お約束のラスト3話ぶっ続け大ドラマの前にボツンと入る20話「決戦前夜」なのだが、これはこれで見物であった。バンクの魔術師富野監督の腕が冴え渡り、使い回しの4大メカブリストによるザンボット抹殺計画という総集編なのだが、とてもそうは思えない別の話に仕上がっている。

民間人である神ファミリィから接収され、国防防衛軍兵士によって出撃したザンボット3はただの木偶人形と化し惨敗する。睡眠教

※熱く語る聲

四十路の編集者「フイターを集めておけば、一晩や二晩はザンボットを語り続けるだろう」というくらい、ザンボットは熱い話である

※アルバイト

あまりにも多くのアルバイトをやったので、年代が合わない事がかなりある。怪しい学生もいたもんである

育により戦士として育てられた彼ら3人でな

ければザンボット3は戦闘ロボットの役目を果たさないというロボットの主人公の定義

を明確にした上で、最終決戦に向かうのだ。

あつ、ザンボットとなると熱く語る癖がまだあるようすな。話を進めましょう。

さて、ヤマトのムーブメントは別の方向も生み出していた。それは過去のアニメーション作品に対する再評価である。

ファンからすれば、懐かしの作品であるが、商業的にみれば「既にあるフィルムでもう一稼ぎできる」である。ヤマトの劇場公開により、過去に放送された名作アニメーションを再評価する動きが出た事で、市場には今まで存在しなかった本が生み出されたのである。

本一冊をまるまる特定の作品の特集で埋めるムックの発売である。不定期刊の雑誌と考えてもらえばよいだろう。今あなたが読むこの本も、大事典シリーズもムックである。マガジンとブックの合成語であるムックというジャンルができたお陰で、随分色々な事ができるようになったのだ。今まで過去の名作アニメは文献として残されていなかった。

## アニメ作品の再評価

子供向けの本くらいしかなかった頃であるから、特集ページをファイルしたくらいでは、肝心の事はまるで分らない。例えば、昭和49年放送「アルプスの少女ハイジ」だと、一番正確な記録でも週刊TVガイドのカラー1ページのストーリー紹介だけである。

ハイジの頃は基本的な説明で良かったが、「赤毛のアン」になると放送の2カ月前にある素材で構成しなければならぬので、第30話「虚栄と心痛」あたりではバンクのない、髪を切ったアンは絵を修正してあつたくらいだ。それですら貴重な資料なのである。

アニメ作品を完全記録する媒体なぞどこにもなかったのだから仕方がない。時たま雑誌で特集されても、いつも同じ番組宣伝用セルに、いくばくかの説明がつけられたものでしかなかった。それならば大特集で本の半分を使うよりは、本一冊を丸ごと一つの作品に使う方がいいのではないか。というわけで、この年からアニメムックが爆発的に普及する。

※吉田竜夫

挿絵画家として出発し、

漫画家でも人気者となる。

初代タツノコプロ社長。

代表作として、大空の

海底人8883、パイロ

ットエース、チャンピオ

ン太、少年忍者部隊月光

宇宙エースがある。

タツノコプロ第一作は

『宇宙エース』、第二作

は、カラー作品『マッハ

GOOGO』である。

パイロットエースを発展

させた作品がマッハGO

GOGOともいえる

※ファンタステックコレ

クション

ファンコレを読み、子供

の頃に見ていたウルトラ

セブンがこんなに凄い人

間ドラだったのか、と

感動した人間が、後に

LQを見て、詐欺だ、と

叫んだくらい、本編より

も情急の入った本だった

※人脈

生き残りから推察するに、

やはり特撮関係のネット

ワークが強かったと思わ

れる。アニメ系はこの時

代より前には存在してい

ても横の繋がりがない

本当に慌ただしかった。秋以降の記憶が、  
いったいどの本を作っているのか定かではな  
いくらいである。

朝日ソノラマはムックで「科学忍者隊ガッ  
チャマン」を出し、少年画報社はムックで、  
「海のトリトン」を出版した。

ありがたい事に、前例があると出版社の上  
層部を説得しやすいものである。どちらの企  
画書にも「ヤマトのような」のひとことがあ  
るだけでスナナリ通過したのを覚えている。

「ガッチャマン」は、企画とフィルム選び  
までで手を離してしまつたが、「海のトリト  
ン」は最初から最後まで編集できた最初の本  
であつただけに思い出深い。

昭和52年の秋に、朝日ソノラマの村山実部  
長に、名作TVシリーズを一冊のムックにす  
る相談を受け、その第一弾として「科学忍者  
隊ガッチャマン」の構成依頼が来た。

そこで、大学生になつてから務めていた労  
働省の防弾研究所の助手をやめ、ライターの  
バイトで生活するという恐ろしい選択をした  
のもこの頃である。

ガッチャマンでは、フィルムを3本使う決

定があつたので67話「必殺ガッチャマンファ  
イアー」をメカ解説用に、81話「ギャラクタ  
ー島の決闘」をコンドルのジョー解説用に、  
そして最終話「地球消滅002」を選んだ。  
今考えてもツボを押さえているなあと感心  
するのだが、ここに吉田竜夫氏の計報がもた  
られ一時作業が中断する。

私は、そのまま海のトリトンの編集に入り、  
手を離れた本からは結局「ギャラクター島の  
決闘」は割愛されてしまふのだった。

これが朝日ソノラマ発行の、ファンタステ  
ックTVコレクションの1号である。同時  
発売されたファンコレ2号こそが、今も特撮  
マニアのバイブルとされているあの「空想特  
撮映画のすばらしい世界 ウルトラマン ウ  
ルトラセブン ウルトラQ」である。

なんのことはない、ヤマトでクロスオーバ  
ーした人脈は、アニメ系と特撮系に別れつつ  
も同じような仕事をしていたのだった。

結局、11月に発売されたランデヴーも吉田  
竜夫追悼特集で「これがタツノコSFだ！」  
になつており表紙は当然ガッチャマンだった  
から、ちよつとしたガッチャマンブームと

※海のトリトン

SFマガジンのテレビ  
トロンで呼びかけた人がい  
て、全国ネットのファン  
ダムになった経緯があり、  
元はSF系。なにしろ第  
一回大会はSF大会の会  
場であった

※プロデューサー

もちろん西崎義展プロデ  
ューサー。虫プロ時代は  
マネージャーからスター  
トしており、その管理方  
式はアメリカンスタイル  
で、泣き落としが使える  
いアニメーターたちには  
かなり恐れられていたそ  
うである

なった。昭和53年7月に科学忍者隊ガッチャ  
マンが劇場公開される遠因となっている。

というわけで、私が企画からフィルム選考  
から編集までを通してやった最初の本が「海  
のトリトン」であった。

このアニメ、結局のところ私の人生を狂わ  
せた元凶である。これがなければ全国のSF  
研究会の連中と知り合う事もなかったのだが、  
彼らに言わせると「お前が我々を巻き込ん  
だ」そうである。

トリトンからヤマトというラインで考える  
とプロデューサーが悪いのだが、トリトンか  
らガンダムで考えると、犯人は監督！（笑）

海のトリトンは虫プロで製作されたアニメ  
ーションであり、そのせいか虫プロ出身のス  
タッフに助けてもらう事が多かった。この時  
に野崎欣也プロデューサー（当時サンライズ  
所属）が事前交渉を全て仕切ってくれていな  
ければ、このムックは絶対に完成しなかった  
であろう。

現在、企画制作会社の「仲童社」社長であ  
る野崎氏は、この時期から学生を発掘してブ  
ロ社会にデビューさせるのが得意な人であつ

た。そういう意味では、野崎さんは私の頭の  
あがらない恩人のひとりである。

さて、手塚治虫アニメ選集の実験として企  
画が開始されたトリトン本だが、原作「青い  
トリトン」の手塚先生からは快諾が戴けた。

手塚アニメの主題歌レコードの解説等をあ  
ちこちのレコード会社でバイトでしていて面  
識があったのは幸いであった。なぜか学生が  
アルバイトでアニメーション関係の仕事をし  
ていると親切に話かけて下さるのが手塚先生  
の常であったのだ。

問題はフィルム権利者の西崎義展プロデ  
ューサーにムックとしての最終の許可を貰う必  
要がある事であった。

なんと飛鳥鳥を落とす勢いの西崎プロデ  
ューサーに内容説明をして許可をもらって来る  
役目は、いつのまにか私になっていた。なぜ  
か、直接話して許可をもらうのに、大人たち  
はビビっていたという印象がある。（笑）

西崎氏の行動についての悪口風聞は本が一  
冊つくれるくらい多いのだが、私が直接会っ  
た時の印象はかなり違っている。

ちよっと前の昭和48年に訪日中の金大中氏

## 第二章●アニメムックの誕生

※ヘプタボーダ

海のトリトンに出た唯一の女性キャラ。海グモの牢獄にトリトンを閉じ込める役回りだが、ボセイドンを襲ってしまっ

※善悪の価値観

最終話、海の悪魔ボセイドンを倒したはずのトリトンは、海底に隠れ住む数々のボセイドン族を皆殺しにした事に気が痛く、赤ちゃんを抱き抱えたまま倒れた女性の映像にはショックを受けたものである。

これだけ読んでも善野監督作品ってわかるでしょ

がKCIAに拉致されたので一躍有名になったパレスホテルに、西崎プロデューサーのオフィスがある。ここなら少年画報社から歩いて15分もあれば到着するので、定刻30分前に到着し待機した。

そこへ西崎プロデューサーが現れたので、大学ノート二冊に記事のラフを書いた物を提出し、冷や汗まみれの説明を始めた。(笑)(この冷や汗の原因が、オフィスに隣接するサンルームである。ほとんど温室状態の花壇があり、ちょうどこの時に飛び出して来た蜜蜂に左腕を刺されたのだ。さすがに、痛いものなると騒ぐわけにはいきませんからねえ)

バラバラと手書きの記事説明と見出しを見ていた西崎プロデューサーは、突然鋭い声で私に質問を飛ばした。

「このピンナップになぜ、ヘプタボーダなのですか」ギクッ!

まあ正直に答えるしかないではないか。

「私の趣味です。子供用の本であれば、トリトンとルカーを中心にしたセル画でしょうが、この作品は、善悪の価値観の相対性を問う物でした。だとすれば、ボセイドン族でありな

が太陽を望んだヘプタボーダは作品の象徴でもあると思います」

「よろしい。そういう考えで本を作るのであれば、詳細はまかせましょう」

気が抜けた。あまりにもアッサリOKが出たので、驚いたせいである。

「あの、他の説明は……」

「いいません。トリトンがどんな作品であるのか、あなたはわかっているようです。新しい本にして下さい」

というわけで、一任されてしまったのだ。

不思議な事に、巷で言われるように決定が二転三転するような事も、理不尽なスケジュールを押し付けられる事もなく、トリトンは順調に制作が進んだ。なにしろ西崎プロデューサーの時間が取れないので、プロデューサーメッセージすら私が代筆させてもらったくらいトリトンに関しては意見が一致したのである。

だから、西崎プロデューサーに関しては、「話せばわかってくれる人」であるという印象しか私は持っていないのである。

直接の利害関係がなかった人間からすれば、

人の印象はこんなに変わる好例であろう。

この時のラフスケッチでは、ヘブタポーターはヘルメットからちよいと髪の毛を出していただけたが、画稿依頼時には独断でヘルメットを海底の砂地に落とし、ロングヘアーをなびかせるという卑怯な真似をさせてもらった。辛いどころかもクレームはこなかった。

なにしろプロデューサーチェック済みの内容であるから、思う存分マニアックに作れた本なのである。

で、この「海のトリトン」ビデオもない時代の編集であり記憶だけで作ったのだが、トリトンFCの協力を得て、ツボは漏らさず押さえてあり、いきなり10万部が完売してしまうのだった。しかしそれだけ刷った少年画報社も太っ腹だと、今にして思う。

で、これがきっかけとなって海のトリトンも後に劇場公開されるのだが、さすがにファンの絶対数は少なくブームにはならなかった。だいたいトリトンは完結した物語で誰ひとりとして、続編を望む者はいなかったのだ。

この本のデザイナーやレイアウトの料金、それにフィルム代や画稿料、富野監督を初め

とするスタッフのインタビュ料などは、一括して野崎プロデューサーに管理して貰っている。つまり私は仲間を集めて編集だけをしたという本なのだが、これに妙に自信を持って、以後の手塚治虫アニメ選集を6冊編集してしまうのだから怖い物知らずな若者であった。

（これが富野さんへのインタビュの最初でもあった。もともと、コメントとしてまとめてしまったので面白みには欠けるのだが……。だって面白い話をいっぱい聞いたのに掲載するスペースがなかったんですよ）

そんなわけで、冬の間はせっせと編集を続け、翌年春の「どろろ」から始まり、「鉄腕アトム」、「ジャングル大帝」、「悟空の大冒険」、「W3・新宝島」、「リボンの騎士」まで、ほぼ月刊で夏まで遊ぶ暇も学校へ行く暇もないまま（笑）本を作り続けたのである。

しかし、今考えてもよくやったと思う。それだけ周囲にいた仲間が優秀だったからなのだが、逆にこの半年ほどの外界の様子はほとんど記憶にない。困ったもんだ。

余談ではあるが、このシリーズには印刷セ



## 第二章●アニメムックの誕生

※印刷セル面の欠点

最近こういう付録がないのは生産効率の問題。本は裁断機で形を整えるのだが、特殊カッターの刃が、セルで滑り折れる場合がある。機械が一度止まると発売日が危なくなるのだ。

※和光プロダクション

名作「アンデス少年ペペロの冒険」を製作したスタジオ。この頃は「合身戦隊メカニダーロボ」を放映中であった

ルという本邦初の付録がついている。座るトリトンがセル印刷、背景が本誌に印刷された物で一時期ブームになった。このテスト製作は大日本印刷と相談し、透明ポリエチレンにカラー印刷をした後に、シルエット状態で不透明白インクを乗せて透けるのを防ぐという秀逸なアイデアである。

この実験中に、撮影ライトを接近させ過ぎた印刷所が、私の秘蔵の「リボンの騎士」の背景付きセル画を燃やすという事故があり、以後暫くは「この件をネタに」多少の原稿遅れは、大日本印刷に関しては黙認してもらえ下地となったのである。(笑)

だけど、このセル、あのカーニバルの夜の「亜麻色の髪の乙女」になっている「サファイアがフランツ王子と花火の夜景の前で見つめ合う」という名場面中の名場面で、今でも惜しい事をしたと思っている。

(完全にオタクモードの懐古録だな)

とにかく、今までのプロ編集者では、アニメーション関係の本が作れないという実証がこの時にできたのではないだろうか。

映画が好きでなければ、映画の本が作れない

いと同じ理屈なのだが、それまではアニメといえど子供用という概念が強く、子供雑誌でしか扱われなかったのだ。まあ、これは怪獣映画と言われていたジャンルを特撮映画として評価するようになった集団と、テレビまんがと言われていたジャンルをアニメーション作品として評価するようになった集団の共同作業だったのかもしれない。

現実問題として、この当時に特撮かアニメのムック編集に携わった学生たちは、今でも現役の編集者かライターをやっているのだから、あながち間違いではないだろう。

この年は、まあそんな年だった。一連のシリーズが終わった私は、6月になるとやっと暇ができるようになり世間の動きも見えるようになる。その後も中途半端な外注編集時代が続くのだが、そこそこ仕事はあった。

「あいつに本を作らせると損はしない」という評判が立ち、このシリーズの途中に池袋のマンションの一室に事務所を持ったりしたのである。考えてみたらトリトンを作った時には、桜台の和光プロダクションのフィルム編集室に居候して本を作っていたのだ。

和光プロダクションは後にここを改装してアニメショップも初めている。

池袋の事務所は、東口から歩いて5分という立地条件だったので、仕事には便利だったが、終電を落とした人間がいつもゴロゴロしている魔窟のような場所になってしまったのである。

逆に物品提供も随分させたように思う。だからアニメーターの机や、トレース台、なぜか脚の折れたソファという不思議な家具が多かった。もちろんAV端子が使えるトリニロンや冷蔵庫を持って来る人間もいたので、編集をするには困らない環境だったのだが、この当時は、豪華な四畳半、押し入れと流し付きのアパートへ引っ越していたのだが、帰宅するのは三カ月に一度であった。

※池袋の事務所

説明企画という名称。アニメック5号を編集したのを最後に閉鎖したから一年半くらいの寿命であった

※アパート

板橋にあったが、ほとんど帰宅する事がなく、ある日一階に住む新聞配達員が火を出し丸焼けとなる。これにより昭和55年くらいまでの貴重なコレクションを消失。アニメ文化財というほどのものはないが、ヤマト水筒もここで消えてしまった(笑)

幸い、この当時の事をちよいと回想した漫画があったので少し再録。ちなみに、このフカフカの絨毯は、プロデューサー執務室に敷く予定が色に食わないという理由で廃棄処分になったのを、貰って来たのだった。



## 第三章●アニメックへの道

# 混乱の ガンダム前夜

※岡本英郎

デザイナー兼イラストレーターとして活躍中。サムライトルーパーの艦デザインは有名

※四ツ谷公栄堂

けっとう色々なイベントが行われた場所。その帰りにアニメショップに寄るのがアニメファンの定番だったのだが、もともと動めるようになると思わなかった(笑)

※バンパイア

手塚治虫原作のテレビドラマ。変身シーンはアニメーション合成であった。もともと虫プロを舞台にした話であるから当時の西武池袋線富士見台駅から、虫プロに至るロケーションが記録されている

## マリック誕生

池袋の事務所では、フリーの人間が毎日のようにゴロゴロしていたせいで、どこから仕事が増えても器用にこなせる妙な集団が出来上がっていた。ゴッドシグマのミニカードを描いて欲しいという依頼に、たまたま遊びに来ていた岡本英郎氏が応じたりしていた。

彼はまだ高校生だったから、これがプロの初仕事ではなかったろうかと記憶する。

便利で安くて締め切りに間に合うという事で、色々な所から本を作らないかという引き合いがあったのは嬉しいのだが、どれも企業本であった。つまり自社のスポンサーをしている作品に限るという制限があったので、丸受けはやめ、記事単位の受注しか受けないようにしていた。

そこへ依頼にやって来たのが、アニメックの部長さんである。月刊の新聞を作るのでアニメーション紹介と解説をして欲しいという依頼であった。アニメックというのは色々なグッズを販売していた会社だが、前年からア

ニメーショングッズの製造販売に力を入れはじめた会社である。(この時点では外から見た目で書くしかない)

「ヤマト関連商品はここに行けば全部揃う」と若者に評判の会社であった。たしか、四ツ谷公栄堂のイベントの帰りに寄った記憶がある店である。

こうして、アニメックで編集をする事になるのだった。

さて、やつとアニメック誕生の話題まで漕ぎ着けた所で、昭和53年のアニメーション事情である。はいからさんが通る、銀河鉄道999、未来少年コナン、ペリーヌ物語、闘将ダイモス、宇宙魔神ダイケンゴーといったところで、ザンボットの後番組として無敵鋼人ダイターン3が始まっていた。テレビドラマとしてはバンパイアの主人公トッペイを演じた水谷豊が熱中時代の先生を熱演している。世相としては4月4日のキャンディーズ解散が大事件であろう。なぜかアニメファンのくせに「俺の青春が終わった」と嘆く青年が多かった。まあ彼らはその後も同じような台詞を言い続けるのだ。(もう中年だが)

### 第三章●アニメックへの道

※なんちゃっておじさん  
酔っ払いのオヤジが電車  
の中でフツフツ独り言を  
呟いたり泣き出したりし  
て、乗客が興味を持つと  
ばつと裏面になって「な  
んちゃって」と去って行  
く現象。私も見た、僕も  
見たという噂が先行し公  
開調査もされた都市伝説  
の一種である

※アシノコン

1978年第17回SF大  
会「ASINNOON」  
ホテル貸し切りで分科  
会をメインにした大会で  
数々のエピソードを生む

池袋の巣鴨ブリズン跡地にサンシャイン60  
が完成、池袋の人の流れが変わったのもこの  
年である。これは池袋駅前に住んでいたから  
実感している。

王貞治選手は、とうとうホームラン世界記  
録を800号まで延ばした。映画といえば、  
スターウォーズが国内で公開され、大人気で  
あった。やっぱり本家は凄いもんだと感心し  
つつストーリー的に過去の国産アニメのモチ  
ーフがあちこちに見えたりもした。

そういえば国電に「なんちゃっておじさん」  
が登場し話題になった。私がそうだと名乗り  
出た人が、いきなり否定したりしたどうでも  
いいような騒動もあった。

大韓航空機が誘導装置の故障と思われる事  
故でソ連の領空侵犯をして撃墜されるという  
物騒な事件もあった。

アイビールック普及に貢献したVANが倒  
産したと書いても、若い人にはピンとこない  
事件もあったつけ。

この年の一発ギャグでよく使われたのが、  
イギリスでの試験官ベビー誕生のニュースで  
あった。

アニメックからの依頼は、ある意味ではこ  
ちらの希望に沿っていた。一応放送している  
アニメーションは全部扱えるわけだし、グッ  
ズが売れるというのは、編集してみたい作品  
が多いということでもある。

受けてくれるなら、秋頃には編集部を設立  
するという事で話が進み、事務所の整理をす  
ると同時に、編集スタッフを揃える準備をし  
なければならなかった。

それでも7-8月はあまりする事もなく、  
学校も休みだから余裕はたっぷりあった。

話が前後するが、少年画報社の仕事を終え  
た6月には、徳間書店からアニメージュが創  
刊されていた。この夏に新作劇場公開される  
「さらば宇宙戦艦ヤマト」を大々的に紹介し  
た創刊号である。

メジャーになったヤマトに、我々は妙に冷  
めてしまっていた。というよりは前年に放映  
された「無敵超人ザンボット3」を見てしま  
うと、今さらヤマトに戻れなくなってしまう  
ていたのだが。

この夏、ヤマトよりも記憶に強いのは箱根  
で開かれたSF大会アシノコンであった。

※トリアンクル

トリアンクルは全国組織だったが、最後まで活動を続けたのは神奈川支部であった。というが、フロになっちゃった人が多くて最後の会話は原稿が揃ったまま20年間凍結されている。あれが出るまででは解散とは言わないのだ(笑)

※池田憲章

現在CS放送に加入している人なら毎日、海外TVドラマ紹介番組「池田憲章の検証ファイル」でお馴染みだろう。特撮を語らせたら、この人の右にも左にも出る人はいない日本特撮ドラマの重鎮

## 関西芸人とのファーストイベント

この大会は部屋別に色々なイベントが同時多発に開催される特殊なものであったが、中でも良かったのは、トリートンFC神奈川支部平塚町内会主催の(しかし凄い名称の団体ではあるな)ザンボット3上映会である。

まあ著作権等の細かい事には目をつぶってもらうとして、当時としてはまだ珍しいベータビデオで、ザンボット3を全部録画していた人間がいたのだから凄い。

実際問題として上映会をする許可は、当時のスタッフがしっかり日本サンライズに「番組広報」として許可を取り付けているから大丈夫なのだが、呑気な時代だった。

今でこそSF大会で、アニメーションの話をするのは当然だが、まだアニメなんてSFじゃないという風潮があった頃である。

しかし、ガリガリ硬派のSFファンがザンボットを見て「こりゃあSFだ」と泣き出したのだから大成功と言わざるを得ない。

方、特撮勢も頑張っていた。

池田憲章先生に至っては、特撮の良さをアピールする同人誌を背負って駆けつけたものの数が足りなくなり、再び東京に行くという強行軍を繰り返していたものである。

しかし、背負子に同人誌を山積みにした池田憲章先生が山を登って来る姿はインパクトがあったねえ。なんだか、SF大会を特撮とアニメで乗っ取ったような大会であった。

かなり余談となるが、後年アニメ界に大きな影響を残す二人組にも触れておきたい。

関西からやって来た二人組の学生が部屋も与えられず自動販売機の横で漫画をやっていた姿も忘れられない思い出である。

ともかく迫力がある。ネタとなった作品のツボの押さえ方がマニアックなのである。

二人だけで、高速エレベーターカーによるファイアーフラッシュの救出劇の再現ができるなんて誰が想像できるだろう。

(この芸が理解できるには、この説明でサンダーバード第一話のクライマックスだとわかるくらいマニア指数が高い必要もある)

自分の部屋に戻った私は、思わず彼らの雲の凄さを吹聴していた。そうしたら次に廊下

※OPアニメ

関西の学生が自主制作したアニメ。このメンバーが、セネプロを作り、今のガイナックスに至る。人を楽しませるという事では筋金入りのプロ集団なのだ。

を通ると黒山の人だかりになっているではないか。なんと口コミで噂を聞いた人が集まっていたのだ。

ついに人の集まらない小部屋が彼らに解放され、徹夜で芸が練り上げられて行った。

この見る者へのサービス精神は、見上げたものである。ともかく飽きさせない、さらに前回受けの悪かった部分は改良され、良い部分はさらに面白くなっているのだ。

翌朝、遂に彼らの芸を見たいという参加者の要求により大食堂が解放された。徹夜で芸を練り上げた彼らの演技は湧え湧り、万雷の拍手と爆笑に食堂は包まれた。

プログラムにもない出し物でこれだけの人数が集まるというのは前代未聞である。

こうして、SF大会で全国の人間にその芸を披露して「関西芸人」という最大級の賛辞を受けた彼らは大阪に凱旋したのである。

岡田斗司夫&武田康廣の名前を東京ファンタムの人間が記憶した最初のイベントであったのだ。もともと世間が彼らを再評価するのはダイコンIIIのオーブニングアニメまで待たなければならぬのだが……

## 新宿御苑物語

10月になり、私と副編集長U杉は新宿御苑のアニメックに向かった。店舗の4Fに編集部を開く予定であったが、店舗が急激に大きくなったせいもあり、編集部を作るスペースがなくなっていた。しかたなしに倉庫として使っていた木造アパートの二階を使う事になるのだが半年後、ここにラポートビジュアルを建てる事になり何もかも壊ただしの中でスタートである。

いくら月刊でタブロイド判36ページの新聞とはいえ、二人ではどうにもならないのかつての同人誌仲間にも声をかけ、夜中と休日には人手が集まるように手配していた。

が、ここで大きな変化が起きる。海野榮一社長（現会長）が、とんでもない事を言い出したのである。ひとまず、商品紹介と通販のページは出来上がっている、残るページのサンプルを作ったのだが、これを見て。

「うーん、これは新聞にするのは惜しい。こうやな、半分に折って64ページの本にしたら

カストリ雑誌

戦後の混乱期に出た粗悪な雑誌の総称。その頃の粗悪なカストリ雑誌を三合飲むと酔い潰れたことから、今でも三合目には消えてしまうような曖昧な本の総称とされている

どうや。できるやろ」

無茶苦茶である。(笑)だいたい新聞と本では構成からして違う。

「あの、印刷はどうします。製本作業ができないと本になりませんが」

と、まあ一応お伺いをしたのだが一蹴されてしまう。

「これだけポスターや葉書を作る印刷屋がいるんだからなんとかなる」

この時点ではアルバイト待遇の編集長という信じられない立場の私としては従うしかないではないか。

こうして、表紙二枚と中二枚はカラーで、残りは白黒ページの64ページの本を作る事になった訳だが、知識のないというのは恐ろしいものである。後に色々な話を聞くが、このような行き当たりばったりで雑誌を作った会社は前代未聞だそうである。(笑)

さらに一ヶ月後の11月18日は本が出来てしまったのだから、若さというのは凄いですね。こうして誕生したのが「マニフィック」創刊号なわけです。

これを一万部も刷ってしまってから、どう

やって販売するか考えた始めたからまた凄い。なめちゃいけませんね。薄っぺらな本とはいえ、印刷所から運び込まれた本の山で、営業部と社長室は人が入れなくなってしまうのですから。

しかも100円で作れるはずの新聞が64ページの本になりますと、定価も400円にもなってしまうのだった。

「売るのはなんとかするから、次の準備をしないさ」

社長は強気で2号の発行を命じます。

「あの、販路が確定するまで様子をみたら」とは言ったのですが聞きません。

「3号までで潰れたら、そりゃあカストリ雑誌じゃ。この海野、カストリ雑誌は作らん」と、いうやりとりがあり、我々は次号の編集を始めたのである。後に聞くところによれば、社内では「本」を作る事に反対の声が上がっていた。創刊号と2号は、誰がみても赤字の作りなのだから当然といえば、当然であろう。こうして年内に2号続けて本を出せた事により、なんとか先が見えて来たのである。

機動戦士ガンダム放映の半年前の事だった。





※コミックマーケット

今年で23周年目を迎える  
日本最大の同人誌即売会  
昭和53年当時も、日本最  
大規模であった

## 月刊マニフィック創刊

ガンダム伝説の解説を始めたつもりが、随分回り道をしてしまっている。もう少しでガンダムの放映が始まるので、今しばらくご辛抱を。(笑)

ともかくにもアニメックが、まだ世間に認知される前のガンダムを扱った理由を説明するには、月刊マニフィックの状況を書く必要がある。これにはファン主導によるガンダムの大ブームが巻き起こる要因が隠されているからだ。

月刊マニフィック創刊号は、なんと12月号として昭和53年11月18日に発売された。当日に買ったのは新宿御苑のアニメック本店に買いに来たお客さんだけである。発売日に売れた数、実に132部だけであった。

考えてみれば、土曜とはいえこれだけの数が売れるくらいお客さんが殺到していた時期なのである。

で、ここまで書いてから無謀だなあと自分でも思います。

なんとマニフィックは月刊誌として流通も通さずに、通信販売をメインとして発売されたのです。

いってみれば、月刊同人誌ですからねえ。ものはいいのに脱線すれば、創刊当時のメンバーはコミケスタッフも兼ねている者が多く表紙裏に「コミックマーケット10」の告知を入れている。

この当時でも3周年の歴史を誇るコミケではあるが、昭和53年12月17日に開催される第10回にして、募集サークル数がたった200スペースなのである。太田区産業会館の3Fと4Fをびっしり使ってもこんなものだったのだ。

最近のコミケは三日間開催で参加サークルにして約3万なのだから大きくなったものである。

一部の資料にはマニフィックの事がタウン誌と記載されているが一応アニメ誌であった。創刊号では「秋のテレビ局訪問」をメイン特集にし、秋のアニメーション新番組を全て網羅しているのだし、10月14日にスタートした「宇宙戦艦ヤマト2」のスタッフインタ

※交換邦

コミック&アニメ研究家でライターなのだが、中国筆法の達人で、現在は筆先の研究家

※中島紳介

月刊ニュータイプの編集スタッフであるが、アニメと特撮のフリーライター。怪獣倶楽部は廣沢雅彦氏と二人で編集されていた。後にゆきまぎみのカットでお馴染みの名エッセイ「アニメックスデーション」を連載する

※星敏

GUL研究家。国内GUL作家の資料とインタビューは完璧に網羅している



ビューと新装開店したアカデミー事務局の紹介もしている。

ただ単純にアニメ専門誌とは言えないのは、プロアビュー前の安積邦が「少女マンガにおける歴史ロマン」としてコミック評論をしていたり、ペーパークラフト界ではまだ無名の森紀子が、小説版のキャプテンフューチャーの愛機コメット号のオリジナル製作を手掛けているという事だろう。

さらに異色連載と言われた池田憲章の日本特撮映画史は、創刊号から掲載されている。

それも大ネタであるウルトラマンだ。

ファンコレでウルトラマンを編集してから一年で、彼の文体は独特の憲章節と呼ばれる円熟味を増していた。まだ20代前半である。

池田憲章は、ファンコレと平行して特撮映画史の執筆をしていたわけだが、その他にも

怪獣倶楽部のメンバーや、後にアニメリレーエッセイを連載する中島紳介と組んで精力的に特撮映画の評論を発表している時期である。

この時期にはキングレコードでウルトラマン大百科というレコード企画の解説も書いており、その縁でキングレコードがカラーペー

ジに広告を入れてくれたりもしているのだ。

純粋SF畑からは、星敏に参加してもらい日本作家のSF書籍の解説をしてもらっている。初回はほとんどリストの網羅で終わってしまったのだが、彼は豊田有恒氏の門下生として東京SFファンタムの重鎮となっていく。

後に企画集団バラレル・クリエーションを設立するのも、星がいなければ不可能だろう。

まあ、かなりいい線をついた執筆陣だ。

こうして説明すると、マニフィックは当時の若者サブカルチャーであったSFとアニメと特撮とコミックを全部網羅してしまえという、とんでもない本だったのである。

さらに驚異的なのは、後に本誌名物となりファンロードにも引き継がれる読者参加のページが、創刊号だというのに10ページもある事だろう。

出版社系列のアニメ雑誌であれば、別冊で募集をした時の読者もいようが、マニフィックではこれができない。読者欄を重要なポイントとして考えていた私は、夏から自分のサークルや友達のサークルに声を掛けペーパー

※グランプリの鷹

東映動画の製作したアニメ番組。F1チームで幾つかの番組が製作されたが、これが唯一のリアル路線であった。主人公のライバルとしてニキ・ラウダをモデルにしたニック・ラムダが登場する。最終回のレースは、実写勝負の演出であった

を配りながらリサーチしていた。

その時に貰ったアンケートへの記入を中心に  
にして作成したものなのである。店舗に集まる  
アニメファンにしても、当時としては最先  
端の感性を持っているわけだから、積極的に  
声をかけて意見を集めた。

マニフィックという誌名も、一般公募で決定した。

これは、創刊40日前に30000通のアンケート  
ハガキを送付し、締め切り日までに到着  
した物の中から選考している。

マニア+F1C（「化するの意」）で「マニア  
化する」という造語である。なんて恐ろし  
い名前の本なのだろう。

山形県酒田市に住む当時19歳の池田由美子  
さんが映画版の「美女と野獣」に登場する、  
白馬マニフィックから強引に考えてくれた誌  
名なのだ。

たしか彼女はアニメFCユートランドの会  
員だったと記憶する。

そういえば、創刊号にはユートランドの会  
長が「グランプリの鷹」の評論を特別寄稿し  
てくれている。

それは嬉しいのだが、作品モデルになって  
いる77年のワールドチャンピオン、ニキ・ラ  
ウダの写真を入りたいという無茶な要求で、  
ひとまず実車のレース写真を掲載したのだが  
結構な版權料をF1事務局に支払ったもので  
ある。

今、記録を見たら1点1万円で2点使用と  
なっていた。当時からF1版權は高いようであ  
る。

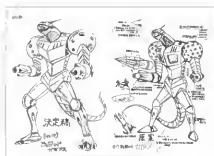
まあ、マニフィックという本は、当時の私  
が持つ人脈をフル動員して作った大規模同人  
誌だったわけで、これは否定しないどころか、  
今でも自慢の種である。（笑）

通販で3千部を販売し、残りは店舗に置いて  
実際にのんびり販売する月刊誌。昔はこんな  
本もあったのである。

なお、定期購読を前提にした本とはいえ、  
青少年が出せる額は500円というアンケー  
ト結果により、本誌400円、送料200円  
のところをちょきり500円の通信販売にし  
ていたのだ。マニフィックという本はトータ  
ルすると赤字という恐ろしい本でもあった。

※ハイジのピンナップ

とつてこんな不思議な  
編込み付録にしたのかは、  
記憶にない



※当時掲載された出渕氏の  
イラスト

## マライック2号

これが発売予告通り12月15日に出たのは奇跡に近い。翌年春公開のアルプスの少女ハイジ劇場版のカラー特集もある、かなりアニメ誌らしい雰囲気となっている。

表紙がハイジというだけで、かなり好評であった。

一点キカイダーが混じっているのは日本特撮映画史の第二回が「人造人間キカイダー」だったからである。(笑)

B3版変形のハイジのピンナップを付録にしたのだが、なんと四つ折りにして中綴じの本誌と一緒に製本してある。つまりピンナップを取り出すにはホッチキスを抜いて一度本誌をバラさなければならぬわけで、読者から罵声を浴びせられた。

なにしろそのままでは絵を見る事もできないのである。

2号は、この劇場版ハイジの特集があるおかげで、アニメックが出る頃もバックナンバーとして注文が来たものだ。

それにしても内容の充実には目を見張る物があった。

たとえば、關将ダイモスでプロデビュールしたばかりの出渕裕のメカデザイン講座なんてものもあったのだ。プチメカ誕生の経緯はここで語られている。

ヤマトのバーティに出掛けた高校生の出渕氏は、ここでスケッチブックに描いていたオリジナルメカを認められ、ちよつとサンライズに遊びにおいでとなったのである。

ヤマトの打ち上げバーティに高校生が呼ばれるのかと疑問に思う人がいるかもしれないので説明しておく。

招待されたのは、ヤマトの成功に関与した業界関係者だけでなくファンジン関係の人間も相当数呼ばれていたのだ。だから高校生や大学生もそれなりに混じっていたのだ。

出渕裕を、メカデザイナーという道に引き込んだのは、野崎プロデューサーと長浜監督であった。

ともあれ、一回限りのやられメカに対する情熱と、それが作画用に線減らしをされていく過程が、メカデザイナーの視点から熱く語



られていた本邦初の記事であった。新しいジャンルが誕生する場合には、多数の人脈が錯綜するものである。

この号では、現在トンデモ本研究の第一人者志水一夫氏も「半地球の研究」というSF論文を執筆している。

日本で何かの研究と言うと翻訳された文献の引用をまとめた予引き、孫引きが大変多い。

志水氏の場合は、豊富な知識により多数の原書に当たり、その中からの共通因子を指摘して全体像を描くというオリジナル手法で、このスタイルは確立されて行く。

後にノストラダムスの大予言も、原典を参照して細部を洗い出し「日本独自の翻訳」になっているのを看破している独創的な研究家である。

マニフィック2号は、本としてはレベルが上がったものの、作る側の体力に限界が来ていた。夢中で動いている間はよかったのだが、ここに来て私と副編集長はやつと理性を取り戻したというべきだろう。

「やっぱり、月刊って無理があるんじゃないだろうか？」（爆笑）

もともと通販告知用のニュース新聞を月刊で出す予定だったのだが、これが本になるとかなり手間暇がかかるのである。

深く考えるまでもなく、基本要員がたった2名では、月刊誌は作れるわけはなかったのである。

しかも創刊号から2号を出すまで、我々は一度も自分の下宿に帰っていないのだった。

いくら放課後手伝いに来る後輩の学生がいるとは言え、この体制ではいつか死ぬんじゃないかろうかと思ったのである。

かくして、マニフィックは創刊3号目にして3・4合併号となった。

3・4合併号であるから、月号表示では、2・3月号である。

このあたりになると、表紙と背表紙の表記が統一されていないので、後世のアニメ研究家たちを混乱させる元となってしまった。

スマン、君たちが古本屋を探し回り、入手した「ザンボット3」が表紙にある月刊マニフィックと言う本は、通巻3・4号の「昭和54年2月3月合併号」という非常に不思議な本なのです。



この混乱に拍車をかけたのは、創刊号を1巻1号とし、年度の変わった2号を2巻1号と表記しているせいもある。

これならば、通巻表示が先発するアニメージュと同じになるという、とんでもない思惑もあったからで、書籍として考えた場合、3・4合併号の表記は2巻2・3号なのですね。書いてる本人がだんだん混乱して来るくらいなので、読む人は大変であろう。

## 最後のマフィック

タイトルだけ見ると、これで終わったように見えるが、そうではない。

この合併号が評価され、一般流通する雑誌に変身するのだ。

という事でマフィックは後のアニメックにつながる大改革を断行した。好きな作品を徹底的に解説する編集をしたのである。

「無敵超人ザンボット3」の大特集である。好きモノを集めて総力特集をしたこの号たるや凄いつくりになっている。

表紙こそ変わり映えしなかったが、本文を64ページから94ページに増やし、背表紙のある本にしたのである。

もっとも予約販売であったので定価は1号分の500円であった。

初の三つ折りピンナップや、増ページとしたカラーで、我々が特集したのはザンボット3であった。

手間暇をかけた大特集である。

本来なら1月16日発売の本を、次号と合併して2月14日に発売するのだから、細かい打ち合わせも可能となるのだ。

前年に、月刊OUTで永川竜介氏が中心となって編集したザンボット3特集があるので、それに負けないように頑張った記憶がある。

ピンナップは、当時日本一のセル画製作師と言われた伊藤秀明氏。(今でもそうです)

地球を背景にして、キングビアルの前でザンボットクラブを構えるザンボット3の構図といい、彩色といひ最高の出来であった。

本家のサンライズが、版權画稿として制作した全てのセル画よりもかっこいいのである。巻頭カラーでは、設定書ではなく設定色見

※一度も下宿に帰っていない  
「ラポート刊『がんばれー  
赤貧くん』より  
売れなくて絶版である。  
この部分のお話なので  
再録

※氷川竜介  
その洞察力と分析力で、  
フリーの編集兼ライター  
として活躍中。おたく界  
では、伝説的ロトさんと  
して神のように崇められ  
ている。太田出版から刊  
行された著書『20年目の  
ザンボット3』はマニア  
必見の書である

※堀沢俊雄  
ビデオの普及していなか  
った当時、彼の家にに行け  
ば、どんな作品でも録画  
してあったという伝説の  
人物。ザンボット3上版  
会の仕掛け人

※マニフィックス号  
存在しないというよりは、  
アニメック5号と改名し  
た

本を使いカラーの特色を出している。  
後に読者から「フィルムが数点あれば色は  
わかるのだから、設定書を多数入れて欲しい」  
という要望が出て反省はさせられた。  
巻木カラーは21話「決戦！神ファミリー」  
だった。

淡いよね、この構成。悲壮感が漂う爺ちゃ  
んと婆ちゃんのヒアル二世での特攻の巻であ  
る。そして22話「ブッチャー最後の日」も。  
これだけカラーでやって、最終回は文章の  
みで説明という、活字主体の解説である。

お約束のフィルモグラフィがあり、前年ア  
シノコンで上映会をやった、大葉月レオの総  
論がりのテンコ盛り。塩沢君、あの時は忙  
しい中ありがとう。あつ正体が。(笑)

極め付けは、「若い人は、ザンボット3をど  
う思っていたかを知りたい」という富野監督  
の要望で、読者代表として女子高生2名の参  
加したザンボット3のインタビューである。

このマニア好みの特集により、マニフィッ  
クは読者の評価を得る。

その他の記事では、日本特撮映画史の第三  
回の「ナショナルキッド」であった。

この号から見開きの両端に写真を四点ずつ  
並べる、お馴染みのレイアウトが定着した。

その頃、我々アニメファンの間では、ガン  
ダムの噂が走り始めていた。

その前人気は絶大で虚々実々の噂が流れて  
いた。だいたいタイトルそのものが違う。

ガンボーイ、ガンボーイ、ガンダムという変  
遷は直接サンライズから聞いているのだが、  
噂で最大のものが「機甲戦士 ガンボット」  
という、いかにもありそうな物。(笑)

「これくらい、外れると謎が多くていいや」  
という判断で、放送直前特集として次号の予  
告に入れてみたりもしている。

この合併号により、出版社として認められ  
たアニメックは、マニフィックス5号より大日  
本印刷との取引を開始し、6号からは全国の  
書店に同時に並ぶ一般書籍としての道を歩む  
事になったのである。

が、ここでアクシデントが発生した。  
マニフィックスの5号は、存在しなくなって  
しまったのであった。

※あたり前の名前

その後に「ジ・アニメー  
「マイアニメ」アニメテ  
イア」とアニメ誌の創刊  
ラッシュになるので、目  
立たなくなってしまうた  
ただ五十音順に並べるこ  
OUT、アニメージュ、  
アニメックと創刊順にな  
るのだった

※ハーモニ―処理

決めの止め絵によく使わ  
れる技法

## アニメック登場

新体制である。

株式会社アニメックから出す本なので、社名とショッブ名、それに書籍の名前を一致させた方がよからうという判断で、マニフィックから「アニメック」へと改名する事となったのである。

まずは誌名の変更手続きから始めなければならなかった。

この為に、特別にロゴも作成した。翌年の書籍デザインの優秀賞に選ばれたハイセンスなものらしい。だが本誌にこの記事が載ることとはなかった。そういう事にはあまり気を使わない編集長なのである。

さてアニメックに改名したマニフィック5号は4月20日に発売され、その大特集は「東京ムービー」であった。

全104ページに大増して、定価据え置き500円である。

まだ手続きが完了しておらず、ごく一部の書店にしか流通しなかった。

5号を届けた時には、富野監督に「なんだか、あたり前の名前になりましたね。前の何だかわからない方が好きだったな」と言われてしまった。

東京ムービー特集については、前年に挨拶回りをした時から相談していた企画であった。ムービーの資料室の全面協力もあり、資料の整理はコツコツ進めていた。

自信はあった。それでも取り掛かってからの時間が、随分必要であった。

原稿を書いても書いても埋まらないので、不思議に思ったのだが、なんとレイアウト用紙を間違うという根本的なミスにより文字数が違ったのである。

笑い事ではない。原稿4枚で埋まる記事が6枚必要なのだから……

ところが、この活字の多さによる情報密度の濃さが評判になり、後もそのままにしまったのである。活字だらけのアニメックというのは、これが原因。

表紙は「宝島」からジョン・シルバー。本編に使われたハーモニ―処理バリバリのセル画である。



※強化服

初期設定では、これにモビルスーツと振り仮名が入っていた。全高18メートルの強化服というイメージにロクワウとした

※強化服  
初期設定では、これにモビルスーツと振り仮名が入っていた。全高18メートルの強化服というイメージにロクワウとした

4月1日の最終話放送前に処分されて、存在しないセル画だったのだが、読者から提供を受けたという伝説のセル画である。

ビックXから宝島まで、過去15年間の東京ムービーが制作した総ての作品を網羅した特集が、巻頭から50ページも続くという力作であった。

なにしろ中綴じのピンナップもラストシーンの、あのジムに振り返るシルバーである。ところがこれで力尽きたもので、ガンダムの放送直前特集をする余裕がなくなってしまったのだ。

それでもこの号から、アニメーションとコミックを意識して、小学館の少女コミック編集部との協力で吉田秋生のインタビューまでしているのだから先見の明がある。

特撮映画史の第四回では「ジャイアント・ロボ」で、もうノリノリの状態であった。

というわけで、アニメック5号にはほんの少しだけガンダムが紹介されているだけだったのである。

【アニメック5号より転載】

機動戦士ガンダム 上曜後5:30~6:00  
一部のファンの間で、機甲戦士ガンボットとも、機動戦士ガンダム3ともさきやかれていた機動戦士ガンダムの放映が、4月7日から始まった。

キャラクターデザインが安彦良和氏、メカニカルデザインと脚本に、スタジオぬえが加わっていることもあって、前評判が高く、それだけに数々の憶測を呼んだ。ロボットのガンマンが出てくるから、ガンボットだとか、宇宙の戦士と西部劇とがいつしよくたになったような話だとか、なかなかにぎやかだったようだ。

番宣が出始め、細部の設定が明らかになるにつれて、そのSF的なムードに期待をふくらませた人も多かった。

今まで通りのロボットアニメではなく、強化服だという設定やスペース・コロニーが舞台であったり、操縦者の性格づけがしっかりしていたり、ファンの目を引く物が多かった。で、第一回の放映は時間帯が早過ぎたためか、視聴率は今一歩



※ちなみにこの頃は隔月刊。  
アニメック5号は3月中旬  
旬発売予定であったが、  
やはり4月に発売された。  
定期刊行物にするには隔  
月が安全であると判断し  
アニメック8号からは奇  
数月の1日発売となった。  
後年アニメックの発売日は  
10日と定められたが、O  
UTとアニメックには通  
用されなかった。

といったところだったようだ。  
質的には問題はないのだから、今後が大  
いに期待される番組であることにまちが  
いはないだろう。

ギリギリで入稿した記事であるが、視聴率  
の悪さにすでに暗雲が立ち込めている。  
しかし、この号のサークル欄に届けられた  
会員募集の中にはすでにこんなものがあつた。

〈アニメーション&アフターレコーディ  
ングF.C. (日本サンライズ公認) 会員募  
集中。

主旨 アニメーション及び声優サン(俳  
優)の理解を深め、末長く応援していく。  
又、会員相互の交流を深めるため、本格  
的なファンクラブを目ざしています。

活動 2ヵ月を1期として、1期に1度  
会誌を作成します。(平均P・20)

会誌名 募集中!!

他のF.C.との交流&上映会。(予定)

びんせん、しおりの作成。(会費および入  
会金の残金より)なお会報(かな!!)

も発行します。

④ 4・5月、6・7月、8・9月…を1  
期とします。

内容 (会誌の…) アニメはサンライ  
ズ系を中心とします。ただし希望者が1  
人でもいる限り他のアニメもやります。  
声優サンの方は会員の希望の方や資料に  
関して…アニメ・洋画・舞台と、幅  
広くやりたいと思います。【以下略】

東京都江戸川区 風見樹子  
◇機動戦士ガンダム後援会。中学生以上  
で興味のある方、男女を問いません。50  
円切手同封の上、左記まで!

兵庫県尼崎市 原田信基

今であれば、新番組が始まる前からF.C.が  
出来るのはそう珍しい事ではない。

この時期に(締め切りからすれば放映前)  
に注目していたF.C.は相当あり、次号より続  
々と会誌が送付されてくるのであった。

## 第四章●ガンダム登場

# ガンダム伝説とアニメック

## アニメック6号

全国にガンダムブームを巻き起こすきっかけとなったのは、昭和54年7月1日に発売されたアニメック6号である。

雑誌コードも下り、堂々の全国発売であったが、まだアニメ誌の棚という物は存在しない頃である。アニメージュは映画関係に、O・U・Tは推理小説コーナーに、そしてアニメックは子供雑誌の横に並べられていた。

たしかに、表紙がセル画だからしかたがないのだが、間違って買った子供は迷惑だったろう。



もともと小学生の頃に間違って購入してそのまま愛読者になった人も存在する。

さて、この6号からは発行が現在と同じラポートになっている。昔からの読者にはアニメックの方が馴染みがあり、最近の読者にはラポートの本の方が通りが良い理由はこれだ。アニメックの5号までは、ラポート株式会社の子会社である株式会社アニメックの出版部で製作販売されていたのだが、全国流通に変更された時点で組織改革が行われた。

両社は同格組織となり本の編集と製作はアニメック、発行はラポートとなったのである。アニメック6号の入稿が終わったのは、第10話「ガルマ散る」を見終わった6月9日であったが、素材の都合で掲載できたのは、第6話までであった。

しかし、第1話を見逃していた人も多く、口コミで「ガンダムはええぞー」が広がっていた最中であつたのが幸いし、注文伝票が全国の書店から舞い込んでいた。

ピンナップ表はアムロとシャア。このシャアのポーズが、立ち小便のシャアとして妙な

人気を得る。いや、設定書にもあるポーズな  
んですけどね。ピンナップ裏はOPの全カッ  
トであった。

巻頭カラーには、1話のフィルムストーリ  
ーを収録し、EDまで掲載して8ページ丸ご  
とガンダムであった。

この様な形で放送中のアニメ番組を紹介し  
たのは、かなり珍しい試みであった。他誌で  
は殆どガンダムを扱わなかったせいもあり、  
ガンダムを知るにはアニメックを読むしか  
ないという評価がガンダムファンに定着した。

カラーに続く本文は、基本設定資料で10ペ  
ージを裂いている。まだ試行錯誤しているの  
だが設定書の何枚かをモニタージュして一枚  
の絵として再構成する方式は大変人気を呼び、  
最近のムックの定番となったものである。

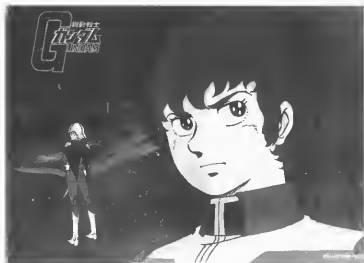
表記はカタカナで統一してあるが、元資料  
がミライ・エイランドなので、この設定書に  
限り間違っている。というくらいガンダムの  
初期資料には統一性がなかったのだ。

しかし、コロニーの説明をするにあたり、  
直径6・5キロメートル、毎分0・5回転と  
いうスペックが正式に掲載されたのは、アニ

メックが最初であった。

編集部で計算して、地表近くではほぼ1G  
の重力が発生しているのを確認したりする凝  
りようである。

そしてお馴染み詳細なガンダムストーリー  
を2話から6話掲載してあった。



各話設定を入れたつ1話について1ページを使っている。

どうして、そんなに詳細にしたのかと言えば、まだビデオの普及率が低く後で見直す事など出来ない時代だったからである。さらに、長年の経験から言えば、放送地区外の読者であっても、サンプルとなりうる画像と設定、さらにストーリー解説があれば、十分に楽しめるという確信があったからでもある。

事実、放映区域外からの読者の声も随分寄せられたものである。

これは、作品によってはかなり危険な要素でもあるのは承知していた。推理小説を読むとする人間に、犯人を教える事にもなりかねないからである。

だが、ガンダムには謎解きはなく、あくまでも、ストーリー優先の物語だったのが幸いした。まだ見ぬ人にとっては予備知識を与え、一度見た人には、密度の濃い物語の消化を助ける働きをしたのである。

そして富野監督とのインタビュ。かなり割愛する事になるくらい多量の情報が詰まった内容であった。

この時にお聞きした今後の展開というものは、実際に放送された物とは微妙にニュアンスが異なっていた。

初期設定と放送との境目にある内容だった事から、富野監督は考えながらストーリーを転がしていたのかもしれない。

要点としては、富野監督の頭の中には宇宙世紀をイメージする総ての情報をイントロに入れ、それを毎回流しているという安心感があったのに、視聴者にはそれが伝わっていないというジレンマがあったようである。

これは、周辺の人間をリサーチした編集部でも感じていたのだった。

なぜか編集部周辺の人間は、納得しているにも拘わらず、普通のアニメファンには難解だったようである。

そして、もうひとつ大事なことは、我々ですら電波妨害素子のひとつだろうくらいに考えていたミノフスキー粒子の正体がわかった事であった。

今でこそガンダムの常識とされているミノフスキー粒子の本当の意味を知る人間は、視聴者にはほとんどいなかった事になるのだ。



このインタビュの結果、ミノフスキー粒子の戦略的な利用により、宇宙での艦隊戦闘が無効となり、MSが有利になった理由が明確にされたのである。これを知るだけで1話に潤って話の意味合いが変わってくるのだ。そこで「これではいかん」と編集部は総力を上げて次回の特集に取り掛かった。

なお参考までに、当時の投稿からガンダムの盛り上がりを探ってみよう。

『アニメック6号』より



東京都中野区 春名真理

読者投稿欄「あにめえる」に、読者投稿ハガキとして初めて届いたガンダム物。2話を見終えてすぐに描いて投稿したという逸品だ。

※サークル欄に「一番早く登場したのがこれ。」

◆KGFC（機動戦士ガンダムファンクラブ）会誌「WO79」（ダブルオー79と読む）



「機動戦士ガンダム」を深く愛し、テーマを追求してくれる仲間を求めています。入会希望者は50円切手同封の上次の所に。

東京都世田谷区 松野道子

※締切りから考えて、放送される前から準備されていたもの。

今のように第1話を見て、2週間後のイベントで本を出すような器用な人がいなかった頃の話ですから。(笑)

#### 【アニメック6号の編集後記より】

今回の特集は、機動戦士ガンダムを取りあげてみました。最近、夢中になって見ることでできない作品の多い中で、毎週

楽しみに待っている作品のひとつです。細かい舞台設定と構成によって成立する存在感あふれる架空世界。それこそが、アニメ自身の利点を生かした、アニメが追求すべき道の一つだと思うのですが。その意味で、ガンダムは良くつくられており、この作品のすばらしさを、一人でも多くの人にお知らせできればと思っています。上曜日の五時半という時間ですが、つまらぬ遊びよりは、絶対に……。

(K)

※アニメ史の研究家を悩ます(K)ですが、OUT初期や「ふぁんろーど」の署名記事にある(K)は、現在ファンロード編集長のイニシャルビスケットのKです。

小牧雅伸としての(K)はアニメックでしか使わなかったので混乱しないで下さいね。途中からあまりのややこしさに私が(ま)に変えています。

この編集後記は今読んで、真剣にガンダムを観ていた様子が伝わる。



妙に自信を持って書いているのは、冒頭にも書いたように放送中の仲間のリアクションが尋常ではなかったからだ。

編集部には連日のように、昔からのSF仲間、アニメ仲間、特撮仲間が押しかけ、ワイワイやっていたものである。

逆にこれが超ブレンストーミングになっていたのは間違いない、同人誌を作るコアな人間の意見から、ガンダムは面白いのだけとよくわからないという意見までが編集部に集積されていた。

材料工学の大家は、いかにガンダムがハニカム構造で丈夫であっても、表層破損はまぬがれないわけで、マジンガーZのように描写してはならないと意見をぶち、一方で高機動性を持つMSならば被弾係数は著しく落ちるから戦車として描くのではなく、航空機として描くべきである、なんて意見が続出した。

それぞれの説に一理あり、なおかつ説得力もあつたのだが、どうしても矛盾が出るのはテレビアニメの宿命である。

私と副編の昔からの意見は、「あくまでもフィルムが優先であり、裏設定や解説はそれ

を補強するものでなければならぬ」というものであつた。

SFファンダム出身の二人の意見が一致した事で、アニメックのガンダム解説の方針が固まつたのである。

これがアニメックにおける設定の許容誤差というものだ。

たとえば、コロニーの地面で50キロの体重の人間が、3階建ての建物の屋上に登ると45キロ前後になるという計算値が出て、そんな微妙な差は描けないだろうから無視するというものである。

同じく無重力の港から、エレベーターで地表に下りる場合は、動き出した瞬間に人間が天井に押し付けられるのではないか、という疑問も「まあそれなりの装置か手摺りがあるに違いない」とかたづけただのである。

## アニメック7号

昭和54年9月1日アニメック7号が発売された。ガンダム特集をした6号の反響が凄いのので発行部数は一挙に倍の4万部となった。が、肝心のガンダム記事は思ったよりも少ない。

表紙を見てもうえば、その原因は明確である。巻頭カラーから冒頭記事まで33ページに渡り「劇場版未来少年コナン」の特集をしているからである。

そりゃあコナンだものなあと納得して欲しい。編集部一同コナンファンであり、どうしても特集をしたかったのである。(爆笑)

このころのエピソードとして、池田憲章氏のテレビ出演というものがあつた。6号と7号の前後編という形で、日本特撮映画史は安井ひさし氏の協力を得て「マクグマ大使」を執筆しているのだが、7月21日夜7時半からフジテレビで放映された「怪獣クイズ大集合!!」に解説者として出演、怪獣博士池田憲章として紹介された。

テレビを見た友人知人はそれ以後どこで出会っても「ヨッ怪獣博士!」と呼ぶ様になったのである。

ガンダムは小特集という扱いではあつたが、ピンナップ表は「赤い彗星」のタイトルで、赤ザクの横に立つシャアというものだった。女性ファンからは大反響のあつたセル画である。

お馴染み設定書と込みのストーリー紹介は、一挙に第7話―第18話を取り上げている。

富野監督インタビューも忙しい時間を割いて戴き、モビルアーマーが気に入っている様子が克明に出ている。

なにしろインタビューをしたのがジャブローの名前が決まったばかりで、安彦さんが26話のシャア再登場を描かれている8月初旬なのである。

この小特集では、ガンダムの世界観を表す必要に迫られ、編集部なりにまとめた解説も載せているので、それを再録してみよう。

当時の公式設定であり、現在とは異なる部分には※で注釈を入れてあるので比較して見ると興味深いだろう。

\*安井ひさし

ガンダムチームが今も続く要因を作ったひとり。

「アッコちゃん」「アッコちゃん」

「アッコちゃん」の両評価を得る編集をした後に、「アッコちゃん」

「アッコちゃん」でフジモックボーン」でフジモ

狂四郎の原作を担当。MSVという概念を創出し

て、作品がない時期もガンダム人気を継続させた

功労者。後にD・C・L・Dを立ち上げた名編集者

■ガンダム小特集

サイド3

地球から見ても、ちょうど月の裏にあるスペースコロニー。地球連邦への不満が人々の間に強まり、共和制をめざして独立運動を進めていたが、ザビ家が実権を握ってからは、ジオン公国を名のり、0079年地球に対して独立戦争をしかけて来た。

初代のリーダーはジオン・ズムで、ジオン公国および、首都ズム・シティーの名は、ここから来ているらしい。彼はまたシャアとセイラ（アルティシア）の父でもあったが、現公王、デギン・ザビが、何らかの方法でこれを抹殺、二人の子供がサイド3を脱出せざるをえなくなっただけで、0069年のことであつた。

※ここまでの公式発表はあつたのである。

ただし、ジオン・ズム・ダイクンのダイクンは、まだ不明であつたし、シャアの本名キャスバル・レム・ダイクンすらも出されてはいなかつた。二人が脱出したのが10年前と発表

されているが、その経緯は不明である。

国名に、ジオンの名を頂いているのは、独立運動に向けて盛り上がった国民の感情を、そのまま全体主義へと導くための方便であろう。

現在、国の実権を握っているのは、長男のギレン・ザビ大將で、デギンは公王の地位に退いている。

ジオン公国は月を制圧、他のサイドも破壊し、わずかにサイド6のコロニーのいくつかが残っているのみである。すでに地球上の一部もジオンの手に落ちてはいるが、両軍の損失は大きく、戦争は膠着状態に入っている。

※この設定は最後まで生きていたのだが、Z以降、完全破損していないコロニーは、もっと多く残る設定になっている。

他のサイドと同様、サイド3も30〜40個の（あるいはそれ以上の）コロニーから成るが、装甲を強化するためにコロニー

の外壁には窓が無く、かなり無骨な印象を与える。

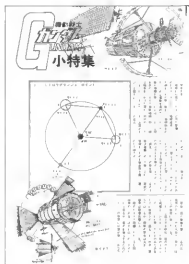
結局地球からもっとも遠くの連絡のとりにくい位置(月の裏側ということもあって)ということ、月に近く、資源の得やすかったことなどがジオン独裁の台頭を許すことになったのだろう。

サイド7

地球連邦は、増え過ぎた人口を調節するため、宇宙空間に人工都市(スペース・コロニー)を建設した。建設順に番号をつけたので、サイド7はその七番目のコロニーとなる。

位置は、月軌道上の、地球に対してちょうど月の真反対の所にある。(図参照)小惑星ルナツーをともなっていて、ジオンの攻撃を受けた時には、まだ建設途中にあった。

機動戦士ガンダムに登場するスペース・コロニーは、アメリカのプリンスストン大学教授、G・K・オニールの提唱したものをベースにしており、大きさや型式もほぼ同じものである。(オニールの言う



鳥3号と比較して)内径6・5km、毎分0・5回転でおよそ0・9Gの人口重力を発生させている。俗に言う遠心力というもので、昔からおなじみの宇宙ステーションを、円筒型に引き伸ばしたものと思えばわかりやすいかも知れない。長さは30km強だが、サイド7のアムロがいたコロニーは、建設中でもっと短かった。毎分0・5回転だと周辺速度は600km/hくらいだから、エレカーが走ったくらいでは、さほどの影響は出ないものと思われる。

円筒の内側には、川や湖もある人工の陸地が造られ、人々はそこで地球上とほぼ

同様の生活を営むことができる。コロニーの壁（ある意味では地面でもあるわけだが）には三本のスリットが走っており、その外に大きな翼状の反射鏡がつけられていて、それによって太陽光をコロニー内に導き、またその角度を変えることによって、昼と夜、あるいは季節や気候を作り出すことができる。当然スリットの部分に使用する材料は、光を通すことが必要となるが、それゆえ、ここがコロニーのもっとも弱い部分となる。サイド3にスリットが無いのは、この弱点を無くすためだが、それによるロスは馬鹿にできないだろう。

各コロニーは、それぞれ自活できるように設計されており、工場ブロックや、農場ブロック（コロニーのまわりの、雷のタイコのような部分）もそなえている。スペース・コロニーの建設及び維持に、資源補給基地として月が大きな役割を果たすが、サイド7は、ちょうど月の真反対になるため、その代用としてルナツーをとまなっているものと思われる。

このルナツーには連邦軍の基地があったが、サイド7が攻撃された後、シアアの攻撃にあい、使用不能となっている。

※この時点では、そういう設定であったのだが、それはジオンに対するカモフラージュで内部のMS工場ではジムとボールの量産が続けられていた事になっている。

サイド建設の位置は、ラグランジェ・ポインント（最初の提唱者、フランスの数・物理学者ジョゼフ・ルイ・ラグランジェの名から由来する）と呼ばれる、地球と月の引力（ラグランジェ・ポインントについては、何も地球と月には限らない）のつりあった場所がいくつかあり、ここに建設することになる。そうすれば地球や月の引力に引かれサイドの位置が変わってしまいう危険性が少なく、したがって位置補正の労力も少なくてすむ。ただし、ポインントといっても、太陽などほかの天体の影響もあって、かならずしも点として存在するのでは無く、ある範囲を持つ

た空間として存在するらしい。

人口は、一つのコロニーで一千万人強と言われているがガンダムの設定ではもっと多い様で、一つのサイドが40個のコロニーからなるとすると、ワンサイドに4億人以上の人間が住む計算となる。

※ワンサイド4億人程度では、まるで数が合わない事に放送後、気がついた。人類の半数である50億人強を抹殺するには、コロニーの人口をもっと増やさないとけない。

地球連邦の宇宙植民において、しふしぶコロニーに移住した者も少なくなかったらしく、地球に住む者に対して、エリートであるという意識が、人々の間に発生している。そういう意味でコロニー一世代たちにとって、地球＝連邦政府には腹にすえかねる所があり、二世代たちにとっては別の意味でおもしろくない存在となっている。(地球に駐在しているジオンの若い兵士に、こんな虫のいない清潔な故国にかえりたいというセリフがある)

サイド3が独立の道を歩み始めたのも、そんな所から来ているのかも知れない。

《サイド7の重力を、より正確に知りたい人は、高校の物理の教科書でも開いてみれば計算の仕方が載っているはずですから、やってみてください。要するに、法線方向の加速度を求め、それを9・8で割れば良いわけです。(MKS単位系の場合ですが)単位には注意して下さい。0・5回転というのは毎分ですから、秒に直すと $\pi/60$ ということになります》

※あんまり意味のある計算ではないので、真剣にやらなくていいです。地球で60キロの体重の人がコロニーに住むと56キロぐらいになるだけなんですから。

#### ホワイト・ベース

連邦軍の新造戦艦、ガンダム収容のため、サイド7に入港したが、シャアの攻撃により乗員のほとんどが死傷し、士官候補生、ブライト・ノアらの手によって、ガンダムを積み込んだ後、サイド7を脱出

する。

すでに両軍の生産力は底をつきはじめており、それゆえ、新造艦であるホワイト・ベースは装甲が頑丈な、多目的艦的な性格も、持ちあわせている。

特筆すべき点は、大気圏突入性能を持っていることで、ジオン軍では、後に、ランバ・ラルに与えられた機動巡洋艦ザンジバルにおいて、その性能を持つに至る重力コントローラーをそなえているらしく、地球上でも、微速前進が可能。

初代艦長は戦死し、レビル將軍の保護の下、ブライト・ノア（後に少尉）が指揮をとっている。

※このあたりは、かなり違っている。両軍ともに疲弊はしているが、連邦軍は人的資源を多量に失っているだけで、工業生産力は失っていない。WBの重力コントローラーはこの時点では明らかにされていなかったが、ミノフスキークラフトの事である。放送中にはミノフスキー物理学は存在せず、電波妨害粒子としてのみ描写されていた。

【その他のガンダム関連】  
それでは最後に、編集部おすすめの品を紹介しましょう。

機動戦士ガンダム「フライング・ジェットヒコキー」です。安い物ですから6種類全部そろえて部屋に飾って置くのも良いでしょう。

（ちゃんとした©商品なんですよ、これ）



とくにムサイ艦とかコアファイターが良くできていて楽しいのです。もし飛ばすなら部屋の中は避けましょう。どこかの編集部のようにインクビンを倒したりしたら……。

※大里玩具から放送中に発売されていた珍しい例。メインスポンサーのクローバーとセイカノート以外からはあまり商品が発売されていなかった。

後に、ハンカチ、ボール、シャツというガンダムの付いたライセンス商品を全て揃えていた高校生の存在を知る(笑)

現在フリーライターをしている内田英雄であるが、どこへ行っても騒ぎを起こしていた。

## 【アニメック7号P103 コラムより】

ガルマさま~~~~~ッ

ファンにも色々あるという典型的な女の子たちがいました。

板橋区の大森智子さんとその一派です。

### ガルマさま~~~~~ッ



7月24日(火曜日)に都内の某教会でガルマ・ザビの49日を13人の仲間で行ったそうです。

命日の6月9日は学校がいそがしくて、何もできなかったもので、49日を夏休みにやったのだそうです。シャアが死んだらどんな騒ぎになるのやら……。  
善良なるファンのみなさんはマネしないでくださいね~~~~~ッ。

※「あしたのジョー」のライバル力石徹の葬式を彷彿させるのだが、あくまでも個人レベルで全国で同時多発に行われたのが確認されている。ガンダムの主流ではないのだが、女性ファンが動き出した事により、底辺が広がって行ったのである。



「機動戦士ガンダム」  
(田舎5・30分)の原作  
者(田舎5・30分)はだれでしょう  
か？ また、「ガンダム」のこ  
とを書いている本を教えてください。  
(大阪府八尾市・竹本恵子)  
【答え】原作者は富野喜幸さん  
です。カクエツ館出版から出  
ている月刊アニメックの八月一日  
号に、三十ページにわたる特集  
を組んでいます。

【アニメック7号 104ページコラム】

○チヨメ

週刊「テレビガイド」8月17日の記事

ちびっ子なんでも相談

「機動戦士ガンダム」の原作者はだれでし  
ょうか？ また「ガンダム」のことを書  
いている本を教えてください。

大阪府八尾市・竹本恵子

【答え】原作者は富野喜幸さんです。カ  
クエツ館出版から出ている月刊アニメッ  
クの八月一日号に、三十ページにわたる  
特集を組んでいます。

どうでも良いけど、なんでこんな話にな  
ったのかな？ 隔月刊で発行されているア  
ニメック6号にが正しいのです。  
発行はラポート(株)なのだ。

※これが奥の深い話である。製作元のサンラ  
イズに確認を入れ、この時点でガンダムを解  
説している本はアニメック6号だけとなった。  
そこで、アニメックに電話があるわけだが、  
このややこしい出版体制なので「隔月で出  
しているアニメックの8月1日号に掲載されて  
います」という返事をしたのだが、こうなっ  
てしまった。

ラポートがまだ知名度がなく、書店からの  
注文伝票には「徳間書店のアニメック」やら  
「朝日ソノラマのアニメック」という不思議  
なものが多かったのだが、これ以後は「カク  
エツ館のアニメック」という注文がグッと増

えたのである。

この記事からもわかるように、機動戦士ガンダムは、アニメック以外ではまったくノーチェックの作品だったのである。

余談ではあるが、この「チョメ」がきっかけになり、自分の誤植はさておき世間の印刷物の誤植や珍解釈を笑うという名物コラム、「チョメチョメ・コーナー」がスタートした。

多少のタイムラグがあるが、読者欄「あにめえる」に6号を読んだ後の感想が殺到しているので少し抜粋してみよう。

「あー、とうとうアニメックも書店にお目見えするようになるんですねー。実をいうと、私はあんまり賛成をせん方でした。なぜかって？…なぜって…それはつまり、1つぐらいいは通販のみの、あまり皆さんがもっておらんような雑誌を買ってみたいくて、本誌を買っておるからであります。ここまでわかるか？とところで、ある書店である少年が、アニメックを注文しておった。そして少年が帰ったあと

店のおっちゃん（おっと、私は高3でした）が、電話で注文しておりました。

店主「あー、アニメックって雑誌あるんですかー」「えーなにーで、版元はどこですか」「ラ、ラポートKK？ハハハハ……」  
実に問題にする点はハハハハと笑ったところにあります。なんで笑たんやろ？

大阪府交野市 山口秀人

※同様投書から推察するに、全国の書店で、こういったガンダムを読みたい青少年が書店に注文を出してくれたのだが、聞いた事のない出版社、聞いた事のない書名に悲喜こももものエピソードがあったらしい。

書店に置かれたアニメックは、それなりに売れたのだが、こうした読者の書店注文が多くアニメックは毎号発行部数を延ばしていった。

◇始めまして…アニメックを初めて手にとりました。なんと、こんな僻地の書店まで売るようになって…学校帰りに電車

の時間待ちに立ち読みしていたのです。そしたら、なんとアニメックの6号があるじゃありませんか。アニメージュの広告などで見た事があったのですか。それ私の大好きなガンダムの特集が組んであって、買おうと思ったのですが手持ちがない！（中略）

という訳で、ただ今私の手元にアニメックがあるのです。東京の人にしか手に入らないとあきらめていたのですよ。

（後略）

広島県福山市 綾 恵美

◇ズバリ！アニメックの希望的観測が当たったよ。なんと、鳥取の書店では、発売後5時間以内に売り切れました。二冊だったけど。

（中略）

僕は見れないけど、ガンダムファンです。夏休みに大阪に出て、一回は見て来ました。

アニメックはガンダムの特集が続くそうで嬉しいなあ。

鳥取県鳥取市 田中利和

◇ガンダムの大特集は本当に良かった。

貴誌を書店で見つけ、おつびろげてみると27ページとビannaップという大特集。設定資料、6話までのストーリー解説、富野さんのインタビュー、もう感激です。TVで観ることのできない分だけワックと貴誌を読んだだけで感情が爆発。オニールのスペースコロニー、ミノフスキー粒子、量産型のメカ。モビルスーツザク等リアリティにあふれ、聞いただけで、「血沸き、肉踊る」そのものって感じですね。けれども各キャラの個性や生い立ち等、TVを観ていないとわからないと思う。その点実に悲しい。（後略）

長崎県佐世保市 中尾勝也

※要約するなら、アニメックが地方まで流通した事、ガンダムの特集が良かった事が中心の投稿が多かったのだが、注目すべきなのは、『自分の居住地では、ガンダムを放映してないのだが、ガンダムファンです』というアニメファンが多いのである。

こういった潜在層が育っていたからこそ、

再放送での視聴率があんなに高かったのではないだろうか。



この度、名古屋テレビ・創通エージェンシー・日本サンライズの御協力を得て、『機動戦士ガンダム』ファンクラブ『サイド7』を結成いたしました。

「機動戦士ガンダム」のすばらしさを共に語り合い、共に楽しんでいこうと思います。

入会希望者は、50円切手を同封の上、左記までどうぞ!?。キミはこのファンクラブを無視できるか!?

東京都渋谷区 辻 壮一

※サイド7とホワイトベースの名前を使ったFCは多く、ここも後に「渋谷サイド7」を名乗るのだが、今の読者から見て不思議な記述が多いのに気がつかれたらうか?

この当時は、サンライズ公認というFCが相当数あり、名古屋TVの広報部が大変積極的にファンサイドの活躍を認めてくれた。この当時、私も名古屋TVの銀座支社に毎週のように通ったが、今井慎プロデューサーが大変アニメーションファンを大切にしてくれたせいか、秋以降はいつでもどこかのFCの人間が取材に来ていたものである。

「どうして、こんなにファンに人気があるのに、視聴率さっぱりなのかねー」

と今井さんが嘆かれる度に、答えたものだ。「認知度が低いですよ。今のファンの動きをみていると、何年経っても放送要望の高い作品になるはずですから、テレビ局の財産になるはずですよ」

この会話が、証明されるのはかなり後になるのだが、これを見出した編集者が他にいなかった。そのせいもあり、後々まで新番組の



## アニメック8号

昭和54年11月1日、アニメック8号が発売された。サブタイトルが『ガンダム上半期総特集号』だ。

夕焼け空をバックに立つガンダムと銃を構えるアムロという大変渋い構図の表紙なのだが、夕焼けの赤を目立つように蛍光ピンクにしたのが大失敗。

「ガンダム絵本だよなあ、これ」

と、編集部内でも反省はしたのだが、見事なくらい多くの本屋さんで、店頭の絵本棚に刺さったのである。

冗談のような話だが、回転式の絵本棚でクルクル回るアニメックを都内各地で見た時はちよつとショック。(爆笑)

ガンダム特集は、ちゃんと読者のご要望に応え『機動戦士ガンダム大特集パートII』と銘打っている。

隔月発行の強みとして、締切までに到着した手紙とハガキには、出来るだけ対応していたのである。同じような意見があった場合に

は、一番要点のはっきりした手紙を読者欄に掲載していたから、読者から見るとフィードバックの早い本になるのだった。

しかし、この本が発売されるよりも早くガンダムの打ち切りは決定していた。

視聴率不審が原因なのだが、1月一杯で放送終了が確定し、9月からのスタジオオは、制作調整でてんでこ舞いの忙しさとなっていた。おまけに10月8日には作画監督の安彦さんが過労でダウンし、病院に運びこまれたまま入院という事態に陥り、ガンダムの作画はピンチを迎えていたのだった。

アニメックの読者層の盛り上がりをもとに、ガンダムの前途には暗雲が立ち込めていたのである。

それでは少し、当時の状況を思い出ししてみよう。

打ち切りが決定する前後から、ファンの要望が増え、アニメージュでもガンダムの特集を組み始めている。

そこにアニメージュ発売日の一日前に似た

※ロビン・ライデン

映画「94」やスター・トレックの特撮マン（当時GTMXという用語がなかった）で、昭和55年4月に特殊電気部品の購入に來日して一泊ばかり滞在した。外人アニメオタクの走りみたいで、日本の漫画家とアニメ会社をほとんど見学して帰国した。來日中に永井豪と出渕裕にイラストを発注したのは当時は有名な話

ような本が発売された。

近代映画社の「ジ・アニメ」である。

アニメージュと間違えて買った人も多い。

A4判雑誌の熾烈な戦いをよそに、B5判のOUTとアニメックは呑気に独自の路線を歩んでいた。

ちなみに、アニメージュで設定が決定したものに、ザクをMS-06とする形式ナンバーがある。

それまでは、MSに形式ナンバーはなかったのである。公式設定として採用されるのは放送終了後であった。

このように、ガンダム関係の設定部分は雑誌主体で発表される部分が多く、これは現在も継続しているのだ。

それでは、この号のガンダム特集を説明してみよう。

今回初の試みとして、Wピンナップとし、一枚目は初のイラストにした。

ゴックをバックにシヤアの脅威が迫り、フラウを庇うアムロというオリジナル構図は、イラスト初挑戦の出渕裕である。

彼の公式発表されたイラストは、本当にこれが最初である。

たしか、出渕裕2枚目はロビン・ライデンに発注されたものではなかったかと記憶する。ピンナップ一枚目裏は14話のマチルダ・アジャンである。

ピンナップ二枚目は青一色印刷であった。二枚目の表は、副編集長自ら製図したというコアファイターの三面図である。

何しろ機械工学課で毎日のように設計図を描いていただけに、設定書から縮尺を割り出して製図するなんてのは得意な人でしたから、ぽつんと小さいアムロが入っているのは、この縮尺のアムロという念の入れよう。

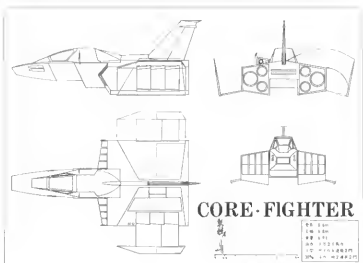
コアファイターの翼の付け根には自分のイニシャルまで入れています。ですから、この図面を入手した某アニメ誌が、設定書の一部と間違えて転載してしまうという珍事まで巻き起こしたのです。

その裏はどうしたかと言うと、当然私の担当で「ホワイトベース航路図」である。

「小牧さんこれはっかですな」と友人に苛められた世界地図である。

※ゴンドワナの喉

スエズ運河の位置の地下深くにあるという伝説の海底洞窟



説明すると、これが初めてではないのだ。

同人誌時代から、図解説明が好きで、主人公の旅程を地図にするのはお手の物。日本の猪首岬から南太平洋経由で大西洋にたどり着いたトリトンの航路図という前科があるから、これは当然。

トリトンの場合も、南太平洋からマゼラン海峡を通過して、敵の本拠地大西洋に向かいたいのに、敵の防衛が強く断念。地球を反対方向に回って、紅海からゴンドワナの喉を通り地中海、そして大西洋に進攻したのである。このあたりホワイトベースの経緯に重なるものがあり、かなり乗って製作した。

出渕裕の協力があり、かなり正確に再現できたところで、富野監督にチェックを受けた。「こんな、地図載せて喜ぶ人がいるの?」と、いう感想を受けたものだ。

読者の中には、案外位置関係を知らない人が多いのではないかという予測で付けた付録だったが、かなりの反響があった。

こうやって地図で見ると納得する人が多いのだが、WBがジャブローに到着するのに地球を一周したのに気がついていない人は、この時点で相当数いたのである。

巻頭カラーは名場面集。フィルムではなく、全部セル撮影をしたという粒子の綺麗な構成である。特に19話「ランバ・ラル特攻」は、主要シーンを全部掲載した。



白黒特集のトップ記事は、第19話のA R台本を掲載した。

この頃、関東地方では予定通り19話は8月11日に放映された。

だが、関西地方では高校野球の地元高校の試合を中継し、放映予定日である8月10日に放送できなくなっていたのである。

編集部には関西地方から、是非詳細なストーリー解説をして欲しい、名場面はカラーで見たいという要望が殺到したのである。

一部抜粋ならともかく、A R台本の全文掲載は、著作権的にかんがりの障害があるのだが、名古屋TVに読者の要望書を持参して説明したところ、権利関係を調整し、番宣用として了承していただけたのである。

テレビ局のOKが出れば、サンライズも資料一式を出す事に協力的で、このような特殊な特集が可能となったのである。

こうして、上下二段組みに書き直したA R台本に設定書を組み合わせた記事は、放送を見損なった人にはもちろん、まだガンダムの放送を見た事のない読者に大変な人気を得たのである。

【当時の記事より P 24】  
「ランバ・ラル特攻」A R台本  
《編集部から》

関西の一部地域で、高校野球のため第19話が放送中止となり、その後放送されたものの、時間帯が異なっていたために、見ることができなかった人が多かったよ



うです。

そこで、当編集部では、名古屋TV、日本サンライズの好意により、第19話のAR台本（声を録音する時に使用する台本）を掲載することにしました。

なお一部、放送されたものと違う部分もありますが、そのまま掲載しました。ストーリーの概要は同じです。

設定ストーリー記事は20話から26話で、設定の組み合わせに慣れて来た我々は、ついに名作と言われた「ドグアイに乗るグフ」を生み出した。

もつとも同じ号で、「ミハルの家の上空を飛ぶWB」という間抜けな物も作ってしまったのだが…。

さらに1話から20話までのガンダム用語を解説した『大事典』が、12ページに互り掲載されている。

この事典の解説が、大変好評で後の大事典シリーズとして現在もムックの中核になっているのだからいたしたものである。



宇宙世紀V01・2「大事典編」を購入された人ならわかっていただけたと思うのだが、あの中に、この当時の大事典が5パーセント程度はそのまま使用されているくらい完成度の高い物であった。

特集の最後は、ほとんど修羅場と化したス

※ガンダムショー

デパートの屋上ショーが今のようには洗練されるのは80年代に入ってからである。

タジオに行つての富野監督インタビューである。

いや、まったく今考えてもタイミングの悪い、安彦さんが倒れた翌日の収録であつた。

その時のファンの状況は「みにめえる」の記事より読み取れる。

当時のアンケート集書の感想欄に、一言添えてあるコメントにも味があるので、ページのハシラ（両端の欄外）に掲載していたものだ。長文の「あにめえる」に対して「みにめえる」としたコーナーだ。

その中から幾つかを抜粋してみた。

【当時の記事 みにめえるより】

◎7号を読んでガンダムをやっていない地域が他にもある事を初めて知りました。私はTV局にネチネチと放映願いを書いています。みんなもがんばろうねっ!!

（大村未来）

＊みにめえる

◎のまゝに載せていますが、ガンダムの登場人物と同一発音のスペリングを辞書で調べてみたんです。例えはシャア→SH IR というように。おめあてのガルマと発音する単語はありませんでしたが、ガル——「だまされやすい人、間抜け」というのが……。

◎つまらない話ですが、ガンダムの登場人物名と同じ発音のスペリングを辞書で調べてみたんです。例えはシャア→SH IR というように。おめあてのガルマと発音する単語はありませんでしたが、ガル——「だまされやすい人、間抜け」というのが……。

（松本智子）

◎去る9月16日、某百貨店で行われたガンダムショーのあと、サイン色紙の配布がありました。しかしガンダムオモチャの台に使われている厚紙にサインペンで「GUNDAM」と書いてあるのがサイン色紙といえるのでしょうか。

（歴羅怪鳥）

◎ガンダムかあ……。見たインタケドねえ……。残念ながら金曜の授業は昼までだけバイトがあるので……。TV見てると患者さんが……。後期になった

※未来ロボ・タルタニアス  
長浜隆雄がガンダムと同  
期に制作したテレビアニ  
メ。途中降板してベルサ  
イユのばらの監督に……

らバイトの方も調整して見よ……と。

(千布雅子)

◎「ガンダム」見てます。ごひいきは、  
ブライト・ノアさん。だって鈴置さんが  
アテてらっしゃるのでも。しかし、  
22話まで見た限りでは「彼は冷たい人」  
という感じが強くて「鈴置さんがアテて  
らっしゃるのだから」と思っても、もう  
ひとつ好きになれなかったのですよね。  
しかし、23話の彼は、わりと良かった。  
24話以降、もつとステキになってくれる  
ことを期待し、これからも、ブライトさ  
んをみつめていくぞ！ブライトさん以外  
に、良いな。と思っている人物は、ミラ  
イさん、セイラさん、マチルダさん、ハ  
モンさんかな。

(バラクーダ号の密航者)

◎7号の松永さんへひと言！タルタニア  
スのどこが超低級なんですか。だいたい  
今までの戦闘もので食べものに飢えてい  
る人たちがいましたか？(少しはあった

かもしれないけど……)私は部活をやつて  
るから、あんまり見られないけど、16話  
は本当にかわいそうだった。たくさんの  
食べものを目の前にして喜んでたら、そ  
れには毒があったなんて……。おちゃめが  
泣いてるのが、可哀想でたまらなかった。  
タルタニアスはすばらしいですよ。  
「ガンダム」と重なったのは本当に残念  
でしたわ。ガンダムは超特級ですからネ。  
ワハハのハ。

(荒金晴美)

◎ガンダムの本を作るための資料はどう  
すれば手に入りますか？富野喜幸さんの  
住所もおしえて下さい。

(田中睦治)

●(おしえませんが K)

◎もうみましたか？あのセイカのぬり  
え「機動戦士ガンダム」を。絵のちやち  
いことは別として絵のわきに書いてある  
ことがすごいんです。「敵ジオン公国で  
一番カッコいいシヤア大尉」「ミライ・

エイランドさんはホワイトベースの艦長さん。兄弟そろってのけぞりました。

(津田靖子)

●うわ~~~~出来た！何ができたかって？絵ですよ、絵。何の？シャア少佐の！そうです、ついに描き上げたのです。愛するシャア様の油絵の肖像画！

なかなかの出来ばえと、自負しております。もしかしたら写真を送るかもしれません。そしたら載せて！

(金築由美)

●シャアを残酷に殺せという物（人じゃない!!）は名のりでなさい!!あんなに残酷に殺す!!シャアを、生かす運動をしましょう!!岡山の松永君!!えらい!!出世できる!!かな?。その他いっぱいガンダムファンの方々!!えらい!!かしこい!!

(名前はあげないで)

●僕は重大な過失を犯してしまった。なんとあの名作。ガンダム。を8話も見そ

こねたんです。『ガンダム』が始まった当初、僕はあのいまいまいしいインベーダーのとりこになっていて、『ガンダム』が放送されていた時間にもインベーダーをしていたと思うとくやしくて!!

(土井淳)

※この年の春から喫茶店等にもインベーダーゲームが置かれ、どこでコーヒーを飲んでもビックコンビックコンという音が響いていた。

●私たちもガルマさまの49日に、総勢20人余りで（学校の）お聖堂でお祈りをする予定だったのです。当日は夏休みで実行できなかったのがいまになっても惜しまれます。それでも毎月9日にはせつせとお聖堂へいってお祈りをしております。ガルマ様~~~~~!!

(安藤昌子)

●う、うわーん。マ、マチルダさんが死んじゃったより。いくらなんでもあんな死に方はヒドイ。おのれドムめ、波動砲

でふきとばしてくれようか!!

それにしても美人薄命とはよく言つたも  
んや!!

ハモンもイセリナも美人だった。セイラとロランとキツカは生かしといて！

(日種嶺)

◎「アニメックはガンダムで大きくなった」と言えるのでは？ガンダムファンとしては、アニメックがガンダムをとり上げ（そしてそれがまたよくまとまっている）のはうれしいけど「ガンダム」がなくても読者を確保できる雑誌づくりをめざして下さい。

(二束三文)

◎7号の純さん。スペースコロニーについてはG・K・オニール自身の書いた本が出版されています。「宇宙植民」G・K・オニール／木村帽子訳 プレジデント社1977年9月5日発行の初版で、12000円です。

(uppreman)

◎ やい、アニメック、てめえ、一ヶ月おきの発売とはどーゆうつもりだい。ガンダムの特集をあれだけ載つてるところは他にはねーんだぞ。480円という大金をだして買ってやってんだからもつとみしつと毎月ださんかい。ボケ。

(広川彰紀)

◎6号にオニールのスペーススコロニー云々って書いてあったので、私はさつそく頭のよい先輩のところについてオニールについてたずねましたら「あ!!それ小説家よ、知ってるわ」とおっしゃいました。ちなみに彼女は文芸部々長…。ああ文芸部の前途は暗い…。

(マ・クベ夫人)

◎「機動戦士ガンダム」は地味でありすぎた為、ガンダムのオモチャがあまり売れないでいるらしい。弟・妹おもしろいのみをさまへ。誕生日やクリスマスのプレゼントには「ガンダム」のオモチャを買って上げましょう。（祝田政幸）

(祝田政幸)

◎鳥取県の田中君、長崎県の中尾君、高知県の下元さん、きいて下さい。えー、わが大分県の実の山奥の日田という町でも、「ガンダム」が見られるんです。それに、アニメックも発売されているし、そうなれば日田も立派な都会……？ではない！たかが人口六万五千人で。

(後藤広亮)

◎7号に載った秋田市の赤津サン、僕も同意見です。なんたって同じ秋田県人だもの。ところで、あきらめてはいけませんよ。積極的に放送局にはたらきかけましょう。署名を集めて送るとか……。ガンダムの放映されていない地方のみなさん、がんばりましょうね。

(田畑齊)

【機動戦士ガンダムフェスティバル】

インフォメーション欄より

8月27日東京東芝ABCホールで名古屋テレビ主催による機動戦士ガンダムフェ

スティバルが開かれました。当日は朝の5時から並んだ人もいて、主催した名古屋テレビの関係者もビックリ(人気はあるのになあ……)なんて率が上がらんのかなあ……といったところでしょうか?)

当日のフィルム上映は無敵超人ザンボット3「最終話」。女の子たちがいいかげん

インフォメーション

機動戦士ガンダム  
フェスティバル



機動戦士ガンダムフェスティバル  
8月27日東京東芝ABCホールで名古屋テレビ主催による機動戦士ガンダムフェ

当日のフィルム上映は無敵超人ザンボット3「最終話」。女の子たちがいいかげん

に泣いた所で無敵鋼人タイターン3、第22話「スターの中のスター」、そして機動戦士ガンダム第1話と2話という超豪華版。選んだ人のセンスが良いじゃないですか。

集まった400人も本当のアニメファン。上映中にストロボをたくバカ者は一人もいませんでした。(だいたい映写面にストロボたいてどうしようというのでしょうか。上映会のたびに腹をたてているのは僕一人ではないはすです。)

その他にもアムロ役の古谷徹、シャア役の池田秀一、ハヤト役の鈴木清信、各氏によるアフレコの実演もありファンを喜ばせました。(なにしろ当日富野さんが楽屋裏で書き上げたという必殺パロディ。追いつめられたシャアが「フフッ私にはまだガウ攻撃空母をぶつつけるという手段が残っているのだよ!」などという場面もあり、原稿が入手できれば誌上再録してみる価値あり。)

実演の終わった三人が口々に「富野さんですごいですねエ」

「よくこんなバカ話書くよね」

「根っからのバカなんだよ」

「バカ、富野さんは楽屋にいるんだよ」  
などという一幕もありました。

当然、富野さんの講演もあり、シャアの傷の秘密などというものもあきらかにされたのですが、ご本人は「僕は作品を通して話しています。こういう場所で話すのは邪道だと思う……。」とのことでした。集まったガンダムファン400人は全員もれなくプレゼントをもらって家路に就きました。

「ガンサイト」の石黒君たちが講演の終わった富野さんに、1時間ばかりインタビュウをしていたので、次の「ガンサイト」が楽しみです。(だって同人誌じゃなければ発表できないことって多いですからねエ)

※ガンサイトは、後にみのり書房刊「ガンダムセンチューリー」の編集を手伝う人材の出たFCである。もっともこの記事の最後の部分は、後で富野監督に叱られた記憶がある。



「ば、僕は作品を通して語っているんです。同人誌にだけオフレコの内容を喋ったりしません。だから僕はフィルムを見てもらえばわかるんです。失敬な」 はい。

【サークル欄】

◆G・F・C

ガンダムのファンクラブの中でもそのハードなことにおいては最右翼の存在です。ですから普通のミーハーの方にはあまりお勧めしません（超ド・ミーハーはまた別ですが）イラストはピカ一、評論もナカナカなものです。（会誌名はガンサイト）

東京都渋谷区 石黒慶彦



※ハード関係の設定では、ここがピカイチ。なにしろ「スタジオぬえ」に出入りしている人間が多かったから、MS-06はここが発祥の地とされている。

◆ホワイトベース（町田）

数あるホワイトベースの中でも中心的存在らしい。いわゆるファンサービスという意味では、なかなかがんばっていて、写真の第3号には、A R 台本や、三面図（ん？どこかで見た様な……タラッ）が載っています。会員には会員証が発行されるとか。（引越しのドサクサで細かい事書いた紙が……スマセン）

東京都町田市 「W・B編集室」



※放送開始の頃から、ガンダム関連の取材に動くと、どこにでも出没していたサークル。

他のアニメ誌の記者がいなくてもWB町田は必ず来ていた。会員が急増中で、見本紙をこれまで送れなかったという経緯がある。

「ガンダムはワイバーンして、今にホワイトベースなんて同人誌は山のように出ますからね。僕は最初から『W・B町田』を名乗るのですよ」と豪語していたのが印象的。

実際その通りになっちゃうんだから先見の明はあった。



◆機動戦士ガンダムF・C。ホワイト・

ベース。第3期会員募集中!!

富野喜幸氏、古谷徹氏、日本サンライズ、

名古屋テレビ等に御協力を得、着実な一歩を踏み出しました。

ガンダムファンの皆さん!共に語り、研究していこうではありませんか!詳細は50円切手同封の上、左記まで...

(会誌名WHITE・BASE)

広島県広島市 機動戦士ガンダムF・C

※この代表者も、上京してから2・22でロブ張りの手伝いをしてくれた。

だいたい、放送打ち切り決定前からファンだった層は筋金入りである。

◆アニメ愛好会 コスモポリタン

アニメ小説、マンガ、脚本などの創作をやりたい方、パロディ好きという方、ついでにガンダム好きな方、みんな仲良くしましょう。

入会希望の方は、50円切手同封の上、ご連絡下さい。

(会誌名BIRD)

石川県金沢市 東元恵子

◆ガンダム研究誌「機動戦士」

ファンクラブとか後援会ではないのです。ガンダム研究誌なのです。どこの公認も協力も得ていません。ガンダムについて積極的にうけとめたい方の御寄稿をお待ちしています。ガンダム関係のサークル、及び同人誌の方、御連絡下さい。「機動戦士」では3号より、そういったミニコミ／サークルを詳しく紹介しております。

東京都練馬区 本田登志子

※あたり前の話なのだが、とつても不思議な事に、それまでのガンダムF.Cはサンライズに許可を貰っていたのである。

というよりは資料を費いにサンライズや名古屋テレビに行ってたわけですね。

もちろん、今のようにならぬ数が多いと、どこも相手にしなくなってますけど…。

20年前つてのはこんな感じ。

◆アニメF.C アク・エリア

会誌アクエリアス コピー誌又は、オフセット誌 2ヶ月又は3ヶ月に一度発行。

会報コピー誌又はオフセット（不定期発行）アニメの好きな人なら誰でも但しユース会員にならないという人！50円切手同封の上。

大阪府南河内郡 藤森つばさ

【あにめえるより】

◆アニメック7号「表紙（ラナ）」と「コナン」「ガンダム」の特集が気に入って買いました。「コナン」の特集は、やや平凡……インタビューなどがあるともつと良かったのに……と思います。それから、これは、ほめ言葉……見たことのない場面設定図の掲載は、うれしかったです。さすがアニメック！

でも、アニメックの力が発揮されているのは、「ガンダム」特集ですね。カラーページがなくても、あれだけ、濃い内容があるってすごいですね。舞台の説明にインタビュー、そして感激したのは、サブ・キャラやメカの設定……少ないページで、本当によくまとまっています。

満足しています。

長野では「ガンダム」をやってくれないのですが、私は一応「ガンダム」のファンです。7話以降は、他県のいとこや友人に録音を頼み、テープを送ってもらっては聞いている次第です。絵はなくてもやはりストーリーの良いものは良く……♡耳からしか取り入れられないので、その分、BGMやセリフの言いまわしには、気を使っておりますので、見ている以上に感激しているのかもしれない。

どうしてもロボットの出て来るものは、見たり、聞いたりしていると疲れてしまうのですが、富野氏の作品には、あまり疲れを感じません。特に「ガンダム」は疲れるどころか、ストーリーにとけ込んでしまいそうです。

今は、真剣に見ていられるアニメが少なくて……「アン」と「マルコ・ポーロ」だけなのです。これで、「ガンダム」が始まってくれれば、もっと毎日の生活が楽しくなると思うのですが……。

アムロにフラウ、セイラ、ブライト……

彼らには、とても親しみを感じています。彼らのような仲間がいたら、どんなに良いことでしょう……。

今のところ、気に入っているのは、9話と13話です。他の話も好きなのですが……ガルマが死ぬシーンとか、イセリナが、「ガルマ様のかたき♡」と叫ぶところとか……セイラが泣くところetc. けれど、テープを聞き始めてから、この2話が私にとって、最も内容が濃いものです。アムロの微妙な心理が、とても良く表れていますし、他のキャラも十分に働いています……。

8号の特集では、もっとカラーページを多くして、6号みたいにカラーストーリーを載せてくださいね♡お願いします。

話数を指定してみたい気もありますが、それより、各話にステキなシーンがあるのだから、各話より抜き出して頂いた方がいいかしらん？ それからPIN-UPは、片面はシャアでもガルマでも良いけど、もう片面はメインのホワイト・ベースの8人にしてください♡（無理でしょ

うか?)

By the way 特撮映画史も、私のお気に入りのも一つです♡ 機会があれば、「アイアンキング」「緊急指令10-4・10-10」「ライオン丸」「シルバー仮面」「キカイダー」……(6号から買い始めたので、それ以前のことには知りません!!) の特集をやってください。特に「アイアンキング」と「10-4・10-10」は、あまり、詳しい人とかファンの人がいないのでさみしいのです。両方とも、好きでしたが、特に「10-4・10-10」には夢中でした。4年ほど前まで、サブタイトルリストと、雑誌の切り抜きを持っていたのだけれど、なくしてしまっ……!!

とにかく、毛利チームのメンバーはステキでした。ストーリーも良かったし……♡ アニメックの皆さま、食欲の秋、スポーツの秋ですから、体力をつけて、これからより充実した個性あふれる(むやみにOUT化して満足してはいけません)と思います。アニメックには、アニメックなりの個性があると思うんです……

個性、大切にしてくださいね。(誌面をつくってください。)

くれぐれもご病気などなさいませんように……お元気で……♡

長野県南安曇郡 あずさ

!TVアニメであるガンダムを見たことはいけどファンですという人が多いんですね。どうなっているのかなあ。

(K牧)

!おたく松本まで出て有線で見れば? 遠兵の前に街頭テレビがあるのに。音は出ないけど絵だけは見えるから。(U杉)

※「!」マークは編集部コメントである。時系列を乱すようであるが、この時のU杉の発言は反響を呼び、次号でこんな結果を生む。

【アニメック9号いんふおめーしょん】

より

■Uさん ありがとう■

地方特派員No.2松本市 市川ゆりこ

アニメック8号でUさんのいつていたガンダムが見れる街頭テレビを私も利用することになりました。

先日の土曜日に本町にある有線放送屋さんのデモンストレーション用の音なしテレビを見に行ったところ10人程の私ぐらいの年齢の人が集まっていました。

みんな、アニメック8号でここを知ったのだそうで二駅先から来ていた人もいました。でも大変なんですよ。

音なし画面を記憶しておいて三日後に東京の友人から送られてくるテープでその記憶の画に音を入れるのですから。

でもガンダムの画面が見れるだけでも幸せなのです。

※副編集長のU杉は、松本深志高校出身で、現地の穴場に大変詳しい。

それにしても、これだけのローカルネタで、近隣の中高生が有線テレビのデモ画面を流している場所に集結していたのも凄いではないか。

今の様に、これだけビデオが発達し、いつ

でも見られる状況になるとこのような高揚感、連帯感は何を得られないのではないだろうか？

#### 【編集後記より】

機動戦士ガンダム大特集パートIIはいかがでしたか？名場面集はインタビュでもわかるように制作室内部がスケジュールに追われているので望みのセルを撮影できるわけもなく、編集部で集められるだけ集めた写真で構成してみました。

次号はガンダム中特集ですが名場面といいきれるセルを掲載できるメドがつかましたので期待してください。

「たとえ気に入っている番組であっても、欠点やミスはファンが指摘すべきであり、そうして制作者に意志表示をしなければ、テレビアニメはいつまでも、今のまま良くならないのではないか？」という富野氏の言葉は、そのまま雑誌作りにあてはまることです。

編集員が足りないとか、引越しがあつて日程がずれたなどという言い訳はする

つもりはありません。

雑誌にとって一番大切な発売日を守れないアニメックを御愛読くださる読者の皆様にはお詫びの言葉もありませんが、次号は必ず予告した日に店頭にお目にかかれることを約束いたしますので、おゆるしく下さい。

(無能な編集長K牧)

追伸 女子編集員がひとり増えました。これで、次号から戦力アップ……かな？

何をぼんやりしていたのか、7号でミスをつくらかしたようで、深く反省しております。カラーページのコナン・メモリアルコレクションの、インダストリアは、ハイハーバーのまちがいです。全くの凡ミスです。モンスリーが好きだから、ついまちがえてしまった……などということはありません、絶対に。ガンダム19話は、飛べ！でなく翔べ！が正解です。「ビデオありやな……」「アニメックには、ロクな装備ないものな」というわ

けでゴメンナサイ。

それから、小特集のサイドの位置ですが、初期設定を使用したため、番組で使用されたものと違っています。正確にはサイド4↓サイド5、サイド5↓サイド6、サイド6↓サイド4、です。

今回は、航路図を描いてみました。既出のものに不満があったものですから。あんなものだと思うのですが……。

それから最後に、コロニーの重力を小数点以下何ケタも求めてくれた人がゴクローサマでした。あれはG $\parallel$ 9・8自体が近似値ですから、あまり意味は……ね……。

(U杉)

二伸 今回もガンダム質問がはいりませんでした。次回は絶対やりますからお許しを。

## アニメックの号

昭和54年12月27日、大騒ぎの末にアニメック9号が発売された。

年内に発売されたのは東京と一部の地域になってしまい、地方の人には大変迷惑をかけた号である。

毎月1日発売なのがいいが、1月1日に本を売っている店はない。つまり12月のうちに製本と配送が終わっていないなければならないのだが、例によって編集の遅れから、最後には印刷工場、製本工場を社長と回って頭を下げて懇願して作ってもらったという迷惑かけっぱなしの本である。

倍々で発行部数を増やして来たアニメックであったが、バックナンバーの注文が多く、この号の編集中には7号までが在庫ゼロ、8号ですら残り少ないという状況だったので、9号は驚くかなれの10万部達成号でもある。

当時10万部は弱小雑誌だと思っていたのだが、発行部数を正確に申告しているところは

ほとんどなかった事を後に知る。ようするに「公称〇万部」という奴ですな。(笑)

ともかく秋から暮れまでは猛烈に忙しかったという記憶がある。

それは、サンライズでガングラムの記録全集が発売される事になり、1号はほとんどサンライズが編集したものの、ちよつと雰囲気が違うから2号の途中で変更したいという相談が山浦さんからあり、毎日のように呼び出されていたからでもある。

ガングラムの後番組も決定し、トライダーG7の取材にも行ったりしているものだから、もうどここの社員だかわからない状態になっていた。

アニメックに「うちの小牧は行っていますか」という電話がサンライズから掛かって来るといふ珍事件も続発していたのだから。なによりも、秋口に編集部が仮設されていた木造二階建てのアパートが取り壊される事になり、編集部は一時的に引っ越しをするのだった。

今のラポートビルが建つまでの一年半は、編集部と営業部は付近のビルやマンショ

※山浦さん

山浦栄二企画部長(当時)この頃の日本サンライズでは、企画室で新番組を練る事が多かった。企画室のペンネームが矢立藤であるのは周知の事実だが、矢立部長という架空のキャラクターは、山浦さんがモデル



ンを転々としていて、資料の整理が大変だったという事も忙しさのひとつであった。

さすがに、眠る場所も必要となり地下鉄一本で往復できるように新高円寺にアパートを借りたのもこの時期であった。

アニメック9号「新年号」の巻頭カラーは、「ベルサイユのばら」特集。長浜忠夫氏にした最後のインタビュになってしまった特集である。

この号のセル画撮影は、全てカメラマンの飯野さんをこき使った力作だ。

現場でセル画撮影が出来る特技を持つ、飯野カメラマンはアニメック5号から、ほとんどのセル撮を担当していた。この人は人物撮影が得意で、後にファンロードで「カメラ万太郎」として大活躍する。一本木壺のデビュー写真もこの人だったのは有名。

この号に掲載したベルばら第5話「気高さを涙にこめて」のセル画は、ジ・アニメのカラーと組むと完全になる。

セルの入ったカッター袋を二社で交互に撮影したからである。

さて、話をガンダム特集に戻す。

この時期のガンダムスタッフの忙しさから、インタビュやコメントは一切なしに、編集部で独自に進めていた企画をどんと発表している。

ピンナップの二枚目はアマゾン上流をジャブローに向かうWBとモルフォ蝶の渡りという名場面。

裏の白黒画像は、初期のマイコンでドットを入力してプリンターで打ち出したアムロの絵。当時として、これでもかなりレベルが高かったのである。渡辺伸吾君という読者の投稿作品であった。

カラー特集は、ジャブローからソロモン攻略戦の名場面特集。生セルから直接撮影してあるのでフィルムを使うよりも細部が綺麗に出ていた。

設定ストーリーは、第27話から33話。各話用の設定書が半端な枚数ではなく、メカや人物が多数登場するので、設定資料集の中にストーリーダイジェストがはめ込まれたレイアウトにしてある。

機動戦士ガンダム大事典第二回は、人名編。

36話までに登場したメインキャラクターからゲストキャラクターまでを完全解説した。

この時の読者の突っ込みや質問を基本にしてサンライズと設定の調整をしたものが、現在も使われているキャラクター事典である。

白黒特集の最後には、今まで解説していなかった読者の些細な疑問に答えるQ&Aコーナーであった。ちよつと再録して見よう。

### 【ガンダムQ&Aコーナー】

Q…コア・ファイターの操縦席はガンダムとドッキングした時どうなるのでしょうか。どうも逆立ちの状態になるような気がするのですが。図解して説明して下さい。

千葉県 小林範明 他3名

A…設定書によると左図の通りですが、具体的にどう動くかという質問は遠慮させていただきます。

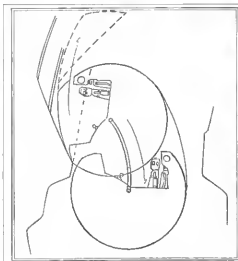
※設定書のままではいま一つ分かりにくいので拡大図にしたのだが、やはり分かりにくい。



Q コア・ファイターの操縦席はガンダムとドッキングした時、どうなるのでしょうか。どうも逆立ちの状態になるような気がするのですが。図解して説明して下さい。

千葉県 小林範明 他3名

A 設定書によると左図の通りなのですが、具体的にどう動くかという質問は遠慮させていただきます。



最近の設定書では、コクピットの中だけが半回転するのが図解されている。

なお、ザクは現場の意見がフィードバックされており、土足でシートに座ればそのままコクピットに移動できるシステムとして完成されている。

ガンダムの場合、重力下での乗り降りだと、精密な計器板の並ぶパネルをまたいでシートに座るといふ欠陥があった。

Q…ミライさんはヤシマなのかエイランドなのかよくわかりません。両方正しいのなら解説を。

相模原市 税所範子 他1名

A…ヤシマが本当です。初期の設定では八洲とエイランドが併用されていたようです。エイランドは、英語系の人間が八洲家に対して付けた愛称ではないでしょうか。(エイランド→エイト・ランド→八洲)本編ではすべてカタカナの、ヤシマに統一されています。

※これも、富野監督のインタビュで結論をもらうまでは、各誌編集者一同で混乱していたものである。

Q…ホワイト・ベースがまた宇宙へ飛び出すようですが、最高速マッハ12では第2宇宙速度はおろか、第1宇宙速度の毎

秒8キロにもおよばないのではないですか？

このへんはどう対処するのですか？

練馬区 大塚貴夫

A…その辺でミノフスキー粒子が関係してくるようなのですが、詳しいことは不明です。

※ミノフスキー粒子が、まだ電波妨害素子としてしか設定されていない時である。

松崎氏の頭の中には、初期のミノフスキー物理学があったようである。ただし、低空低速飛行の描写には驚かれたようで、後設定としてミノフスキークラフトを考えられた。

Q…ホワイト・ベースのマークー(オペレーター)の仕事内容を具体的に教えてください。

静岡県 鈴木久江

A…ホワイト・ベースのメインコンピューターのオペレーター(操縦者)です。コンピューターに情報を入れたり集まった情報を適当な形にして引き出したりし

ます。

たとえば、敵影をキャッチするのはレーダー系の役目（いない時には、オペレーターが代行するようですが）に對し、ここからのデータによって、敵の種類や有効射程距離までの到達時間などを割り出すのはオペレーターの役目です。つまり情報管理の要と言えます。

※マーカールとオスカだけがオペレーターの基礎訓練を受けていた訓練生。

さすがに目と耳の役割の重要ポジションなので、他の若者が代行できない。

目立たないが、一番大切なお仕事だったわけである。

Q…「マ・クベ包囲網を破れ」でホワイト・ベースに爆薬をしかけに行くジオン兵達は装備品の全てをレーザーに反応しないように、プラスチック製にしている、という事ですが、ランドローバーらしき物もプラスチック製ですか？

杉並区 氏名不詳

A…オールプラスチックというからには、そうだったでしょう。それなりの耐熱性、剛性を持った材質が開発されていれば、問題は無いと思います。点火も反応熱を利用するとか色々方法はあるでしょう。今現在の話ではないのですから。

※20年経つてみると、ほとんどそれに近い材質が開発されていたのだから、間違いではなかったようである。

Q…フラウ・ボウの服は連邦軍の制服に似ているけれど何？

フラウ・ボウだけズボンをはいていないみたいだけれどあれはなぜ？（サーピスかな？）

愛知県 加藤茂明

A…サーピスなのかも知れませんが、ひとつには、フラウは自分をあくまでも民間人として通したかったからとも考えられます。ですからストラックスをはくことに抵抗があったでしょうし、首のスカーフもそのあらわれではないでしょうか。

ベルファストで軍籍に入れられることに一番難色を示したのも彼女です。服は多分、大きな制服を自分でなおして作ったでしょう。

※ほとんど憶測のコメントであるが、今に至るも新説が出ないので、これでいいのかも。

Q…核融合炉エンジンで動く（飛ぶ）コア・ファイターが爆発した場合、放射能汚染の心配はないのですか？

福岡県 匿名希望

A…核融合炉ですから、炉自体はもともとそれほど安定なものではありません。ですから爆発時に消滅するでしょうが、反応中に発生する中性子を遮蔽していた物質が放射化しており、それによる汚染は十分考えられます。

※実際どうなのでしょうね？後に核融合炉の遮蔽にもミノフスキー粒子が応用されるので安全性は増したはずですが、コアファイターにも航空用タキムNC-3という核融合炉

があったような：最近は無いかしら？

Q…ガンダムの身長は18mで体重は60tに対し、ザクは17・5mで74・5t。ザクの方がガンダムより皮下脂肪―装甲が厚いと思うのだがどうか？

岐阜県 安藤也

A…装甲はザクの方が厚いでしょう。だからといってザクの方が強靱かと言うとそれは材料によるわけです。均質な結晶状態の材料が得られれば、薄い装甲でも高い強度を期待できるわけです。

※つてな回答から、ルナチタニウムの精錬に話が進み、宇宙空間における単結晶金属の生成とかまで勉強して、ガンダムの装甲がなぜ丈夫なのかを解説してしまうのだから、アニメックは病氣だと言われたのだろう。（笑）

Q…サイドで育ったアムロやフラウ達が、地球へ来てもなら問題なく動く事ができるのはおかしいと思うのですが……。

（遠心力による人工重力は、地球のふつ

うの重力方向成分のほかに、2、3のちがったモーメントによるものが働いて、6・5 km ともなるとバカにならないのではないか。私がサイド7に立つたらず歩くこと、コップの置き方から学ばねばならないと思うが……)

愛知県 佐橋亮

A・2、3のちがったモーメントって何ですか？なぜそうなのか、どんな力が働くのか具体的に教えてください。

(U)

※電子工学課の私と違い、機械工学課のU杉は、この手の「知ったふうな口を利く」質問が大嫌いであった。

直径6・5 kmのシリンドラーならば、普通に暮らせるといふシミュレーションは十分に繰り返していたから、ありえない力のモーメントの存在が許せなかったのだろう。

私に頼まれて港のすぐ下から地表に向かって壁を蹴った人間にかかる重力加速度なんて面倒な計算をやらされていたから、なおさら腹が立ったものらしい。

#### ● 論争の進み方

ガンダム論争は、雑誌の中でも進められた。Q&Aの佐橋君のモーメント問題は、ある意味では計算間違いだけで、コロニーがもっと細いなら当然起きるコリオリ力の事だから、これはこれで鋭い質問なのである。

ところが、「オイオイ」と突っ込みを入れないような質問も多かったのである。そんな時に後によく見かけるタイプの手紙が届いた。「うちの読者が、自分で反論できるだろうか」という期待で、わざと編集部コメントをつけずに読者欄に掲載したのが、次のメールである。その様子を少し追ってみよう。

#### 【アニメック9号あにめえるより】

◆私、GUNDAMを見ている一少年であります。近頃どの雑誌を見てもGUN、GUN、GUNDAMとさわいでいるが、なにより、今までの適当アニメとたいして変わらないと、私、考えております。だいたい、宇宙空間でどうしてバルカン砲が使えるのか？（フー、つかれるんだよねあー！）

それに、私、アニメックのコアファイターの図を見たのですが、あの小さな機体に30mmのバルカン2連2門にミサイルまで装備している……。まあ、つつこむのは、そっちの勝手でしょうが、もっと現実的に考えてもらいたいです。

30mmバルカン砲は実際にアメリカのフェアチャイルドA-10という対地攻撃機に装備されているけど、コアファイターには1門つめるか、つめないかってとこだろうな！

それから、後半にかけての内容が、またいつもの、ロボットフロレスアニメにもどっちゃいましたね……失望しました！サンライズさん、GUNDAMの次の作品に期待します。

神奈川県横浜市 大田憲司

【アニメック10号 あにめえるより】

◆私、ガンダムファンの一人であります。9号で気づいた事を2、3でしゃべらせていただきます。コラッ、太田憲司、お前はアホか？バルカン砲が宇宙空間で使

えないとも思っているのか。バルカンの火薬（詳しくは発射薬と点火薬）には含酸化化合物を使用してあるから真空中でも冷却と衝撃にさえ気を配れば十分使える。（核融合エンジンなら二酸化炭素冷却機ぐらいは当然あるはず）おまけにバルカン砲の大きさも未来には小型化するだろうし、核融合エンジンなら超小型であつてもとれるから十分ミサイルもつめるだろう。

第一、数百年後の科学を今の常識で考えようとするから無理がある。大塚君、第一宇宙速度は高度によって異なりますよ。（当然第二宇宙速度も）

それから佐橋君とUさん、遠心力による人工重力のちがったモーメントといいますが、（無重力なら）円周内部に加わる力は恒に一向向なので問題はないはずです。ただし重さが一定するものは、動かない物、もしくは中心軸から離れる方向に高速で移動すれば回転スピードを上げることになるので、「重さ」は大きくなる。（要するに回転方向に移動すると重

などです。

福岡県大牟田市 杉野 正幸

さが増す)そして移動方向が反対なら軽くなる問題がありますが。(物理を勉強しましょうネ)

それからプラスチックの耐熱性ですが、アポロ司令船のカプセルは一万三千度の熱に耐える耐熱プラスチックです。(現在でもこれだけの物があります)バルカンの所でいい忘れましたが重力中でも真空中なら弾丸は十倍も射程が伸びます。まして無重力なら相当な破壊力を出せると思います。バルカン砲は電動ガトリングといった所で一秒に1000~1200発の連射が可能です。現在、薬きょうを排出して自動的に燃えつきて排出の必要をなくした物もあります。

ガンタムのSF要素はたいしたものでした。ガンタムに惚れたみなさん、SF小説を読みましょう。ジェリー・カーライル・シリーズ「宇宙の戦士」に「宇宙船ビッグル号の冒険」「渡り鳥都市シリーズ」「リム・シリーズ」最長の「ペリーローターダン・シリーズ」(ギネスブックにのってるよ)「レンズマン・シリーズ」

！ガンタムを正當に評価している人はこれぐらいのSF知識を持っているものだと……思っていた私が、バカだった(K)！人工重力のちがったモーメント？

で、こちらが問題にしているのはコロニーの地面に対して垂直に動く場合(つまりコロニーの力)のことです。コロニーは直径が大きいので、手の上げ下ろしくらいではあまり影響はでないはずなのに2、3のモーメントと書いてきた佐橋君に対して逆に質問したわけです。それから……。あつ、もうスペースが無い。(U)

※もつともその本人からもちゃんと返信が届いています。同じく10号から。

◆みなさん、あけましておめでとうございます。9号で全国にそのアホを晒した佐橋ですが、今日はその訂正をするため

(115ページに続く)





# 最初のカラー記事





ザクは、爆発し、サイド7の外板がはじけ飛んだ。その時、今度はもう一機のザクが突然襲いかかって来た。「今度ザクを爆発させたら、サイド7の空気がなくなってしまう」  
 アムロの頭に一瞬ひらめくものがあった。  
 「そうだ!!」  
 アムロは、ザクのコクピットに剣を突き刺した!!  
 「やった!!」  
 戦いが終わリサイド7の中でガンダムは、一人立ちつくす。しかし、ジオン公園との戦いはまだ終わらない。この戦いの後に残るもの、それは一体何なのであろうか。

モビルスーツ

8号のこの特集を見て、機動戦士ガンダムの内容を知った未放映区域のファンはかなりの数であった

# アニメックへの道



MANI FIC創刊2号 昭和54年1月号  
「アルプスの少女ハイジ  
特集号」



MANI FIC創刊号 昭和53年10月号  
「秋のアニメ新番組特  
集」



アニメック創刊5号 昭和54年5月号  
「東京ムービー特集号」



MANI FIC創刊3・4号 昭和54年2月・3月合併号  
「ガンボット3特集号」

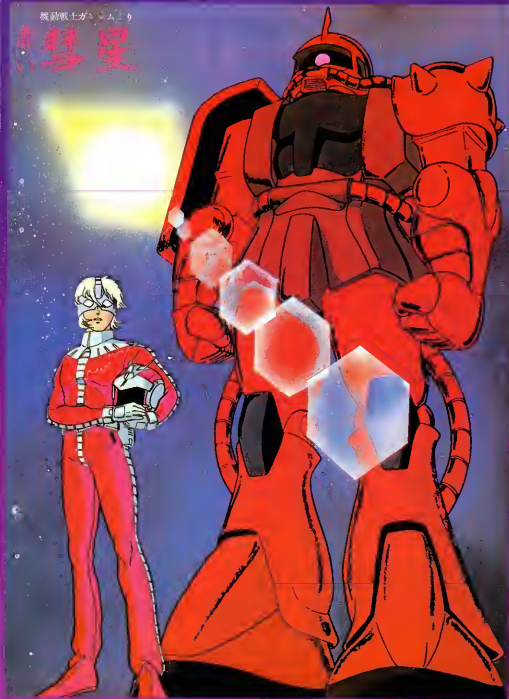


# アニメック7号のピンナップ (伊藤秀明 原画)

原画・トレス・彩色はおろか、背景まで伊藤氏の力作。ちなみにこれより前に発表されたWBの前のガンダム（歴史編トビラに収録）というピンナップは某遊園地のポスターに再利用された。

機動戦士ガンダム

星







COLLECTION PIN-UP

## アニメック8号のピンナップ (出淵 裕 原画)

もともと絵が得意だった出淵氏が商業氏に初めて発表したイラスト。セル画ばかりだったので、大変好評だった。

## アニメック16号

『機動戦士ガンダム大事典』として、15号と17号の間に発売された初の別冊。6号から10号を編集しなおした本でガンダム特撮は収録されている。アニメック本誌の16号というものはこの世に存在しないのである  
昭和58年3月1日号



## アニメック9号 ピンナップ

(本編より)

スタジオで撮影したセル画を合成したものの

## アニメック16号 広告より

青年層をターゲットにしかガンダムグッズはほとんどアニメックから発売され、大人気となっていた

G

機動戦士  
**ガンダム**  
THE ANIMEK

# 大事典

Animet 別冊

定価 ¥ 500

■特別付録

**ガンダム  
アドレスカード**

1話〜43話設定ストーリー  
6〜10号ガンダム特集ダイジェスト

■特別記事

**決定版ガンダム大事典  
スペシャル・マンガ**

●徳間書店

16号

ガンダム商品大特集

|                                    |                                    |
|------------------------------------|------------------------------------|
| <p><b>A</b></p> <p>ガンダム 1,500円</p> | <p><b>B</b></p> <p>ガンダム 1,500円</p> |
| <p><b>C</b></p> <p>ガンダム 1,500円</p> | <p><b>D</b></p> <p>ガンダム 1,500円</p> |
| <p><b>I</b></p> <p>ガンダム 1,500円</p> | <p><b>J</b></p> <p>ガンダム 1,500円</p> |

ガンダム 1,500円

ガンダム 1,500円

ガンダム 1,500円

ガンダム 1,500円



に筆をとりました。

「2・3のちがったモーメント」と言うのは、「コリオリの効果」のことです。しかしコリオリの力は、 $\omega$ が大きくなければ別にこれといった問題はなく、6・5 kmもあるサイドでは人間が感じることはできません。またサイド内で、飛行機を使うのでなければ、これ（乗りもの）も問題はありません。しかしひるがえって考えてみると、ホワイト・ベース内の人工重力区画には、かなり大きく作用するはずですので、長期にわたって、そのような所で生活したあとは、カンがくるってへたに走ったりすると、コケるかもしれません。

つまり基本的なところでまちがっていたわけでして、その点ではアホと言われても弁解の余地はありません。初めてアニメックに載ったのにアホを晒してしまっただけ！

愛知県岡崎市 佐橋亮

！重力ブロックはせまいので走れません。

（という話をサンライズでしていた）  
シャワールームは重力ブロック内です。

（K）

！ $\omega$ が大きくなれば……という所にまた問題がありそうですね。

（U）

！コリオリ屋ならわかるが……。

（L）

※後にスペースシャトルの資料を取り寄せてわかったのだが、WBの重力ブロックが1分に1回転しているようであれば、半日乗っているだけで頭痛と目眩が起きるかもしれない。コリオリの力が原因となり、遠心重力でもこれだけ早いと人間に影響が出るそう。

つまり佐橋君の指摘した通り、長期間WBの重力ブロックで生活した場合に何らかの影響が出る可能性はあったのである。

ろくな設定が表面に出ていない時期に、重力ブロック内で激しい動きをすると、身体に違和感を覚える程のコリオリ力が働くのではという高度な論争を読者を交えてしていたのに注目して欲しい。（笑）

## 【ガンダム関連の記事】

いんふおめーしょん より

## ■ガンダムレコードしんはつばーい■

「機動戦士ガンダム」オリジナル・サウンドトラック盤パートII。戦場で。が、11月21日、全国一斉発売！

予約だけでも1万枚を越えたこのアルバム、あちこちで即日売り切れの声が聞かれましたが、君はもう買いましたか？

「シヤアが来る」を筆頭に、渡辺岳夫、松山祐士両氏作・編曲による挿入歌3曲を含む13曲が収録されています。

華麗なるジャケットは安彦和良氏の描きおろしイラストにセル画30点を掲載。予約特典のポスターももちろん、安彦氏のオリジナル！安彦先生はこのお仕事が終わったとたん、お倒れになったとか……。セル画も名場面をよりすぐってありシヤア・ファンはもちろん、ガルマ・ファン、マチルダ・ファンにも、満足できるものだったのではないのでしょうか。パートIでは、トラックダウンの方法が

まずかったのは、ゲイナミック・レンジがずいぶん狭く感じたのですが、音にうるさいファンのみなさん、今回のLPはどうでしたか。

なお、発売元のキングレコードから米春早々「佐武と市」「仮面の忍者赤影」のLPが発売されます。お楽しみに！！

「機動戦士ガンダム」オリジナル・サウンドトラックパートII。戦場で。

レコード No. SKD (H) 2015  
発売元・キングレコード

定価2000円

※それにしても(笑) 本編でシヤアが来るがかかった時にはどうしようと思ったものだ。

## 【アニメックからのおしらせ】より

「アニメックなんて知らない」と本屋さんがいきました。」という読者の方が多いのですが、現在アニメックは全国の本屋さんで必ず入手できます。(大手取次7社に加入していない本屋さんには別ですがね)

※取次大手7社

最初は東販と日販と書こう出版関係では知らない者はいないという大手と社から取引を始めた。

地方の本屋さんによってはお取引のない書店もあったので取り次ぎ店を増やしていったのであるが、

「うちを含めて大手4社です。うちまで、大手7社です。」という返事

だったので、「取り次ぎ店は大手しかない」と認識している

※「あつ、危ない」  
弊社発行で初の版權許諾を受けたパロディ感作集「超弾動爆発II」の帯に書かれたキャッチコピー。たしかに予告キャッチに使ったのは全裸のトルーパーだったのだが……ちゃんと届いたのだからいいか

それにしても、ラポート株式会社に申し込んでくれない本屋さんの多いこと……。こんな雑誌注文票ではアニメックは入りませんよ！

※TVガイドの影響で「カクエツ館出版」のアニメックという申し込みはまだ続いていた。それにしても徳間書店のアニメックという注文がちゃんと届くのも凄いね。

サムライトルーパーの時には、ラポートの「あつ、危ない」を下さいという注文も届いたくらいだ。本当のタイトルは「超弾動爆発II」である。

# 【あにめえるすべしやる】

◆現在、一番面白い（と私は思う）アニメ、「機動戦士ガンダム」。ただ一つ、ケチをつけさせてもらおうと反戦的人物があまりにも弱く描かれている、ということだ。「ガンダム」の主題とはその主題歌が唱っているとおり、まだ怒りに燃える闘志があるなら巨大な敵を討てよ。

なのであるがそれにしてもやや不満である。セイラやブライトが言う「軟弱者」という言葉、少々頭にくるのだ。戦争に反対し、参戦を拒否するという事は、即逃げ出すという意味ではない筈である。あまりにも、一面的過ぎる物の見方ではないか。サイド6は逃避者達の集落か？ そうではない筈だ。33話で「こんな目に会ってまで、戦いを止めさせるのは御免ですよ。」と言った上官とは、反対の人物を一人描いてはしなかった。あまりにも弱いではないか、あれでは……！

戦争というものは、結局「力」で終わらせるしか方法がないのかもしれない。しかし「ガンダム」の中で、もう少しその反対側からの描写を入れてほしい。

さて、その「ガンダム」も、もうそろそろ終わりである。現在（11月下旬）私はその最終回がどの様になるか、全く想像する事ができない。

登場人物達が我々に与える、彼らの戦争における位置というものは大きい。しかし歴史——それも世界単位になった時

——というものは10人やそこの英雄でどうにかなるものではない。アムロやシヤア達によって、この戦争が何とかなるといふものではないのだ。「ガンダム」は、少年達のドラマである。が、歴史の動き、時の流れという大きなものを無視した、スケールの小さい終わり方にはしてほしくないものである。彼らも結局は何十億分の一という存在だ。しかしそれが大切なのだ……。この両方が感じられる様なラストを期待したい。

つまり、私は何を言いたいのだろうか？  
このように見ている者を混沌に引きずり込むのが「ガンダム」の良い所だ。下手な小説よりよほど素晴らしいアニメだと思いませんか？

千葉県柏市 軽部啓子

◆ガンダムの打ち切りは非常に残念でした。しかし、ある程度予想されていたことでした。たった一度の放映でガンダムのようなアニメが視聴率に反映するほどの支持を受けるなどということは、今

の日本の文化水準から見てもちょっと難しいのではないのでしょうか。

アニメ界の外部では「ロボットアニメ」という固定概念と偏見に足を引っぱられ、内部ではガンダムの質の高さ自体が足枷になっている、というわけです。

ガンダムの質の高さの第一の要因はキャラクターの人間関係を描くのに力を注いだことでしょう。アムロ以下のキャラクターが、ホワイトベース側、ジオン側を問わずすべて異様なまでの実在感をもっており、しかも、その実在感がぶつかりあうことによって新たな感動が生まれる……。このようなアニメが今までにあったのでしょうか。

少なくとも、僕がアニメの主人公に「人間」を感じたのは初めての経験です。アムロに比べれば古代進などはただの平凡なキャラクターとは思えません。

しかも、ガンダムの制作者は、キャラクターを一つの型にはめてしまうことをせず、キャラクターの変化、というか成長を描こうとしています。アムロだけでな

くミライもカイもセイラもブライトも、成長しています。

僕にとつて特に印象深かったのはオッパサの戦いからジャブローにかけてのブライトの微妙な変化でした。ブライトの内に秘めた怒りが無力感のようなものに転化しかけていたように思われるのですが、どうでしょうか。

それともう一つガンダムのたまらない魅力は、ストーリーの底を流れる「静かな怒り」とも言うべきムードです。富野さんのインタビューなどを読んでみると、このムードが昇華されて新しい何かが創造されるように思えるんですが……。

変に勘繰りすぎた、と僕を非難する人は多いかもしれませんが、自分でも時々そう思うんですが、やっぱり考えたくなくなるんです。ガンダムの「重さ」でしょうか。と言ってもいつもこんなことばかり考えてるわけでもなくて、たまにはミィーハーにもなります。例えば、マ・クベのファンが僕のほかにいたとは驚きでした。いやまったくマ・クベはすばらしい。武

北海道千歳市 田村みゆき



人を気取ったり、ヒューマニズムにへつらったりしないのに妙に個性のある所がいい。これはなかなか難しい事ではないでしょうか。上すべりにならずには悪役に徹したキャラクターというのは珍しいんじゃないかと思います。特にマ・クベの最後のセリフには、意味深い所がありま

す。「あと10年は戦える」と言った時、マ・クベは「勝てる」とは一言も口にしなかった。要するに戦争をすること自体を愛している男なんですな。

だからぜひ「復活のマ・クベ」といつてほしいんだけど、まあ無理でしょう。でも例えば、敗色の濃くなったジオン公国でマ・クベがクレーターを起こし徹底抗戦を叫ぶ。シャアは、マ・クベの手先となって親の敵を討つ。なんていうものなかなかいいと思うんだけど。もう遅いかとにかく。追っても追っても掴み切れないのがガンダムの世界です。

大阪府吹田市 今村徹

◆機動戦士ガンダム、ほんとにすばらしいアニメですね！アニメやマンガしか見ない人にはピンとこないかもしれませんが、このアニメは軍事的、戦略的、社会的、心理学的に実に理にかなったアニメなのです。そうSF小説でいえば、スペーローダンと言ったところでしょう。このアニメを見ると、たとえば数十

年、いや数年後に現実起きたとしてもおかしくないのです。実際にPANTHERでしたか戦車マガジンでしたかに、ガンダムの事を書いた投書が掲載されていました。アニメーションの面から見ても、これほど視聴者の幅を絞り、作品としてつぎつめたものが、今まであったでしょうか。ただ悔やまれるのは、宇宙に出てからのホワイトベースが安っぽいロボットアニメの様に強すぎる事。ろくに武器のないシャアのザンジバルがなぜあんなに強いのか。それに昔使ったセルを再び使い、その為GファイターであるはずのものがGスカイになっていたりする手落ちがなければ100点満点に近いんですがね！ 神奈川県秦野市 落合康宏

◆「ガンダム」が予定より早く終わることを聞いた(記事を読んだ)ときある言葉思い出しました。「ガンダムっておもちゃの売れ行きよくないんだろう？あれ、途中で放送中止になるかもしれない。スポンサーが金を出せなくなるだろう」と

いうものでした。

くそ！あと2ヶ月ほど……。しかし決まったものは仕方ありませんね。よろしく、ガンダムの映画を作らせよう!!ガンダムの映画、みたいよ！

福岡県北九州市 安本一生

◆ガンダムが一月で終わってしまったうんてあんまりです。あの素晴らしい作品がかけ足になるなんて、現代のTVアニメ、商業界の構造にひたすら腹がたちます。それを甘受している自分自身にも腹をたてています。情けないやら、もったいないやら……。

先日の、アムロが父に再会するところなんて、あんまりでした。アムロもかわいそうだったけれど「ガンダム」という作品が本当にかわいそうでした。それでもガンダムの世界、雰囲気を守って、最後まで創作なさるのだと思います。

制作スタッフのみなさま、がんばって下さい。

大阪府堺市 井上有子

◆札幌の富樫君へ！なにな、6日間ばかり本屋通いをして白い目で見られたからお手紙出すなんて！軟弱者！私なんざ、「あのー」と言うだけで「あつまだ来てないよ」。うーっ、この一発なのじゃ。

山形県酒田市 佐藤由紀

◆スタッフに続けたかったという気持ちがあるのに、強引に終わりにもっていかなくはならないというのは、残念なことです。おそらく、こういうのは、2度とでてこんでしようから。マニアにしかわからんというのは、商業ベースにのるはずがないのですから。(同じことを、5年前のヤマトのときにも言ったような気がするが——)くやしいです。

京都市左京区 山元弘

◆9月のある土曜日、受験生である小生は、5時半頃、なんとなくテレビをつけた。久しくテレビと縁を切っていた小生は(嘘ばっかし)ある番組を見た。

大地に轟くような音とともに地球の後ろ

から太陽の光がさしてくる。

「ガッチャマンみたい」と思いつつ、テーマソング（⑩ベ！ガンダム）を聞く。

その時は「覚えにくいへんな曲だなあ」と思った。今になって思えば、この曲はスルメみたいな曲で、聞けば聞くほどいい歌だ。CMが終わり、前回のちょっとした説明の後「死闘、ホワイトベース」のタイトル。そこから不幸ははじめた。な、な、なんとすばらしいアニメか。くどくど説明する必要はないだろう。そしてエンディング（永遠にアムロ）。これもテーマソングと同じスルメソングだった。

次回（21話）でのリュウの死、24話でのマチルダの死。始めから見てないのでよくわからないが、ストーリーの上の大切な人物のなんてまああつけない死。どこかの番組の仰々しい死とはまったく違った戦争の中の命のあつけなさや頼りなさ。（マチルダの時なんて特にそう思ったし、リュウだって休んだりするつもりじゃあなかったんだろう。）作者が戦争

なんてこんなもんだよ、味方が誰も死なないなんてことないんだよ、カッコいい死ばかりじゃないんだよ、と言っているように小生には思えた。他に数えきれない程すばらしい所を持っているこの。ガンダム。が低視聴率だなんて考えられない。

この投稿が載る頃には、ガンダムは終わるらしい。小生は次のようになることを望んでいる。（無理だと思っけど）最終の戦いでアムロとシヤアは、交戦中にジオンの砲火でやられる。ホワイトベースもブリッジが直撃されて、カイ、ハヤト、セイラだけが生き残る。そして連邦軍の勝利。

こんな事を書くにあつちこつちから攻撃されるけど、戦争なんてそんなものだと思う。正義が必ず勝つというわけではないのだし、ましてや戦争の中では味方が正義であり、結局、勝つ方だけが正義なのだから。それにアムロやシヤア、ブライト、セイラなんかは、戦争の中のほんのほんの一部分なのだし最前線に立つ





## 9号特別付録 ガンダムかるた

※アニメックになって最初の新年号である。

おめたい物を付録にしたかった。

かくしてB5四枚の厚紙にカルタを印刷する事にした。

絵札も読み札もマッチ箱のラベル程度のミニカルタではあるが、内容の濃さたるや天下一品と自負している。

編集部が撮影したセル画だけを使って絵を選び、それに読み札を考えるわけだが、これだけの枚数に2晩ほど徹夜している。

さらに絵札は、何話のカットナンバーまで入れるというマニア以外は使わないようなカルタである。

予備札にしたのは、いま一つゴロの悪かった物なので、自信のある人は自作してみたらどうだろう。

凡例 五十音 読み札

話数とカット番号

その絵札の裏にある説明

●あ…アムロ、ガンダム発進します

第29話C—363

ジャブローのある地下空洞で、シャアのズゴックを追いつめた時、突如出現したゾックのビームをよけたカットです。アムロとシャアの再会のシーンは印象的でした。

●い…いやな性格アムロのママさん

第13話—C189

アムロが、ジオン兵を撃ったカットです。どっちもどっちだけどアムロの母の、女性ゆえのおろかさに歯きしりした人も多かったのでは。

●う…麗しの美少年は謎のひとつ

第20話—C276

ラルがW・Bに侵入してきたシーンです。萩尾望都タッチのこの金髪の美少年、チラチラ出現するのですが、名前は不明。ジョブ・ジョンではありません。

●え…英知の結晶モビル・スーツ

第24話—C 28 1

三連星がジェットストリーム・アタックをかける直前のカットです。この後の二度目のアタックの時、マチルダは死にます。

●お…お待たせしましたシャア大佐

第28話—C 33

フラナガン・ブーンより、ミハルをホワイト・ベースへ潜り込ませたとの報告を受けたシャア大佐です。再登場が待たれていたシャアですが、それにしても彼のマッド・アングラーのデザインは……。

●か…ガンダム運ぶガンベリ

第8話—C 16 1

ガンベリでガンダムを輸送したシーン。この様に完成体で運ぶ時と空中換装用に、パーツに分けて運ぶ場合とがあります。その他

にガンベリにミサイルを積む事もあります。

●き…キッカのいたずら、ミライのヌード

第17話—C 34

キッカのいたずらといっていますが、本当は洗濯していたカットです。アムロのうろたえぶりがおかしかったシーンでした。

●く…奇しき縁の姫とラル

第20話—C 29 1

ホワイト・ベースの中で、セイラ（アルティシア）とラルが再会したところです。ラル



の若い頃、ラルの父、ジンバ・ラルが、セイラの父につかえていたわけです。

● け…決死の覚悟もラルのため

第20話—C335

カーゴの中で夫の死を知ったハモンの心中やいかにといったところです。この時夫の復讐を決意し、21話の「激闘は憎しみ深く」へと移行するのでしょうか。

● こ…これで勝てねば、おまえは無能だ

第8話—C25

ガルマがバイソンと通話しているところです。この後、シャアに「これで勝てねば貴様は無能だ」と言わしめ、自らの無能を証明して（つまり負けて）しまうわけです。

● さ…山陰地方はアムロの故郷

第13話—C12

アムロが故郷の山陰の町を歩いている所で

す。少々ヨーロッパ的過ぎる気もしますが、まあ現在のお話じゃありませんし実際問題としてモロ日本家屋が出てきたらという事もあります。

● し…しばしの休息ホワイト・ベース

第13話—C4

山陰の海岸で、しばしの間、翼を休めているホワイト・ベースです。この海岸の感じはちゃんと日本に見えますが、ここからアムロは母のもとへ飛びます。

● す…水爆ミサイル一刀両断

第25話—C347

マ・クベが放った水爆ミサイルを、ガンダムが使用不能にしたところです。南極条約で提示されたラフなデータだけで一歩まちがえば…というシーンだったのですからアムロがニュータイプというのも…。

● せ…背は低くても、闘志満満

第29話 C 87

ジャブロー基地での身体検査の一場面です。検査をいやがって逃げまわる三人組でしたが、女医さんの方が一枚上手。いいようにあしらわれてしまったのです。

●そ…空飛ぶガンダム、Gスカイ

第25話 C 278

ガンダムに乗せたGスカイです。この時のパイロットはハヤト・コバヤシで、Gスカイは、BパーツのはいっていないGスカイ・イージーというタイプです。

●た…たいへんだよベンキ塗り

第19話 C 23

ラルの追撃を避けて、谷間で修理を進めているホワイ特・ベースのワンカットです。カツ「やんなっちゃうんだよ」キツカ「ニヤン、ニヤン！」

●ち…チビのおもりはフラウの役目

第26話 C 77

ベルファースト基地でのレビル將軍との謁見のシーンで、チビたちがはいってきたカットです。フラウがチビたちの母親的な役目をはたしています。アムロに対してもそれ的などころがありますが。

●つ…土のにおいに思いはつのる

第7話 C 280

地球に着いてから、老人たちが地上へ降りせとタダをこねているところです。気持ち

|                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |                        |
|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| ① アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ② アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ③ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ④ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ⑤ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ⑥ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ⑦ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ⑧ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ⑨ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ⑩ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ⑪ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ⑫ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ⑬ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ⑭ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ⑮ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ⑯ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ⑰ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ⑱ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ⑲ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ⑳ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㉑ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㉒ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㉓ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㉔ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㉕ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㉖ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㉗ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㉘ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㉙ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㉚ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㉛ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㉜ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㉝ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㉞ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㉟ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㊱ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㊲ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㊳ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㊴ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㊵ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㊶ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㊷ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㊸ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㊹ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㊺ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㊻ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㊼ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㊽ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㊾ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 | ㊿ アムロ・バ<br>ンダムが乗<br>る。 |
|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|

わかるけど、本当にゲグをこねているとしたか  
思えないような老人たちでした。

●て…敵のスパイも生活のため

第28話—C 41

ホワイト・ベースに潜入したミハルが、机  
の下に隠れている。銃を向けている相手はカ  
イ、ここでミハルとカイの再会になる訳です。

●と…どうして降りるのこの船を

第17話—C 297

すねたアムロが、ホワイト・ベースを降り  
ようとしているところです。

すねて降りるのも良いのですが、ガンダム  
といっしょというのは、なんともはやといっ  
た感じです。

●な…なんで壊すの、うるせえな

第8話—C 57

ガルマをだますために、ガンベリーのコン

テナを爆破しているところです。それにして  
もチビたちのうるさいことといったら。

●に…逃げるしたくのランバ・ラル

第19話—C 320

ガンダムにやられた直後、ラルがワイヤー  
を投げてグフから脱出しているところです。  
ワイヤーはガンダムに引っかかり、ラルはグ  
フの爆発からかうじてのがれます。

●ぬ…抜いたサーベル、ドムをひと突き

第25話—C 336

ガンダムが、三連星の最後のドムを倒した  
ところ。ドムの搭乗者はガイアで、彼は他の  
二人、マッシュとオルテガの仇を討てずして、  
無念のうちに死んでいました。

●ね…狙いはひとつ父の仇討ち<sup>あだち</sup>

第6話—C 324

シャワールームから出たシヤアが、バスタオルで頭をふきながら、ガルマと会話をしているところ。この時、ガルマはシヤアに裏切られるとも知らずにいるわけです。

●のハノーマルスーツのシヤア少佐

第2話―C 92

サイド7へ潜入しようとしているシヤアです。この時シヤアはまだ少佐で、ドズルの配下でした。この後、セイラとの一度目の出会いがありました。

●はハヤト・コバヤシ、タンクの名手

第11話―C 108

イセリナを加勢するシヤアのルックンの攻撃を受けたガンタンクです。パイロットはハヤト・コバヤシ。彼の生真面目な性格に好感を持つ人も多いのでは。

●ひびと風呂あびていい気持ち

第6話―C 317

ひと風呂あびてといっていますが、本当はシャワーをあびた後のカットです。場所はガルマ基地内。それにしてもガンダムにはヌードシーンの多いこと。

●ふひ復しゅうの炎に燃えるイセリナ

第11話―C 288

アムロに向かって銃をかまえるイセリナです。この時のイセリナの言葉「ガルマ様の仇！」に、アムロの心は傷つき、一時的な精神衰弱におちいります。



●へ…兵士の重荷がアムロを責める

第9話—C 12

枕に顔をうずめているアムロです。戦い疲れ、恐怖にうちひしがれた主人公。ガングラムの新鮮さは、こんなところにもあるのです。

●ほ…坊ちゃん育ちのガルマ・ザビ

第6話—C 23

ひさしぶりにガルマとシヤアが再会したシーンです。何となくただならぬ関係を示させて、竹宮恵子じやという感じもしたのです。髪を指に巻くというクセが、何となく女の子好みだったようです。

●ま…まきぞえくったダロタさん

第11話—C 277

イセリナと特攻したダロタ少尉が、戦死したところです。イセリナのひたむきさにほだされたのかどうか、いずれにしてもかわいそうな人でした。

●み…ミハルにそっこんカイ・シデン

第28話—C 57

ミハルを自分の部屋へかくまおうとしているカイ・シデンです。この二人、けっこう似合いだったのに、心をかよわせる間もなく、ミハルは大西洋に散ります。

●む…息子の戦死に驚くデギン

第11話—C 14

ガルマの戦死を知り力を落としているデギン・ザビ公王です。甘ちゃんとはいえ、なかなか有能だった末っ子のガルマに対するデギンの思いはどれ程のものでしたのでしょうか。

●め…目と目が合った敵、味方

第19話—C 313

互いのコクピットの破れ目から対面した、アムロとラルです。アムロが平服なのは脱走中だったせいですが、それにしてもなんと都



合よくコクピットが破れたものです。

●も…モクモクけむりは発煙筒

第8話—C118

敵を欺く為、発煙筒をたいて、ガンベリーのコンテナの穴から煙を出している所です。これでガルマはまんまとあざむかれ、視聴者から、無能者よばわりされることになります。

●や…やさしい母と別れたアムロ

第13話—C29

回想シーンです。この頃の母親は、アムロにとってやさしいママだったはずなのですが、アムロの成長につれて、溝が広がっていったようです。

○…予備札

第11話—C29

イセリナがダロタ中尉と、なきガルマの部屋へ行く為に移動路に乗っている所です。そ

れにしてもダロタさん、密かにイセリナに思いを寄せていた一人だったんでしょーけど。

●ゆ…勇者のかんろくりユウ・ホセイ

第13話—C122

ホワイト・ベースと接近するジオンバトロール、ルッグンを迎撃する為に発進したりユウのコア・ファイターが空中戦を展開しているワンカットです。この頃リユウの死を誰が予想したでしょう。

○…予備札

第26話—C90

ベルファストにおけるレビル將軍との謁見のシーンでのマークーです。本当はこのカット、アムロのカットなのですが、マークーもシビアな顔をして写っています。

●よ…容姿端麗、セイラ・マス

第31話—C184

追撃してくるザンジバルの攻撃に対し、G

ファイターで出撃したセイラです。放映当初、冷静沈着で少々クールな感じのしたセイラですが、やはりお姫様……といった感もあります。

●らっランバ・ラルはジンバ・ラルの息子

第20話―C293

ホワイト・ベース内でアルティシアにばかり出くわし驚愕しているラルです。この後、私をお忘れか……ジンバ・ラルの息子……というセリフになるわけです。当時セイラは7才、ラルは25才でした。

●りっリード中尉はうるさがた

第9話―C28

本部からの通信を読んでいるリード中尉です。ホワイト・ベースの中での、中尉のいらいだちもわからないではありませんが、それを考慮しても、あまり良い性格の人とは……。

●るっルール無用のスパイ活動

第28話―C72

シャアの部下で、ユーコン潜水艦の艦長、フラナガン・ブーンが、漁業組合の飛行機を使って、ホワイト・ベースに侵入したところです。目的はミハルと連絡をとるため。

●れっ練習パターンをプログラム

第17話―C283

入手したザクの性能を解析したものの、操縦者や環境で全く動きが変わってしまうことがわかり、がっかりしているアムロです。ここでブライトとミライの話を聞いてしまったアムロは、脱走をします。

●ろっロケットノズルで空を飛ぶ

第25話―C349

マ・クベの水爆ミサイルを落としたところですが、この時、飛びあがる時はGスカイ・イージーに乗っていました。ミサイルを破壊した後は自力で降下しました。

●わ…私のこの手で倒すのだ

第26話—C363

ベルファスト基地に送ったゴックが2機ともやられたという報告を受けたシャアが、スクリーンのガンダムの三面図を指している所です。彼はガンダムにプライドを傷つけられたそう。

□…予備札

第14話—C33

補給にきたマチルダが、ブライトと話をしているシーンです。この時にブライトは少尉任官を告げられるわけです。マチルダはまだ少尉で、死んだ時には中尉でした。

○…予備札

第26話—C113

ベルファスト基地でのレビル將軍との謁見が終わり基地のゲートから出ようとしている

フラウ・ボウです。軍籍に入れられる事について、一番躊躇したのがフラウ・ボウでした。

○…予備札

第26話—C83

ベルファスト基地でのレビル將軍謁見のシーンです。全員が軍籍に入れられ、それがいやなら一年間の刑務所入りだと告げられます。結局全員軍に入りますが、階級が付くのは南米に行ってからです。

●ん…じおん

第11話—C13

ガルマの死の知らせに、ザビ家官邸のデギンの下へ集まった、ギレン、ドズル、キシリアの兄妹です。長男のギレンは、ガルマの死を国民の士気高揚のために利用します。

## アニメック10号

年が明け、昭和55年となった。年末も忙しかったのだが、新年はそれに輪をかけて大騒ぎである。

現在は出版がメインのアニメックであるが昭和55年当時はアニメイベントで有名であった。

山陰地方の故郷に戻って年越しをした私は新年の梅田阪急デパートイベントの案内を見てひっくり返った。

「ゲッ、本場でやんの！」

新聞には、アニメイベントの欄に豪華ゲストが並んでいたが、最後のところは凄い人物であった。

「アニメックの小牧編集長来る！」（爆笑）

祖母などは、新聞に孫の名前が載ったというので、パニックを起こしていた。

「お前、東京で真面目に、学生をしていたんじゃないのかい」

いや、真面目な学生ではないけど、悪い事をしてたわけではないのだよ、パーチャン…。

たしかに年末、営業部長には言われていた。今年は各地でアニメイベントをやるが、ガンダムフェアをやる阪急には、安彦さんたちが出演する。

で、アンケート結果で講演して欲しい人のベスト10にアニメック編集長も入っていたから行けという話であった。

冗談ではなかったようである。

と、いうわけで最終日は脚本の星山博之さんと一緒にステージに立つはめになったのである。

「こういうの富野監督の方がいいのにね」

「でも富野さんひとりしかないじゃないねー」

終わった後の会話である。二人ともキャラクター言われている原因はガンダムであって自分たちは関係ないのを承知していたのだ。

「どうして1月一杯でガンダムは終わるのですか」という質問をされても、困るものな。

そうなのである。

常識では、視聴率不振で残り4回で打ち切りになるアニメにこんな集客力があるはずはないのだ。

しかし、ガンダムグッズを求めて朝早くか

※星山博之

ガンダムの脚本家のひとり。登場人物が長台詞を言うのが特徴。なおこの講演を見た読者の感想では、「濡れかけた数学の塾の先生みたい」というのがあり、妙に納得した

※ヤマトを超える元上  
当社比である。(笑)ご  
らのグッズも販売してい  
ただから間違いない

※松崎健一さん

スタジオめえの松崎健一  
さん。ガンダムの脚本も  
担当しているが、ガンダ  
ムの設定ブレンである。ミ  
ノフスキー粒子は、「ミノ  
ワールド」に必要で、ミ  
ノさんが好きな「粒子」  
として松崎さんが考  
え出したものである

ら京阪神の各地から集まった青少年により、  
この年にアニメイベントとしてはヤマトを越  
える売上を記録したのである。

東京に戻り、10号の編集を再開したのだが  
まあ、次から次に色々な事が起きた。

「ベルサイユのばら」から長浜監督は降板  
するし、編集部ビデオは壊れるし、毎日の  
ように大騒ぎになっていた。

音楽雑誌の編集をやっていた人間を引き抜  
き、編集員にしたりして春先からの編集部補  
強も考えなければならなかった。

なにしろ頼りの副編集長Uは、春に卒業す  
ると同時に稼業のバイク屋を継がなければな  
らないのだ。

そういう状況で、昭和55年3月1日にアニ  
メック10号が発売された。

春休みには新旧取り混ぜたアニメ大作が並  
ぶので、その特集がメインである。

「家なき子」、「地球へ!」、「あしたの  
ジョー」、「火の鳥2772」、「ドラえも  
ん」である。ドラえもんは、これからの定番

となる春の長編第一作「のび太の恐竜」だっ  
たのが目新しい。

この年に放映されたTV番組で元気があつ  
たのは「電子戦隊デンジマン」くらいではな  
いのだろうか?一通り見ていたつもりだが、  
昭和55年の代表作として思い出すのは「伝説  
巨神イデオン」と「電子戦隊デンジマン」で  
ある。

さてガンダムの特集はどうだったか。当然  
ある。「さよならガンダム特集」だ。

ピンナップ表は、憂いを含んだセイラさん。  
カラーは4ページだけだが、年末年始にサ  
ンライズから物販用に放出されたセルの中か  
ら選び抜いた名場面集である。

各話の設定ストーリーは、これが最後にな  
る第36話から第43話であった。設定書の多さ  
に苦労したものである。

富野監督インタビューは、2月になってか  
ら「機動戦士ガンダムを覚えて」というタイ  
トルで、最後まで放映した感想をお話して  
もらった。

途中で、松崎健一さんが通るかかられて、

結構裏話も聞けた有意義なものであった。

この時のインタビューで富野さんの雑学の源が、昔の少年サンデーや少年マガジンの口絵にあると知り「あら同じなんだ」と思ったのが一番の収穫だったかもしれない。

この話をする、今の編集部でも通用しないので少し補足しておきたい。

少年マガジンも少年サンデーも創刊された頃にはマンガだけで本が構成されていたわけではなかった。絵物語りや小説も連載されていたのである。また巻頭のカラーグラビアは企画記事で埋まっていた。

当初は戦記物のブームで「世界の戦車」とか「零戦の全て」のような記事が多いのだが、昭和40年代に入ると情報の宝庫ようになる。

特に少年マガジンの故人伴昌司のビジュアル特集というものは、当時の少年たちに大きな影響を与えている。現在40歳以上の人間は昭和41年のウルトラマン放送開始前に発表された「ウルトラマンのひみつ」を、絶対と言って間違いなく覚えていて。編集者でも影響を受けた者は多数であろう。

【いんふおめーしょん】より抜粋

第二回アニメックフェスティバルが12月23日、四谷公会堂で開催された。当日は土曜日とあって多くのガンダムファンは涙をのんで参加。今回は開催日に注意します。のっけから映写機が故障しマガマ大使が一本上映できなかつたり、タンサー5が無声映画になったりしたが、お行儀の良いファンの方々には笑って許してもらいました。人气的はコスチュームショー。ガンダムと赤ザクに人気殺到、10万円で売ってくれと言いつ出す人も出るありさま。(「ゲームー!」制作者談)

※ローディストでないとわからないくらいの伝説ネタ、ジアーラのぬいぐるみが作られたのがこの時。

O.U.Tで連載されたペイルコ・コーンは、アニメックに移り「熱血ジアーラ」として連載されていた影響である。

ちなみに、このジアーラは品田冬樹の力作である。

■大伴昌司

奇人変人として語られる事が多い天才的な編集者。いや、その編集者ですら大伴昌司の一部分ではないかというくらい、後世の人間に残した影響は大きい。

■品田冬樹

造形師。いつかはゴジラの縫いぐるみを作るのが夢という青年だったがゴジラ対ビオランテでそれを達成した努力の人。

※ケダマン

いまさら紹介するまでもないマルチ人間。ファンロードの表紙で有名

ギャグ版ジアーラが舞台に登場して、

「みなさんこんにちわ、ぼくジアーラです。」

今じゃギャグキャラクターに落ちぶれていますが、昔はこれでもシリアスキャラをやっていたんですぜ。」

といじけながらO.U.TのKがいけないと切々と訴えるという、よっぽど古いファンじやないと理解不能のギャグをかまし、そこへ登場したK仮面にボコボコにされるという寸劇であつたんですから……。

ここで、初のお披露目となつたのが、着ぐるみとしては最高と今も言われているガンダムと赤ザクの一騎打ちでしょうね。

それまでファンが製作したのは、ダンボール細工が多かつたわけで、こうしたイベントの度にコッコツと新型ロボットを製作していたケダマンの最高傑作が、このガンダム。

一方、東映の戦隊物でやられ怪人を作る下請け工房で働いていた品田冬樹は、自作の第一作としてジアーラを製作。

その後にケダマンのガンダムと同時期に赤ザクを製作していたというエピソードがあります。

【アニメックのお茶会】

早いもので、このお茶会も二年目を迎えました。毎回20人前後のアニメファンが集まり、ピーチクパーチクとアニメ情報を交換しあっています。



常連の顔ぶれがあまりにもユニークなので少し紹介してみましょう。ただし、学校では良い子ちゃんぶってる人ばかりです。すから全員コードネームです。

●クマ少女、東京都内とは思えない今だに熊が出る村から参加、昼食代の300円から、50円のメロンパンを一個だけ買い、一日250円ずつためて、月に2回の根性のこ！同類に先輩、ヘビ少女、タマミネコ、アムロ。

●少年A、赤坂育ちの中学生、みんなの話にいつしうけんめいついてこようとガンバル子。いつもお子様ランチを食べている。今回のアニメ講師ムギちゃんにイビラれて喜ぶ変な子！同類に少年Bがいる。

●ボス、ヒッピー風大学生。セルの放出情報に精通。アイドル、アニメハウスで入手したセルをアニメックの客に見せイジメル。同類に立川星人、サンシャイン。

※このあたりは後にアニメ商品を扱うブローカーになった。うーむ。

こんな連中が集まるので喫茶店でも良い顔をせず、御苑付近の店を毎回変えて利用。春になったら、新宿御苑でやることになるかもしれないと全員であせている。

アニメックのお茶会に参加したい人は、毎月第1、第3日曜日、午前1時30分にアニメックの店の前に集合。その時の気分次第で何をやるか決めます。(人数の関係で、先着30名が参加できます。)

※はい、誤植です。夜中に仕事をしていたら「今やっているんですか」と問い合わせの電話が入った事も。午後1時半に決まっているじゃないかと思いつつ、誤植はこちらのミス。

# 【阪急百貨店で公演したのじゃ】

1月9日水曜日、大阪阪急アニメーションフェスティバルの最終日に、なんと、編集長が出演したのであります。大阪のファンに、やつとアニメックの編集長が小牧雅伸であることを理解してもらった編集長は、ホクホク顔で帰って参りました。



【みにめえるより】

(山口県 井上弘一)

気にする私がいけないのかな？

(野沢珠美)

豪闊違つてはいないと思うのだけど、この手の質問は多かった。

時間の流れが理解できない人も多いようである。



9号では、私の名前で2つもミスをしてくれましたなっ！フリガナをふったはずだけなあ。ともかくあれでは載ったという感激も薄れてしまいます。もしこれがボツじゃなかったりしたら気をつけて下さいませね。

(東京都江戸川区 上本由起子)

「せーの、ごめんなさいーい！」(編集部)

「お正月ボクは、三日にアニメックを買いに行く決めていた。(なぜかって三日じゃないと、本屋が開かないから) ここで母のセリフ「今日は親せきの家に行くのよ」ガーンときた。いゝいかん、四日ではアニメックが売り切れる可能性が高い!!一時間で帰ってこなければおいて行くと言う約束をして、チャリンコぶつとばして行ってきました。

行っってよかった!!な…なんと、アニメックは2冊しかなかったのです。

(広島市 江川裕司)

「こ、このリッチな緊迫感、クレイジーなスリルが、たまらないのよねー。アニ

メックって。(L)

ウブアツ(U)

◎アニメックをめくってゆくと、ガンダムカルタがあつたので大声をあげて喜んだ。

が、幸福のあとには不幸がやってくる。なんとその裏にはマサルとアムロが…。カルタはやりたいけど切ればジグソーパズルになる。結局その夜一人さびしくカルタを切っていた。

(東京都 廣石由美子)

※この手の葛藤はいたるところで聞いた。刷り出しを使ってカルタを作った編集部では、そこまで気がまわらなかったのである。

◎どわ?アニメックが月刊化?うわーいとききたいけどそうなると480円では高いし、すぐ売れてしまう!ここは北海道、内地とちがって3、4日位おくれるし、毎日日本屋に通えないし、マゴマゴしているうちになくなっちゃう。今まで月

刊じやなかったから買えたのに!!

(榎本文彦)

逐月刊化計画は始まっていたが、まだまだ人手が足りなかった頃の話である。

編集長、おこりますよ、ホント。アニメック8号98ページに「アニメック9号80年正月初旬日の出の如く発売予定」とあるが、中目黒の本屋さんには12月28日においてあったぞ。あぶなく買いそこなうとこだった。

(目黒区 青木茂出)

※都内は12月27日に発売されていたのだった。一方でこのメールを読み、うちの地方は5日まで入荷しなかったというクレームも。(笑)

埼玉の岸建久くんがアニメック6号増刷嘆願署名を送ってくれたのですが、まず自分の名前、岩太無郎、市輪魅古子、本間久部夫、視也賀狂男(がんだむろう、いちわみたいこ、ほんまくべお、しゃあ

がくるお)と書いて自分の拇印を押し、さらに「うちの愛犬ペロ」の乱れた足印(??)も押してある。ペロとの奮闘シーンを想像するとすごくおかしい(L)

◎やつの思いでアニメックを買い家へ帰ったらガリン、ガンダムがもう終わっていたんでコナン見ながらゴハンを食べ、6時42分に部屋にこもってアニメックを読みはじめたんですが12時頃地震があつてびっくりして立ちあがろうとした拍子に足がしびれていたんでコケてしまい、手に全治一週間のケガをしてしまったがそれにもめげず、1時までかかって読み終えた時、とどめのショック!ガンダム記録全集を初めて知ったんですが先着順じゃグズイ私にはとても無理。でも強い子、知子、大好きなガンダムのカルタを切りとつたのです。

(徳島県小松島市 島知子)

◎ガンダム……いに終わりましたね。近所のおもちや問屋にグルタニアスの超合

金が入らなくなり機動戦士ガンダムと書かれた大きなダンボールが、よく目につくようになったのに。君よ！魅れ!!ガンダム

(愛知県春日井市 田中治子)

※ロボット物の最後というのは、こうした半額投げ売りセールで終わる。最近になってあの時に買っておけばという話がよく出る。

◎12月31日にアニメック9号を買った。2冊あったが、ほかの人に買わせたくなくて2冊とも買っちゃった。店の人が「2冊も買うの?」と言うので「ザクとはちがいますよ」とアムロ風に言ったら「ドムの方がカッコいいよ」と言われた。グ、おじさんもガンダム見ていた。

(志賀恭一)

【サークル欄】より

◇ENJOY JUPITER◇

3ヵ月に1回会誌発行。



その他の月には会報「楽人」を発行しています。アニメ、コミック、SFなんでもこい、好きな事をもう好きなだけやっているというサークルです。僕達を思いを一つにしたいという人、我がサークルで、みんなでENJOYしましょう。

静岡市阿部口新田 唯雅樹

※この号で、サークル数が減っているからといってなくなつたわけではない。

逆にファイナル特集号を作っている最中であつた。たしかに番組が終わり放心した人もいたのだが、逆に全国各地で放送終了と同時に再放送が始まっているのである。

## 歴史は繰り返す

冒頭で「宇宙戦艦ヤマト」の再放送による視聴率爆発の話を書いたのだが、ガンダムでも、まったく同じ現象が起きていた。

まだ再放送が月々金の帯で続いている最中なので記事にできてはいなかったのだが、これは一挙に拡大している。

機動戦士ガンダムの最終話は、1月26日であったが、2月16日からもう再放送なのである。いきなり3倍近い視聴率で2桁になるあたりもヤマトに似ていた。

大きく異なるのは、ガンダムの本放送は、少しずつネット局が増えたのに、この時点でまだ「本放送」を続けている地域があった事だろう。

再放送にしても、帯で放送しても2ヶ月を必要とする。

好評な為に、帯の再放送を新規に始める地方局もあったから、日本全国でガンダムを見るのが可能になったのだ。

たしかにOPがカットされたとか、予告編

がないというクレームはあったのだが、それよりも、ガンダムが観れるという喜びの手紙が全国から寄せられていた時期なのである。こうなると、ガンダムの後番組として放映されている「無敵ロボ トライダーG7」などは霞んでしまうではないか。

ともかく、昭和55年には地域によってガンダムの本放送をしている所、再放送をしている所、再々放送をしている所が同時に存在するというテレビアニメ史上初めての現象が起こった年なのである。



山口県小野市 RYO羽佐間

## アニメック11号

昭和55年、つまりガンダムが放送終了して  
いるにもかかわらず、ファン主体で再放送人  
気が爆発的に加速していた年の世相は、どう  
だったのだろうか。

テレビアニメは試行錯誤の時代ではあるが、  
これで人気作品が続出しているのだ。

あしたのジョー2、ニルスの不思議な旅、  
宇宙戦艦ヤマト3、ガンダムの後番組 無敵ロ  
ボトライダーG7、宇宙大帝ゴットシグマ、  
ムーの白鯨。それに新規枠で始まった伝説巨  
神イデオン、宇宙戦士バルディオス。

鉄腕アトムと、鉄人28号が、どちらもリメ  
イク版として登場している。

世相としては、もうむちゃくちゃで、今に  
至る殺伐たる雰囲気であった。

20歳の浪人が両親を金属バットで撲殺なん  
てのは、金属バットを凶器の代名詞にした最  
初の事件。大貫さんが早朝ランニングで一億  
円拾ったしたのは、バブル前夜で株の仕手  
戦の資金を置き忘れたのではないかという憶

測もある。結局落とし主が名乗りでれなかつ  
た怪しい金であった。

原宿の歩行者天国では、妙な衣装でロック  
ンロールを踊る若者が大ブームとなり、衣装  
を売っていた「ブティック竹の子」の名前から  
「竹の子族」と呼ばれた。

後年、そこでガンダムイベントをやったり、  
イデオン音頭を踊る事になろうとは想像もし  
なかった。

上野では、パンダのカンカンが死亡して、  
ちょいと暗い雰囲気になり、この年のモスク  
ワオリンピックは、自由圏諸国がбойコット  
して多くの選手が落胆した。

姉妹誌の「ふぁんろーど創刊」も、大きな  
ニュース。どうしてアニメックが姉なのかは  
今も不明である。

あのジョン・レノンが殺害されたのもこの  
年である。伊勢丹で何だろうと思って買った  
ルービックキューブが夏頃には爆発的なブー  
ムで、どこに行っても入手できなくなり秋に  
は、そこら中で偽物が出回った年でもある。

1980年といえば、いきなり近未来にな  
るつもりであったSFファン、アニメファン

## ※イベント

なんと、この年に姉妹誌  
として発行された「ふぁ  
んろーど」では、富野作  
品のコスプレヤーを集  
め、第一回「トミノコ族  
コンテスト」を主催して  
いるのだ。原宿で踊るザ  
クとガンダムはシニール  
だった

## ※伊勢丹

予約販売はしないが、入  
荷した数をそのまま売り  
場に並べるので、毎日通  
うと、ルービックキュー  
ブだらうと、たまごっち  
だらうと、ハイパーヨー  
ヨーだらうと手に入る不  
思議な百貨店

は、ただの70年代の続きでちよつとガツカリしたものである。

アニメック11号は、昭和55年4月27日に発売された。表紙は5月8日からスタートする「伝説巨神イデオン」である。

ポストガンダムを求める声が強く、イデオンについては、企画がスタートした頃から各社の取材班がマークしていた。

スタートからアニメ誌が一斉に取材する珍しい例なのだが、後にはこれがあたり前になるのだった。

しかしながら巻頭特集はゴールデンウィーク公開映画「地球へ……」である。若い人には「テラヘ……」と読み方も説明しなくてはならないのだが、竹宮恵子原作は当時、大人気であったので、映画への期待は大きかったのだ。

ガンダム研究 part1としたガンダムの詳細研究はこの号から始まっている。

カラーページでは、放送が終了してからある程度撮影が自由にできるようになったセルをどんどん発表した。

ガンダムは16mmフィルムなので、大画面で紹介するにはセル撮影が不可欠であった。

逆に言うと、誌面をコピーしてもそこそこの解像度が得られるので、後に劇場公開が決定し、新聞等で紹介される場合に、アニメックのカラーページからの複写が利用されていた場合が多い。(無許可で)



話は前後するが、劇場公開が決定した後のガンダム報道にはこういったミスが大変多い。

ひどい新聞はGアーマーと操縦するセイラの3枚組み写真を「機動戦士ガンダムと、それを操縦する主人公アムロ・レイ」として紹介していたりもする。これなどはレイアウトまで同じなので、意味のわからない担当が無許可で複写して掲載したのだろう。

ファン層から広がった人氣に、大人が追従しきれなかった例として覚えていて欲しい。

Gパーツ解説はGパーツとガンダムのコンピネーションが理解しきれていない人への復習である。(もっと分かりやすく「大事典編」で解説してあるので、それを参照)

モビルスーツとモビルアーマー解説についても、一覧と設定書で丁寧に解説した復習。

この号で目を引くのは、SFファンには常識であったバードスーツの歴史を解説した「モビルスーツ・アラカルト」だろう。

なにしろハインラインの「宇宙の戦士」がモデルであるという豆知識は持っていない、そこに登場するバードスーツすら知らない

というアニメファンが多かったのである。以下は記事からの再録である。

モビルスーツアラカルト

■POWERED SUIT■

参考…SFマガジン、早川SF文庫

「宇宙の戦士」

インターナショナル出版

「北極シティーの反乱」

ファンタスティックコレクション

「スタジオぬえの世界」

週刊少年キング、週刊少年チャンピオン

機動戦士ガンダムを今までのロボットプロレスアニメとはひと味違ったものになっている要因のひとつに、ガンダムが装甲強化服(モビルスーツ)であるという設定がある。これは、人体の各部の動きを、それに対応するメカニズムに伝達し、制御しようというもので、使用目的によつてはその動きや力を増幅することもある。この研究は現在各分野で行われており、それには軍事目的のものも含まれ



ている。デモン・シードという映画を見た人ならば、まるで有機体のように動くメカが印象に残っているだろうし、人の手とまったく同じように動く義手をエレビなどで見た人も多いだろう。そのようなメカを、体の周囲に装着できるようにし、力を増幅するためのエネルギー源と



強度を備えたものが装甲強化服と考えてよいと思う。もちろん、それだけでは十分ではないのだが、本題ではないのでここでは省くことにする。

ガンダムが装甲強化服たりえるかどうか（一応内外に対するシールドを考えるとあの大きさになってしまふと説明されてはいるが、操縦法まで説明しきれない部分が多い）は別として、ここでは各分野で視覚化された強化服についてふれてみたい。

そこで第一に挙げなければならないのが、ロバート・A・ハインラインの「宇宙の戦士」である。

これはいうまでもなくガンダムのイメージベースともなった作品で、テーマこそまったく違うが、その雰囲気などにかんがりの影響を与えているといえる。この、「宇宙の戦士」に登場する、機動歩兵の着用する装甲強化服（パワード・スーツ）は、何人ものイラストレーターによって視覚化されているようだが、そのデザイン、工学的リアリティにおいて、早川

文庫版のさし絵として日本SFアートの雄、スタジオぬえがデザインしたものに止めをさすといえよう。

ガンダムのデザインもこれを参考にしていうということで、とくにガンキャノンに多くの影響を残している。

最初テレビ局の番宣バンフレットには、ぬえの名がデザイン協力として連ねてあり、ファンの間にぬえが加わっているとのうわさも飛んだが、スケジュールの都合で果たせなかったようだ。もし、ぬえが加わっていたらどうなっていたか、いささか興味のあるところだ。

SFファンでも忘れかけている人がいるかも知れないが、ぬえは文庫以前に、SFマガジンに装甲強化服を描いている。巻頭の特集用に描かれたものだが、デザイン的にもおもしろ味にかけ、完成度も低い。この強化服は個人重戦車ともいえるべきシロモノで小型原爆用ロケットランチャー、跳躍装置、赤外線暗鏡、携帯火炎放射器などの装置を持つ強力な兵器なのだ。

小説ではほかに、小隅黎の書いたジューナイルで「北極シティーの反乱」という作品に装甲強化服が登場する。これにもスタジオぬえの(宮武氏の)イラストがそえられている。

これはロボットの反乱に対して人間が使用した装甲宇宙服なのだが、のぞき窓も無く黒いボディは無気味な感じだが、装甲強化という点では意味がある。この服は肩から上の部分を含めたヘルメットをクレインでつり上げ、残った胴体にはいる。以下引用。

「この服の関節部には特殊伝達バネルがついている。中にはいった人間の身体各部の動きを、そのまま五百倍の力に増幅して、外部へ伝える仕組みだ。この服一着の重量は約二トンだが、力が五百倍になるから、これを着ると、自分の体重が四キロくらい感じになる。むろん放射能もレーザーもおさない。ごらんのとおり、のぞき窓もなく、頭部について三台のカメラが、外のもようをうつしてくる。各自、自分の身体のサイズに合わ

※小隅黎

コスミックレイから来たペンネーム。ラリ・ニーブンの『リングワールド』シリーズの翻訳家として有名。アニメーションにSF考証という概念を入れた最初の人。宇宙エースやガッチャマンといったタツノコSFの考証は、小隅氏の手によるもの。ガンダムのニュータイプについては「うまい言葉である」と褒めていた。

※宮武一興

スタジオぬえ所属の日本を代表するメカデザイナー。ガンダムセンチエリでは、ビジュアル・スーパーバイザーとして参加し、そのリアルなイラストで書籍によるガンダム世界の展開を不動のものとした

せて、関節ダイヤルを調節しながら着るように。はだかになる必要はないが……。そう、あまり厚い上衣や、ひらひらしたズボンに脱いだ方がいいな」

これには後に飛装装置を取りつけられたが、内蔵された武器はない。

一方、マンガにも強化服のたぐいはたくさん出てくるが、パワード・スーツだと思われるものはそう多くない。さて、その代表的なものといえば、桑田次郎の、「エリート」(平井和正というべきだろうか)だろう。戦闘服と称する服は、図解のとおり人工筋肉組織を使用するもので、機械的なものとは多少趣が異なるようだが、一種のパワード・スーツといえよう。この戦闘服は、思念波で、ロボットのようにあやつることもできた。

ガンダムに触発されたのか、最近装甲強化服を登場させたマンガが目立つ。週刊少年キングで連載した超人ロックの炎の虎編に、黒塗りの装甲強化服をあやつる傭兵部隊がでてくる。それぞれタイプの異なるスーツの集合部隊で、なんと合体

すると(ここで少々白けてしまったのだが)戦艦なみの戦力になるのだそうだが、あつてなくロックにやられてしまう。搭乗者はスーツと接続されていて、スーツからでることができない。いわば、共生的な関係にある。

もうひとつ紹介しておきたいのが、週刊少年チャンピオンに掲載された神矢みのるの「ラストチェイス」だ。

これには中央政府の制圧から脱出しようとする者を狩る武装監視兵(アーマー・バトロール)の着用する強化戦闘防護服という装甲強化服が登場する。このスーツはマンガに登場したものの中では、一番ハインライントタイプに近いもので、よもやマンガの中で、このようなものにお目にかかれるとは思ってもいなかった。ガンダムの、ぬえの、あるいはハインライントタイプというべきか。

そのほか、SFマガジンの表紙やカットに、ぬえがそれらしきものをいくつか描いている。ぬえは、このモチーフが気に入ったようで、やはり装甲強化服という

のは、SFマインドをくすぐるものらしい。

ガンダム以前のアニメでは、ライダー、ガンやダイモスの操縦法など、なんとなくそれっぽいし、テッカマンなどかなりにそれ的なところがある。最近のものではゴードイアンもそれ風だが。

映画では、スター・ウォーズの突撃兵や、ギャラクティカのサイロン兵なんかがあるが、装甲強化服かどうかはわからない。最後に、仮面ライダーやゴレンジャーの強化服のような、人体そのものを強化するタイプのものは、パワード・スーツとは考えられないので、ここでは取り上げなかったことをいそえておく。

※これを読んで、パワードスーツの概念がわかりましたという人と、ガンダムはロボットに分類すべきだという意見が続出した。

確かに機動戦士ガンダムが最初に発表された時の『装甲強化服（モビルスーツ）』という表現に編集部が固執していた部分はあるようだ。

#### 【インフォメーション】より

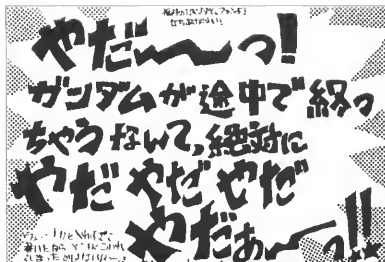
機動戦士ガンダムのスペシャル番組が、5月27日（火）午後7時～8時の一時間に亘ってテレビ朝日系で放映されます。これは日本サンライズが制作、名古屋テレビで放映された作品の総集編です。

※番組紹介として制作された総集編。なお、昭和55年3月末時点で本編放映が決定していた全ての放送予定表もそえておく。本放送時のネット数をはるかに上回っているのに注目。

#### 【機動戦士ガンダム 放映テレビ局】

- 名古屋放送 3/5より放映中！（帯）
- 北海道テレビ 2/29より放映中！（帯）
- 青森放送 6月より放映？（帯）
- 秋田放送 4/3より放映中！（木）
- テレビ岩手 1/28より放映中！（月）
- 福島テレビ 4/7より放映中！（月）
- テレビ山梨 4/17より放映中！（木）
- 新潟総合テレビ 6/16より放映（月）
- 長野放送 10/15終了予定☆☆

- 静岡けんみんテレビ 4/4 放映中!
  - 福井テレビ 10/1 放映中!(月)
  - 石川テレビ 4/25 放映中!
  - 瀬戸内海放送 6/2 より放映?(帯)
  - 南海放送 7/9 終了予定☆☆
  - テレビ高知 1/12 放映中!(土)
  - 山陰放送 1/20 放映中!(日)
  - 九州朝日放送 3/24 放映中!(帯)
  - 長崎放送 2/19 放映中!(火)
  - 宮崎放送 9/2 放映中!(日)
  - 鹿児島テレビ 4/14 放映中!(月)
  - 沖縄テレビ放送 3/18 放映中!
- ♥不完全版最新放映リストパートIIでございます。
- 「?」は、おそらく放映開始予定。
- 「帯」は月曜から金曜まで毎日放送という意味です。
- さすがにファンの力は強く、現在のところ26話までしか放映しないという局はありません。そしてあの青森放送も6月から27話以降が放映される予定です。
- まだまだ流動的ですが良かったですね!



※青森放送は、本放送を視聴率不振から26話で打ち切りにしていた。

全国各地で再放送が始まるにつれ「青森放送の悲劇」としてそこらのファンの話題になり、ファンからの放送嘆願が山のように寄

せられたという経緯があったのである。

ちなみに、青森放送宛てのクレームが相当数編集部に寄せられたのも事実。

窓口で電話に出る人が「たかがアニメで細かい事を言わないで」と応答したのが原因らしい。

# 【あにめえる】より抜粋

／編集部のみなさん、こんにちわ。はじめておたよりします……。

私の住んでいる超下級ヘキチ、山陰地方でもついにガンダムが放映されましたのです。きやあきやあ。

私もガンダムが放映される前、何となく「ガンダムが好き」と思っていました。

と、いうよりガンダムのファン!! アニメファンという気がしていたので、たとえばアニメファンとして認められるような気がしていたのです。

が、最近になりやっとガンダムが放映されてみておどろいた。このハードさ。私

がずっとイメージとして持っていたガンダムとは、メチャクチャにけたはずれなのです……で私は、見たこともないのにファンを自称するなんてアホや……とやっ

と気づいたのです……。ああ……。

にしても、ガンダムってむつかしいね。妹が「わからーん」とヒステリーをおこしちゃう……。

私もアニメック&OUTを片手にもって、ヒステリーの妹に説明しちやります。

まだ3回しか放映されてないけど、意地でも石にかじりついてでも、全部みてやるう。たのむから途中で放映切りあげんでね。

(AM10時からの闘士ゴーディアンを早朝アニメといわれた方! ガンダムはAM8時からです。きやあ、きやあ……)

米子市 前田昌子

! AM8時? そんな遅くまで起きてられるもんか(U)

! そうじゃ、子供番組をそんな深夜に放送してどうするんだ(K)

※早朝アニメを、いつも3時とか4時に寝る我々が見れるはずはなく、深夜放送と呼称していた経緯がある。

◇ハハハ：福岡の杉野正幸君、確かに君の言う通りらしい！バルカンは宇宙空間でも使えるようだ。…とすると、新たな疑問がわいてくる…。確かあのシーンは…（回想している）宇宙でガンダムはランドセル（背中の灰色の箱）から何も噴射していない。静止している状態（に見えた）である。するとそこにドムがせまってくる…ガンダムはそのままの状態でバルカン砲発射！！破損してよろけるドム。そいつを足蹴にしてガンダムは前進（その時もランドセルからは何も出ていない…）と、まあこんなものであったと思う。（多少の違いはかんべんして下さい）どうして何も噴射せずにこのような動きができるのか。それはともかくとして私の言いたいのは、宇宙空間でバルカン砲など発射しようものなら、ガンダムはその反動でふきとんでしまう、という事なので

す。（友人もそう言ってます）

横須賀市 大田憲司

！おたくももう、いいかげんにしたら。そりゃひとりでガンダムけなしてりや目立つだろうけど、もうあまり相手にしても

らえないんじゃない？（U）

！まあ、研究材料としちゃあ手頃だから、しばらく泳がしとくけどね（K）

！私メには何のことか、さっぱりわかりませんねん。でも、ランドセルってかわい。本当はランドルというのですよ。もしかしてガンダムって「ピッカピッカ

の一年生。（？）」（♥）

※実は編集部で専従で女性編集者が増えたのであるが、アニメにはうとかった。（笑）

ちなみに、ガンダムの検証に妙な突っ込みを入れるとその10倍の反撃が来るのを、まだ学習できない人もいたようである。

ちなみに、ここでUの発言した「おたく」という呼びかけは、70年代末期から80年代前半に流行した特殊用語。つまりマニアの中で

## ※Qタイプ

前世紀の遺物とでも訳すべきか。現在「コミュニケーション」の取れる明るいオタクという人種も誕生したのに、未だに悪志疎通の不可能な「マニア」もいる。平仮名のおたくと同義語である。

も特殊なタイプが、他人に呼びかけをする時の挨拶みたいなもの。平たく言うならコミュニケーションが取れる人種が「マニア」であり、他人との意志疎通がほとんど取れない「マニア」を「おたく」として差別していた時期があるのだ。

岡田斗司夫の提唱する、明るいオタクとはまったく違う人種であり「Qタイプ」とも言われる前世紀の遺物のこと。

◇機動戦士ガンダム―これは私が生まれて初めて遭遇した、時空間の連続する独立した世界を持つアニメだ。他のアニメが、放送日にTVのスイッチをひねることによって浮かび消える世界であるのに対し、ガンダムはまったく別の次元に存在し、週に一度30分だけ、次元回線が繋がり、のぞき見ることができる世界、という印象を与えるのだ。

それは生きたキャラクター、ハードな設定、緻密な表現等に負う所が大きいだろう。だが、それだけならそれを備えたアニメがなかったわけではない。ガンダム

を決定づける+α、それは「成長」もしくは「変化」だと言えるだろう。ここでは主人公のみならず、全てのキャラクターが成長し、変化していく。そして人類が、世界そのものが。

正直言って人間は醜い、下らない、どうしようもない生き物だ。だが、ガンダムでは人類は変化していく事が出来ると言っている。それならば、生きて、希望を捨てない限り、いつかきつとどこかの時点で、真の理想郷を実現することが出来るかもしれない。きつと出来る。だから自分に、人間に、世界に、今絶望してあきらめるのではなく、明日を見つめて生きるのだと言外に含めながら。

この作品は、人類そのものの歴史が胎動していく、その最も大きなうねりの中で、時を同じくして成長していく人々の、そんな思いを込めた物語なのだ。ザンボットでは、人間のどうしようもない部分を直視しながら、尚も希望を託さずにはいられなかった。（最終話、ラストシーンのなんと素晴らしかったことか）



グイターンでは、人間存在そのものを支  
持し、讃えずにはいられなかった富野監  
督の、この作品は人類の可能性への切な  
る願い、そして希求。かつてこの様に蠢  
いて行くものとして世界を創出させたア  
ニメがあったらどうか？かつてこれ程まで  
に、願いを、希望を、酷い現実の上にな  
ち建てたアニメがあったらどうか？この  
ガンダムに込められた願いを知ることな  
しには、どんな讃美も批判も意味を失う  
と思う。ともあれ、ガンダムは終わった。  
私達は彼らのその後を詮索してはならな  
い。彼らの未来への問いかけと解答は、  
私達の中にこそ、用意されねばならない  
のだから。

千葉県流山市 コーヒーメイカ・峠

！ガンダムってのは、宇宙叙事詩的な作  
品なんですよ。だからアムロとホワイ  
ト・ベースのエピソードは終わったけど、  
あの世界はずっと続いて行くのだと思え  
ば悲しい事は無い……こともないか。(U)  
！でも、どうすれば続くんだろう。ニュ

ータイプが人類導いていくのか、それと  
も人類から迫害されるのか……。 (K)

※結局のところ、この人の語るニュータイプ  
論が一番支持されていくことになった。今読  
み直してみても大変読みやすい文章である。

◇SFアニメと言われるものに対してS  
Fマニアの人が必ず、「SF考証がおか  
しい」とおっしゃいますね。貴誌9、10  
号でも、ガンダムのスペースコロニー内  
での重力だの、コリオリがどうのと私に  
はまるつきりわからぬことで争っていま  
す。

しかし、おかしいのはSFマニアの方々  
ではないのですか？作品が言いたいのは、  
SF考証の正しさではないことは、おわ  
かりでしょう。私は10号P125の佐藤  
さんに賛成です。本格的SF考証パッチ  
リアニメ、と言ってるわけじゃなし、ガ  
ンダムぐらい、SFらしければいいでは  
ないですか。スペースコロニーの重力の  
ことなど、最終的にはストーリーと何の

関係ありません。

だいたい、現代人の感覚で考えるからいけないのです。未来人になったつもりで考えて下さい。少なくとも、コロニーの問題はそれで済むはずです。我々、地球に住みついた者にとっては難のあることでも、生まれながらのコロニーっ子も、ことに順応しているはず。もともと難などないかもしれません。コロニーに限らず、武器各種についてもおそらく、SFにくだしい人から見ればアラだらけでしょう。しかし！SFマニアの皆さんにとって、いかに構成の優れたアニメもSF考証のアラ捜しのためのものになってしまう可能性が高いのですよ！もっと広い目で見て下さい。重箱のスミをつつくような事ばかり言っていないで。何度言いますが、問題はSF考証の正しさではないのです。

さぞやかわいくない女だと思いでしようが、耐えて下さいませ。ご静聴ありがとうございました。

東京都世田谷区 大場真由

！キャッツ!!カワイイ(U)

！らしきもないアニメが氾濫してる(K)  
！こういう人がいてくれてとっても助かるニャン。私もSF考証ウンヌンいわれると、てんで理解に苦しむのニャン。でも、人それぞれの楽しみ方があるのだから、ね、ね。(♥)

※SFファンやマニアがガンダムのSF考証にとにかく言った例はあまりない。どちらかというと、SFアニメファンが文句を出したのではないかと思う。

どちらにしろ、コリオリの力に関係する論争も男性陣は熱狂してくれたが、女性ファンには総スカンを食った感があった。

【サークルらん】より

◇機動戦士ガンダムF.C

会誌。ソーラレイ\*発行。

あつ有名なガンダムのファンサークルを、我らはみだしガンダムファンが結成しました。数あるガンダムF.Cの中でも、

そのいゝ加減さと弱小さでは最右翼的存在と確信しております。どうかよろしく。

神奈川県茅ヶ崎市 佐草有起

# ◇アニメFC

メカロボリス（巨大都市）。

アニメ評論、オリジナルストーリー、パロディ等による会誌、「コマンドルーム（戦略室）」3ヶ月に1回発行。その間、毎月会報を発行。この度第1期会員、購読会員を募集（ただし、高校生以上。アニメ以外にもいろいろなものに興味のある方尚歓迎）しています。50円切手同封で左記まで。 東京都足立区 渡辺清美

# ◇アニメ同好会「アトランティス」

2ヶ月に1回会誌「ライフワーク」を発行。1ヶ月に1回会報発行（予定です）。両方共、オフセット印刷です。アニメの好きな方ならどなたでも！スタッフも募集しています。（近辺の方）50円切手同封の上、ご連絡を！

愛知県犬山市 船橋正泰

◇機動戦士ガンダムF・C g・f・c 当GFCでは、より多くのファンの方々と交流を深める為、会員以外の方への会誌「ガンサイト」の外部販売をしております。また、会員募集は中断しておりますが、4月20日をもって再開させていただきます。（限定200名）会誌外部販売希望又は入会希望の方は、返信用封筒と50円切手同封の上、会誌部外販売希望か、入会希望かを明記して左記までお送り下さい。おり返し会誌外部販売案内書又は入会案内書をお送りします。

東京都渋谷区 機動戦士ガンダムF・C

※放映中から活動していた有力FCでは、入会申し込みにバンク状態になっていた。GFCのように、再開されたのは珍しい例である。

# 【みにめえる】より

◎2月9日の朝日新聞朝刊にヤングの広場というのがあって、そこにベストセラーの欄がありました。ふと見ると、な、

な、なんとあの富野喜幸さんが書かれた  
「機動戦士ガンダム」が載っていたので  
す。それも輝ける1位で……。やっぱり  
ガンダムは偉大だった。

福岡県北九州市 福田裕

◎ぼくは、ジオン公国の「ドム」がだ  
い好きなのです。あの上下左右に動く  
眼、全体的に、ズングリムックリした  
ボディ。重量感のあるあの色。ラッパ  
ズボンをはいているような足!! ほん  
でもって宇宙空間を飛ぶ時のバズ  
ーカをかまえて飛ぶ様! うおお、  
タマラン!

山口県 河内宏之

◎ぼくらが「ガンダム! ガンダム!」  
って騒いでたのは、結局、プロローグに  
すぎなかったんですね。それなのに最  
初から「今までのアニメとは違う」と  
言ったりして。だとすると、今までの  
アニメって何なんでしょう? 機動戦  
士ガンダムよ、永遠なれ!

横浜 市 糸川洋一



※なお、アニメック11号の入稿を最後にして  
副編集長は信州の故郷に帰っていったのであ  
る。  
が、ひよんな事から新戦力が現れた。  
雑誌編集をしたという青年が、アルバイ  
トとして参加し、GWの研修が終わると同時  
に次号の編集に加わるのだった。

## アニメック12号

昭和55年7月1日に発売されたアニメック12号は、第一特集が赤毛のアンで、表紙もアンであった。

ガンダム特集とは少し話が外れるが、春休みにやって来た熱血青年が、2週間に及ぶ研修をパスして与えられた最初の仕事である。

編集人員の募集枠が一杯で、一日8時間立ちっぱなしの春のイベント「ドラえもん」の砂絵売りという営業枠を使ったもの。

相手のバイトはどんな屈強な男を送り込んでも長くて2日、へたすると半日しか持たない激務だったが休みなくこなしたのである。

これのどこが編集の研修なのか？

それくらいの根性と体力がないと編集は出来ないからなのである。

ちなみに「赤毛のアン」がやりたくて、アニメックに来たという青年は、いきなり当初の目的に到達したわけだ。素材集めは私がしたものの構成と文章は、ほとんど彼である。

大学生に、いきなりそんな事ができるのか

と不思議に思う人がいるかもしれないが、やれば出来るものである。

半年後に副編集長に昇格し、さらにはアニメックを昭和58年9月1日発売の10月号より月刊化した青年こそが井上伸一郎である。

ようするに、出来る人間ってのは年齢に関係なく出来るもんなのだ。

この号の第二特集はイデオンの全国放映記念であった。なんとか19局ネットになり全国で放映されるようになったからである。

ガンダム研究パートIIは、カラー名場面集から始まる。ストーリー優先で紹介してきたので、セル撮影をしたものの未使用であったフィルムが多数あり、なかなか評判が良かった。白黒の本文は、ジオンと連邦の宇宙戦力の比較である。艦戦と宇宙基地の詳細を説明している。

今回の特集で際立っているのは「ガンダムを語る」の座談会である。通常は濃い会話をする仲間を集めて、普通の人間でもニュータイプを語れるような突破口を作ろうという意図であったが、これが成功しファンが触れら

※井上伸一郎

早稲田大学に在学中からアニメックの副編集長となる。

ロリコンに市民権を与えたり、アニメックを月刊化したの後に退職し、ニュータイプ創刊スタッフになる。

各誌の編集長を経て、現在ニュータイプ編集長。以下略

## ※ニュータイプ論

これは初期のファンにあった焦燥感。別に口になくても互いに理解していたのに、新しいファンには理解されていない概念を、どうにか伝えようという企画だ。これがなければ、ニュータイプという概念は謎のままにされたはず

## ※アルバート

キャンディ・キャンディの重要なキャラクター。登場した段階で正体がわかった者が多いが、口にできなかった

れなかったニュータイプを語り出したエポックとなる企画であった。

それまでは、ニュータイプを超能力者と考える者も多かったのだが、これにより普通の人間の可能性と考える人が増えたのである。

## 【ガンダムを語る】

◇機動戦士ガンダムのメインテーマは何だったのだろうか？

結論は出ているはずなのだが、視聴者からのリアクションが少なすぎるのではないかと、考えた編集部では、ガンダムに対してそれぞれの評価を下している人たちを集めて第一回座談会をおこなってみた。

これが正論だとは言わないが、何かの役に立てば幸いである。

※当時、出席者がみな大学生と社会人一年生という、ガンダムのコア層なのだが、本名を出すとまずい人がふえたので、割愛させていただく。

◆ガンダムの総論——まったくややこしいテーマに首を突っ込んでしまったものだ。今回はニュータイプに焦点をあて、ガンダムの総論に一步近づいてみたつもりだが、読者の皆さんはどう思われるのだろうか？ 少なくとも放映が短縮されたから「ニュータイプ」で話を誤魔化したと考えているようでは総論は出せないと思う。かといってニュータイプの話だけでは各論にしかない。この座談会の出席者の共通点は、機動戦士ガンダムを映画として捉えていることだ。各自の総論を持ちながらなぜ発言しないかといえば、照れ臭いからなのだろう。ちょうど月光仮面やアルバートの正体がわかっていても口に出せない、あの感覚なのだろう。この座談会が正常なものだとは思ってもらっては困る。なにしろ出席者全員がSFファンなのだから……。

やはりガンダムの総論はアニメファンに語ってもらいたいものだ。しかしこの座談会の以前に何度かアニメファンを集めておこなった座談会は活字化するに値し

※独自の考え

小器用に幾つかの評論をまとめて自分の意見にするのが流行っていた。雑誌は週ごと横の連絡が密な時代なので、二重投稿は、はねられていた

※百本の指

なんて控えめな表現。なんだが……十本では、こぼれる人いるからこの表現にしたが、実際はそうとうたるメンバーであった

※出席者の名前は記号として読んで欲しい。資、備、くなっちゃったもんなあ。まあ仮名でことにしときましよう。(笑)

ないものだった。

まず第一にガンダムの話を理解していない人が多いこと、そして意見を発表する人のほとんどが、独自の考えを持っていなかったことがその理由である。特に後者は投稿原稿にもいえることなのだがどれもこれも、どこかで読んだ記事にそっくりなのにはあきれかえる。

そりゃあ某誌のごとくアニメックの事典を丸写しにするようなところもあるけれど、ガンダムファンがそんな真似をするのはどうかと思う。最近ある同人誌で、ザクは農耕機械から進化したものという説が発表されたが、これなどなかなか良い考え方だと思う。

なにも本誌で「ザクはサイド建設用の機械から進歩したものだ」と書いてあったからといって、それを鵜呑みにするのはやめたほうが良い。テレビ画面にはつきり登場した事実以外は可能性でしかないのだから……。

ガンダム本論については次号でも話を進めていこう。この企画についての意見や

感想をどしどし送って欲しい。

**出淵** アニメックは我々を集めて、何をしゃべらすつもりなんですか？

**その他** そうじゃ、そうじゃ。

**本誌** アニメックではガンダムの解説をかなりやっていったつもりだったのですが、どうも読者は枝葉にとらわれすぎていて、肝心の本論を把握していないようなのです。ここに集まってもらった方々は、日本でも百本の指に入るガンダムの理解者ですので、何か参考になる話をしていただけるのではないかと……。

**出淵** ニュータイプの話を理解していない人が多かったもんだから、かなりヤケになってるんでしょう。

**本誌** ハハッ……。まあそれもあります。キャラファン、メカファンばかりではガンダムの本当の本論なんてそう易々と出てくるものじゃないと思うけどアニメックがやらねばどこもやらないでしょ？今回はそのたたき台という意味も含めて、話を進めてみたいんです。

近藤 メカファンは人間じゃないみたい  
な言い方、やめてほしいものだ。

本誌 まあまあ、あなたはメカ論だけで  
もいいですから……。

近藤 いやあ、ザクが好きなんですよね。  
ありやあいいい！

瀬川 デザインが素晴らしいですよ。

出淵 壊れていても美しいのはザクだけ  
です。

石田 ドムなんか壊れていたら美しさの  
かけらもない。(笑)

山崎 ほくは人間ドラマに……というよ  
りそれだけを見ましたね。

瀬川 そうですね。四つの大きな流れを  
持った人間ドラマでしたね。アムロの成  
長、ニュータイプの発生、ジオン公国の  
政治的抗争、そして宇宙大戦。ガンダム  
はまざれもなくSF映画だったと思いま  
す。大ざっぱにいうと、生活の場があつ  
て日常生活があり、その場にもう一つの  
違う情況の設定があるものはSFと呼べ  
るんですよ。

近藤 うーんその意味、SFファンじゃ

ないとわかんないねえ。SFファンがガ  
ンダムを一番理解してるってそこらあた  
りの事情なんだろうなあ。富野さんがセ  
カンドアルバムで「逃げたと言われても  
仕方がない」って書いてましたけど、ガ  
ンダムの物語そのものがサバイバルラン  
なんだよな。

出淵 サバイバルランって富野氏よく  
やるんだよね。トリトンにしろザンボッ  
トにしろ……。全部そうだったりしてゝ  
ひるた 富野喜幸論はまたの機会にすれ  
ば？

本誌 私が言おうと思ったのに……ニ  
ュータイプに限って発言してください。あ  
まり脱線しないでね。今日はなんとか、  
ニュータイプの結論出したいし……。

石田 ニュータイプは出るべくして出現  
したんだと思うんです。メダカを宇宙へ  
持つて行っても泳げないけれど、メダカ  
の卵を宇宙で孵化させてやれば無重力状  
態でも泳げるメダカになるでしょう。な  
んていうのかな、アミーバから人間まで  
地球上の生物は、地球という閉鎖空間で

※サバイバルラン

当時の笑話。少年少女  
が巨大ロボットに乗って  
大きな船で逃げ回るお  
話」と説明すれば、富野  
アニメは読める……。



※2001年  
S・キューブリック監督  
の2001年宇宙の旅。  
当時のSF青年ならたい  
てい観ていた名作

生活しています。その母体というべき地球を離れて生活すれば、今までになかった能力というものが現れるとおもうんです。

**ひるた** その発生の仕方についてもシャアのセリフ、ジンバ・ラルのセリフの二脈がありますね。僕はジンバ・ラル説が好きです。

**出渕** ぼくは少し違って、最終回のセイラのセリフ、「人がそんなに便利になれるわけがないのに……」あれに共感しました。一言で言えば富野さん流の「幼年期の終わり」だと……。

**全員** それですね、ガンダムは！

**石田** 全体的に2001年をもとにしてますね。とくにラストシーンなんか。

**近藤** ただマネとかパロディじゃないんだな、これが。比喩的な意味でそう感じるといいます。

**本誌** 軌道修正してちょうだい。

**出渕** ニュータイプの宇宙空間での適応性論っていうのは？

**近藤** ファースト・ニュータイプはジョ

ン・ズムでしょうね。ただサイドに住んでたからニュータイプっていうんじゃないやなくて、彼の場合はニュータイプだからこそ、サイド3に移り住んだんじゃないでしょうか。

**石田** その可能性はありますね。その時すでに良い意味での人選もしていると思います。フラナガン機関は、その頃からあったのかな？あれよくわかりません。

**出渕** ありや軍ですよ、私的な。

**岡村** シャリア・ブルはニュータイプだから木星に行ったんでしょうか？

**本誌** わかりませんねえ。ただ、勘が良かったんだと思います。木星まで行くってことはコロニーを飛び歩くのとわけがちがうでしょう。生還率も少なかったと思うんです。彼はそれを何度かやりとげたんでしょうね。その成功率の高さからキシリアが、目をつけたんじゃないですか？

**近藤** すると木星へ通ううちに、ニュータイプになったということ？そういうえばシャアもそれに近いですね。アムロなん

※たいていの人は9話

第9話 翔べ！ガンダム

は、今までの戦闘常識判断ではなくアムロが独自の戦法を編み出す話である。従来の勘の良い主人公、運の良い主人公ではない新しい流れが演出に見られた。

事前にニュータイプを知らされていない我々でも、何かが感じられる話数であったのだ。

か典型的なニュータイプ進化をしたけど。  
石田 でもアムロは、出てきた時から変わってましたよ。

近藤 頭が良かったのかな？少なくとも今までの日活アクション風主人公じゃなかったですね。シャアとやり合ううちにニュータイプになっちゃった……。

岡村 レバー一本でモビルスーツを動かすんですからねエ。

ひるた ガンダムだから動いたんですよ。サイド7での実用テストの動作をコンピューターが覚えていたお陰で……あれが完成したてのGMだったら無理でしたね、きっと。

石田 GMはよく動いていましたね。シミュレーションしてたのかな？パイロットさん。

本誌 ガンダムのデータをジャブローで渡したでしょう。それをGMにコピーしたんじゃないかな？だから「ワタシでも動かせます」というモビルスーツだったと……。

ひるた 一話でアムロがゲージを見て言

いますね。「5倍以上のエネルギーインがある」って……何だか未だにわかんない。

石田 ザクのデータはテムが知っていて、アムロもどこかでそれを聞いたんじゃない。

近藤 違います。アムロが知っていたエネルギーゲインはハロのだけです。つまりガンダムはハロの5倍のエネルギーゲインがあるのじゃ。(全員爆笑)

岡村 ハロはボールより強いということですかね？

石田 惜しむらくは、設定をスタッフ全員が理解しきっていなかったためのミスが多いですね。

ひるた 左手がヒートロッドで右手がマシンガンというグフも出ましたよ。

近藤 そりゃいいの。パイロットが左利きだったんだから。本当かね？

本誌 アムロがニュータイプだとわかるのは何話からですか？

出渕 たいていの人は9話じゃないですか？

岡村 マチルダはレビルのスパイも兼ね

※超能力

出席者は、リアルな超能力実験から、磨礫な伝承、さらには小説やコミックスでの超能力者をほとんど知っていたので、明快に超能力とニュータイプを分けて語っている。

てたんじやないでしょうかね。直属の部下ってそういうのが多いから。

近藤 レビルはニュータイプを知っていたと思う。だからマチルダにそれをさぐらせる目的もあつたんじやないかな。当然マチルダもアムロがニュータイプということを知っていたんでしょうね。

ジオンでは噂しあつていそう。ガンダムのパイロットは、ニュータイプではないかとな……うわさだ。本当なら素晴らしい事だがな……。

——第26話 レビルが言うはずだつたがカットされたセリフ

石田 アムロがニュータイプじゃないかと普通の人にはわかるのは目が光り始めてからかな……アホでもわかるのはテキサスコロニー。

出淵 ランバ・ラルの出会いで見当がつきませんか。一番のきっかけはやっぱり「イセリナ恋のあと」かしら？

岡村 シャアの動きを読んだあたりでわ

からんかな。

近藤 最初の頃はガンダムに入るとストレスを受けて、ニュータイプらしくなつてましたね。

石田 アムロ以外にどんなニュータイプがいたんですか？どこで分類するからわからないんですが……。

近藤 ミライのマチルダショックは一種の子知でしょ？あれは勘の良い人間ということで。

石田 カイなんかどうします。ミハル前後で。

近藤 そうですね。勘の良い人間とニュータイプの区別はどうなんでしょうか？岡村 超能力者とニュータイプは別のものでしょ？

石田 ニュータイプは超能力者より優れていると思います。超能力者はそれだけです。ニュータイプは広がりがありますから。

近藤 超能力はもともとの素質が必要でしょ？遺伝的要素が90%以上あるみたいなどころがある。しかしニュータイプは

そうじゃなくて人間なら誰でもその可能性を持っています。

ひるた アムロがニュータイプっぽかったのはシャアの攻撃をよけた事ですか？

近藤 「ガルマ散る」の時にレーダーも見ずに敵のザクの気配を感じたこと。

ザクの奴……どの辺に降りたんだ？ 妙だ……

いやいる……敵は近い……

——第10話 アムロのセリフ

山崎 「時間よ止まれ」で間一髪バギーを捨てたのも能力でしょ？

岡村 ランバ・ラルのヒートロッドでバズーカ弾が誘爆する瞬間に、バズーカ捨てたのも……。

近藤 それはガンダムの能力に組み込まれた戦闘常識判断じゃないかな。

石田 モビルスーツをジャンプさせた。ひるた ザクだって飛べますよ。

本誌 やはり3クール目からじゃないとニュータイプの決め手は出ないですかね。

近藤 誰が見てもニュータイプだとわか

る話。カツ、レツ、キッカがジャブローで爆弾を始末したこと。

石田 だってそんな話よくあるでしょう。

ひるた ご都合主義の固まりみたいな脚本家がよくやりますが、ガンダムは別でしょう。

本誌 シャアが率いる工作隊が爆弾を仕掛けたということは、かなり巧みにかくしてあったと思うんです。それを一つ残らず発見したというのは考えてみる必要があるのですね。

近藤 子供がそれだけ集中力を持っていないですよ。あの三人は自己保存能力が触発されると力を解放する、三身一体タイプのニュータイプだったんです。

石田 ラアラの予知はTVを見ている時に「白いモビルスーツが勝つわ」と言ったこと。

瀬川 テキサスコロニーのドッキングベ

イの爆弾をアムロが予知したこと。

出淵 ほか、富野さんの十八番「フィルムを見ればわかります」じゃないけど、ニュータイプの話がテレビを観ていて理

※ジャブローで

劇場版「哀戦士」では、カツ・レツ・キッカの爆弾騒動が、テレビ版ではなくて我々が記憶として処理している映像に近いものに変更されている。だからテレビ版を今見ると「あれっ」と思ったりする。

※今の若い人

認識でこういう発言するの  
もなんだが昔からジェ  
ネレーションギャップと  
いうものはあるようだ

※この座談会により、ニ  
ュータイプとエスパーの区  
別がでない奴はガンダ  
ムファンではない、とい  
う風潮になる。極端過ぎ  
るなあ

解できないのは信じられない。

岡村 ガンダムの本論がつかみにくいのはそこに、原因があると思う。今の若い人って言い方変だけど、要するにぼくたちより三才ほど下の人たちって自己犠牲の精神がまるでないでしょう。ほくらがドラえもんが好きな理由と、彼らが好きな理由、もろに違うんですね。彼らにとって地球を守るヒーローより自分の頼みだけを聞いてくれるヒーローの方が大切なんですよ。

近藤 今の人類には未来はないかも知れない。ニュータイプのアムロにしても同じかもしれない。だけどチビちゃんたちが大人になる頃には、きっと何もかもうまくいくんじゃないか……といった話。つまり次の世代に希望をたくして、という物語は自分のことしか考えない世代には理解されにくいじゃないですかね……。

ひるた ガンダムの総論って、むしろかしいですね。ガンダムの世界と王道と言った感じで。

出淵 この座談会がとっかかりになれば

いいですけど、読んでくれますかねえ。  
近藤 まあ胸を張って王道を進んでくだ

さい。

本誌 本日はどうもありがとうございます。  
した。

この対談を読んで、自分なりのガンダム論が出て来た人もいるのではないでしょう。か。あなたなりの「ガンダム総論」を編集部までお寄せ下さい。

※実は、もっと複雑怪奇な話題をしている仲間にあえて単純にわかり易い話をしてもらっているの、テーマが終わってからの激論の方が面白かった。その時の結論「ニュータイプって、僕たちの事じゃないだろうか？」は、名言だと思っている。

この時期に増加したファンの多くが、ガンダムはいいと認めつつ、

「番組後半のニュータイプについては話が変わる。最終回付近で、いきなりニュータイプという名のエスパーが出てくる。そりゃあ放映

短縮で困ったのだろうか、ガンダムにオチを作るために考えたもので不自然だ！」

と声高に叫び始めていたのである。話数短縮により舌足らずになった部分は否めないが本質は変わっていないと信じる旧来のファンは、ここで自分の胸の中で結論づけて大切にしていたニュータイプ論を、人前でも話さなければならなくなったのである。

こりゃあ恥ずかしいのよ。映画2001年のラストシーンを、言葉で人に説明するくらい恥ずかしいのだけど、やらなければならぬ状況だったのである。

### 【みにめえるより】

◎なぜガンダムを続けさせるためにDX合体セットを買わんといかんのだろう。

自分で作るならまだしも、できのわるいの買ってきて遊ぶ気もないし、かざっておくのもさえないし：おもちゃを売るためにアニメがあるんじゃない。キャラを身売りしなきゃならぬ状況が悪い。

(山本智哉)

◎今日、学校に友人がアニメック11号を持って来ました。読んでビックリ！あのクロスワードは私が作ったのです。まさか載るとは思わなかったのとおどろいています。でもどうやったらハガキの表だけ失くすことができるんですか？また作ったら送ります。

(千葉県流山市 五十嵐圭子)

◎くどいようですが、私は子供にもガンダムは理解できると思う。私は現在ピカピカの中学一年で、ガンダムが始まった時は小学生でしたヨ。

だが私なりにガンダムの世界を理解している。大人だってアホには無理だし、いくら小さくても天才だったらどーするんだ。

(豊島区 横倉佳鶴美)

◎太田恵司さんへ。あなたは、ガンダムが背中のランドセルについているバーニヤだけで宇宙空間を飛び回っていたと、思っているんですか？ガンダムの体の各部には姿勢制御のバーニヤが付いている

※ハガキの表

ハガキの表だけを紛失したわけではない。クロスワード部分を拡大コピーして原稿指定をし、応募者の名前を記入しようとしたら、ハガキそのものが無くなっていただけである。この一件からこの人は常連投稿者になってくれた

んです。W・Bから射出された勢いも相  
当ついていたと思われます。

(金沢市 下野見義)

◎カイさんの、ファンがいると知って感  
激！なにをかくそう、私めもカイさんの  
ファン。ミハルはかわいそうでしたね：  
あれから弟たちは、ずうっと帰らぬ姉  
をまつているのでしょうか。戦争ついで  
やねえー。

(愛媛県 広田美紀)

◎今、修学旅行先から出しているのだ。  
楽しい楽しい旅行とは言えません。なん  
と、この旅行のせいで「機動戦士ガンタ  
ム」37、39話の再放送が見れないのだ。  
ガンダムファンの皆さん、血も涙もない  
学校行事に注意しよう。

(山口県下関市 余山昭彦)

◎先日、大阪の阪急でひらかれた「ガン  
ダムフェア」で星山氏と編集長サマにお  
会いました。ファンの拍手に迎えられ  
て入って来られたお二人の第一印象……。

星山氏「生徒全員に逃げられた数学の塾  
の先生。編集長「NHK」歴史への招待」  
に出てくるアナウンサー。

(大阪市 酒井泰子)

※まあ、この頃から鈴木健二アナウンサーに  
似た老け顔だったのである。20年振りに会っ  
たファンが、まるで変わらないので驚いてい  
た。じゃあ当時から40代に見えていたの？

## アニメック13号

昭和55年9月1日に発売されたアニメック13号は伝説巨神イデオンの大特集。

同時に進行していた『機動戦士ガンダム記録全集』も、5巻の編集が終わった時期で、ガンダムでやる事はほとんどやったという満足感があつた。

記録全集で思い出したが、制作会社ならではの、贅沢な素材がある。これから後のガンダム報道が楽になったのはこの素材のおかげといえる。

16ミリネガフィルムを水中ブローアップという手法で35ミリに拡大して全巻焼いたのだから大変なコストである。

現像所から届いたニュープリントを、バシバシ切ってファイリングし、絵コンテから選んだシーンをそのファイルから取り出すのである。

一卷あたり4冊のファイルになり、これが43話だから凄い量であつた。

劇場版の第一作にも、この手法で拡大した

35ミリフィルムが使われているが、これは別に作ったものののだろうか。

記録全集用のファイリング作業は、この年の春までに終了しており、一度切ったフィルムは再編集には使えなかったはずである。

もし劇場公開が先に決まっていたならば、劇場再編集部分を切り取った後のフィルムで記録全集を作ればだいぶコストがさがったのにと後に思った。

もつとも全てのコマが、ファイリングされた事により、どこの出版社から「何話のあのシーン」と要求されても35ミリフィルムを提示できるようなつたのである。

数年前にこのファイルを見たら、一冊が当初の半分以下の厚みになっていた。それだけガンダムのフィルムが流通している証拠であろう。

ガンダム特集は、カラー名場面12話までをセレクト。これで一区切りとした。

この段階では、ガンダム劇場化の噂話もなく、本誌で3回に分けて1話から12話までの名場面をやっていたのは、まったくの偶然で





ある。白黒はガンダム研究のパート3として、小道具のアラカルトを図鑑風に説明している。

この号の目玉は、先号で募集したガンダム総論の第一次発表であった。

#### 【ガンダム総論Ⅱ】

前号で募集した「ガンダム総論」の応募総数は、切日までに、百七十四通に達しました。そのどれもが、しっかりした文章で、読者のレベルの高さを再認識させられるものばかりでした。

今回は、そのなかから代表的な総論を選び掲載することにしましたが、とても今回だけでは紹介しきれませんでしたので、次号でも発表します。特に驚かされたのは、レポート用紙に書く人や、色インクで書く人がほとんどいなかったことです。文章の善し悪し以前の問題だけに、まともな原稿が多かったのは編集部として、大変喜ばしく思っています。これからも、こういった企画をどんどん出しますので、

どうぞよろしく御支援願います。

#### ガンダム考察

京都府 たかみのりこ

・ニュータイプを描いたガンダム

ガンダムにおける戦争描写は、確かに、ストーリーの上で大きなウエートをもっているが、それはニュータイプを描くための手段、条件だったのでないだろうか。戦いを描いた作品としたなら、むしろ、富野さんのオリジナル第一作、ザンボット3に、より、考えるところが多い。そして、そこにガンダムのルーツを見る。戦いを描いたザンボットがあったから、ガンダムは立ち上がったのだと。ザンボット3のラストシーン、それまで、神ファミリーにひどい仕打ちをあたえていた地球人たちが、奇跡的に生還した勝平を笑顔で迎えられる一見、希望を約束するような場面だが、見落としてはいけない。そこには、「人類は自滅する。」という、ガイゾックの言葉に対する否定



は、何もないのである。

意識のもどった勝平が、見上げた空にみたものが、希望か絶望か、誰にもわかりはしない。「君は生きのびることができたか」という問いかけは、その時すでに始まっていた、と言ってもいい。そして、その勝平の見あげた空にある「何か」が、それが、ニュータイプの世界かもしれない、と思うのだ。

しかし、最初からニュータイプを描くことを意図していたにしては、あまりにも出方が、唐突すぎる……という意見もあるだろう。確かに、ニュータイプを個で考えた場合、「おまけ」と考えられないことはない。が、ガンダムのドラマの発展のしかたを考えれば、大切なのは、ニュータイプ個人をみるのではなくて、その人間関係に目を向けることだ、ということがわかるはずだ。

私は、ニュータイプは、現在の私達（オールドタイプ）にとって、もっとも確かな？つながらり親子、兄弟、男と女……みたいな関係Ⅱをこえて、はじめて成り立

つものだと思っている。つまり、そういうものへのこだわりを捨てて、心を開いた時、ニュータイプの「わかりあい」が持てるのだと。

逆に言えば、そういうものへのこだわりを捨てられないものは、ニュータイプになれない。だから、シャアやセイラ、ララは、ニュータイプになれなかった。誰よりもニュータイプに近い人たちではあったけれど、シャアは仇討ち、セイラは兄に、そしてララは男としてのシャアに、それぞれ、こだわりの持っていたから。そのこだわりの心をとぎしニュータイプにさせなかったのだ。

このように考えていくと、アムロの内向的な性格も、父や母との悲しい別れも、彼が多くの人と出会った理由も説明がつく。さらにホワイトベースの孤立や、クルーがいずれも家族と死に別れた少年たち、という設定も全てニュータイプを描くための伏線だったと言えるだろう。

絶望から希望へ、二つのニュータイプ「光る宇宙」で、アムロとララアによって



描かれたニュータイプは悲しい。なぜか。ララアはおそらく、シャアと出会わなければ、アムロ以上のニュータイプになっていたはずである。けれど、男として愛することのできるシャアと出会った時に、

彼女のニュータイプとしての意識の拡大は止まってしまった。「あなたが来るのがおそすぎたのよ!」とアムロを責めるララアは、シャアへのこだわりがある以上、アムロと同化できない自分を知っていたにちがいない。だから、悲しい。そこに、オールドタイプの否定があるから。そしてララアは、自らの肉体の破滅でアムロを受け入れるが、生きて同化できなかったという事実は、アムロに絶望的な悲しみをあたえた。「君ともこうしてわかりあえたんだから……。」という言葉の中に、こうしなればわかりあえなかった。もう誰ともわかりあえない。という言外の意味をふくんでいるように思うのだが、どうだろう。ララアの死後のアムロの変化の理由が、そこにある。彼はもっともわかりあえると思っていたララアに

拒絶されたことで、以前にもまして、孤独の淵に落ちこんだのだ。そして、その悲しみからの脱出が、最終話にみる、アムロの仲間によって描かれた、ニュータイプである。

ララアの優しさが、(あえて書く)大きな愛が、孤独の内に閉ざされたアムロの心を開き、その開かれた心は、ララアでさえ生きて受け入れなかった自分を、誰が受け入れてくれるだろう、というアムロの絶望的な思いを打ち消して、仲間たちの開かれた心を見るのだ。「み……みえるよ!みんなが!」というアムロの言葉に、その驚きと喜びが集約されている。そしてラストシーン……。

そこに、オールドタイプとの確執をこえた、真に希望とすることのできる(?)ニュータイプの姿がある。もちろん、人の歴史がそんなに簡単に変わるわけがない。しかし、アムロたちの生きた軌跡は、人の歴史の縮図とは言えないだろうか。人類全体がニュータイプとして変わっていく過程で、ララアのような悲劇も生ま



れてくるだろう……だが、それをこえて、ニュータイプ——希望は必ず、あらわれるのだ。

・メッセージFromガンダム

先に私は、「君は生きのびることが出来るか」という問いに対する答えが、ニュータイプであると書いた。しかし、ニュータイプは答えの一つにすぎないのだということを付け加えたい。

それは、アムロたちが生きて、そして探しかてた、アムロたちの答えなのだ。私達の答えは、私達自身が、みつけないといけない。「生きろ！そして、探せ！」ガンダムの内にそういう、私達へのメッセージが、織り込まれているように私は思う。

富野さんがセカンドアルバムの中で「私達制作者の人に対しての願いなのです。」と言っていたように、ガンダムは、そんな、人への優しさで満ちた作品である。そして今も、問いかけは続いているのだ。「君は、生きのびることができるか!？」と。

！ニュータイプに対しての理解がとても優しくて好感のもてる評論だ。やや突っ込み不足が感じられるが、素直な気持ちで読める文章である——。

ガンダムのテーマ

流山市 コーヒー・メーカー

「守るものがなくて、戦っちゃいけないのか!」「それは不自然なのよ。」この会話について考えていた。「光る宇宙」の中で、この会話だけが妙に浮き上がっていて、何か意味のある信号のように感じられたからだ。

守るもの……確かにアムロには守るものと言えるものはない。恋人もまだいないし、両親に至っては、彼は二度ずつ失ったことになる。一度目は彼の意志に反した別れであり、二度目は自ら選んだ別離といえよう。アムロだけではない。W・Bの連中は死別にせよ生き別れにせよ、家族との別れを余儀なくされている。が、それについての愁嘆場は殆ど見られない。



そして例えば娘の恋を認めてやれない元N・Y市長。弟妹を守る為スバイとなり、その為に二度と彼らのもとへ帰ってやれなくなった少女。互いに気遣い合い、幸せを願いながらも、ついに互いに望む処を理解してやれなかった兄と妹。極めつけは、一族独裁という最も堅固な体制を築きながら、自らの手で崩壊を惨劇を招いてしまった、父を殺した息子と兄を殺した妹……。何故ガンダムは、こうまで血の繋がり否定する方向に向かつているのだろうか？ 恋人同上にしても、悲劇的な結末を迎えすぎている。戦争の酷さを訴える為？ それだけの為なのだろうか？

……守るものがなくて戦うのが不自然だということとはつまり、守るものがあれば戦ってもよいということであり、同時に守るものがなければ戦わなくてもよい、ということだと考えられる。

ヒーロー達は戦う。愛する人を、愛する家族を守る為に。そしてそれを人は美しい行為と讃える。だが、守るという概念

は自分達と対立するもの、害するものの認識なしには成り立ち得ない。この他者への潜在的な不信、疑惑、恐怖は、人類が太古より持ち続け、繰り返してきた悲劇の根元と言ってもよい。(もう一つの要因、欲望も、それらがなければかなり少なくなる筈だから)。守る、という意識を捨てた時、人は初めて争いから自由になれるのかもしれない。ニュータイプならそれが可能だろう。不信も疑惑もなく、恐怖すら——そう、アムロは知ったではないか。ラアアが生きていることを。肉体は滅んでも意識は宇宙に溶け込み、会話。すらできる。そこには失われるものなど何一つなく、死すらも既に恐れる必要はないのだということ。

それは確かに夢物語かもしれない。しかし彼らはその入り口に立ったのだ。そして、アムロは帰って行く、共に戦う仲間のもとへではなく、共に生きる仲間のもとへ。私達は未だ変化の子兆すらない人間の類いだけれど、そして現実の世界は再び戦火の燃え広がるような状況だけれど



ど、だからこそ、アムロが帰って行ったそんな場所から、もう一度生きていることを始めたいと、願わずにはいられないのだ。何を今更、と言う人もいるだろうが、ガンダム終了4ヶ月間、6月まで考えてこの結論に達し、主題をよくもここ迄設定

やエビソードの細かい部分にまで徹底できたものだと、改めて富野監督以下スタッフの力量に感動すら覚えてしまった。力を支えているのは、情熱なのだろう。

更に、富野監督は種々のアニメ雑誌で意図や設定について語り、色々な説明もしているが、ついにモチーフを語るところで留め、テーマを語ることとはしなかったし、キャラクターに、そのままの言葉で語らせることもしなかった。それは最近の、語り過ぎるアニメ状況とアニメ屋の氾濫の中で、小気味よい出来事と言えるだろう。

とにかく、私の中でガンダムは一応結論を得た。が、私はガンダムについて考える事をやめる気にはなれない。何しろ考えれば考える程色々な事が浮かび上がっ

てくるのだ。かつて、これ程までに長い間人々の前頭葉を刺激し続けたアニメがあっただろうか？それだけでもガンダムは「偉大な成功作」と呼んでもいいのではないかと思うのだから……

！佳子さん、別にペンネームを使う必要はないのではありませんか？今回掲載した二名の女性の方は、どちらもガンダムという作品に対して優しい評価をしています。ただガンダムという作品の奥の深さを文章にされたのは佳子さんだけでした。この作品を本当に理解することができるのは、今のところ誰もいないのではないのでしょうか？

※私の一番好きなニュータイプ論である。読んでいて、一番無理なく共感できた。

後の話になるが、ガンダム劇場公開パンフレットにおいて、ニュータイプを一般の人にもわかりやすく説明しなければならなくなつた。

野辺忠彦宣伝プロデューサーは、迷うこと



なく「このニュータイプ論を再録させて欲しい」と依頼された。

20年経った今でも、これを越えるガンダム視聴者の意見はないような気がしている。

徹底できなかった戦争リアリズム

近藤直文

「愛」の大安売りと、死んだはずの亡霊を生き返らせる御都合主義のワンパターンアニメのはびこる中で、

●愛も正義も唄わない奇妙に生々しい画面——それが「ガンダム」であった。

TVアニメ界にも、電気紙芝居から芸術の領域に一步近づいた作品が出現した。

(TVという本来的に芸術を拒否する媒体で、局側の圧力との虚々実々の戦いにも大いに興味のある所だが、その話は、富野氏がアニメ界の「大島渚」として追放処分を受けてから語って頂けるものと期待する)ここでは、その戦争観に焦点をあててみる。

我々の戦争観は、我々にそれと判らない

ように、日常的に歪め続けられている。

それは、大東亜戦争における「加害者としての日本人」という戦争体験が語られないことに始まり、凡百のアニメのワンパターン化した「敵」と共通項である無人間的「仮想敵国」が日常的に語られる中で、次の戦争へと向かって、進行している。

「ガンダム」は、戦争という事象そのものに迫ることで、歪められた戦争観を破壊し、我々の認識構造に如何なる衝撃を与えたか。

まず、アムロ達が戦う理由は何か。そこには、鳴り物入りの大義名分も「愛」もない。彼等にとって、戦争は、とっさに自分達の身を守るしかなかったものとして突如出現し、既に戦争のメカニズムに組み込まれている自分を見出す。気づいた時には既に遅く、己の状況を全面的に引き受けるか、身体を遮断して自閉するしかない。その両極を揺れ動く空虚な目的意識の中で、ホワイトベースという孤立した物理的精神的運命共同体発生装置



置が「戦うこと」を次第に自己目的化していく。

「虫も殺せないような子が……すさんだねえ」(第十三話)。

「船を降りるのか」「今さらそれでもできないでしょうね。ホワイトベースに愛着もあるし」(第三十九話)。

そして、ラアアを白らの手にかけてもお、直接の現象としては人殺しでしかない戦争に、のめり込んでいく人間の恐ろしさが、重苦しい効果音と、台詞の長すぎる程の空白の中に浮かび上がってくる。戦争が恐ろしいのではない。恐ろしいのは人間だ。ここでは、「愛」は、何の救いにもならない。愛とは答えではなく「問い」であり、へ〇〇の為の「愛」である。

西崎―松本の体制迎合的御都合主義アニメ「ヤマト」では「愛愛」と言えは全てが解決したように錯覚するが、セイラやアムロが「愛の為に！」と言ったら皆は吹き出すだろう。事象そのものに迫って描かれたすぐれた作品ほど「愛」や「正義」のお題目は何の答えにもならない。

だが、この恐怖は、描写不足だ。恐怖が意識に把握される前に、「ニュートイブ」なる猥雑物が現れ、それが救いであり輝ける未来であるかのようにすり替えられていく。ニュートイブに救いを見るのは、自らあらわにした事象に耐えきれず、逃避することではない。つまり、「ヤマト」の「愛」が、「ニュートイブ」に衣を替えて、「何の為に？」という問を、問われることのないままに埋めてしまっている。ニュートイブというすぐれた発想が純化されることのないまま、でたらめに直面にバラまかれた結果、悲劇が喜劇になりENDマークの暗いナレーションが、ユートピア誕生のファンファーレのように聞かれてしまっている。

「ガンダム」のENDマークほど、暗くやりきれない未来を告示するものはない。ニュートイブは、「宇宙を歩くのに適した人間」でしかなく、戦争の道具でしかなかった。神や仏やユートピアの主人ではない。「人間がそんなに便利になれる訳がない。」





しかし、宇宙に広がった人間は、地球的感性による支配には耐えられない以上、第二のギレンが現れ、独立戦争がより陰湿に再現するであろう。キッカ達三人の小さなニュータイプは、終戦後の軍事体制で強化されていく管理社会とその教育機構の中で、その笑顔をいつ迄保つことができるか。彼等は、体制をくつがえす起爆剤にはなりうるか。ブライトやミライ達は、戦争の日常から平和の日常に移行していくだけか。そして自閉児アムロ——ニュータイプの殺し屋は、自己の犯した行為を自己の狭き責任において受けとめ、さらなる未来へと自己を投棄していくのか。それとも、ララアと、ホワイト・ベースの共同幻想の中に、永遠に心を閉ざしてしまうのか。

「ガンダム」は、疎外された自己を取り戻す試みを放棄して、センチメンタリズムに逃げこんでいる。それが、戦争という事象に切り込み、その中で生身の人間をリアルにとらえた、日本のアニメ史上最高のこの作品の結末を、救いのないよ

うなものにしている。

！近藤氏は自ら「アニメックには貴重な、もしくは、対象外の年令です！」と言われる33才のプログラマー。(アニメックの読者として、本当に貴重な方だと思えます。)

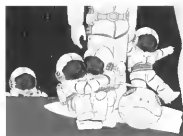
近藤氏の意見は、ガンダムブームの渦の外から冷静にこの作品を評価しているようです。たしかに「ガンダムの世界」は、43話の後を考えると暗いものではありますが、つまり連邦(旧人類)がニュータイプを利用するか、ニュータイプが連邦を滅ぼすか、の二つに一つなのですから……だいたいラストのセリフの冷たさ——永井一郎の好演です——は、平和がきたよ、なんて甘い事を言っていないのです。どう考えてもこの作品のラストは救いようのないものなのでしょう。しかし、富野氏に対する評価が甘いといわれるかも知れませんが、そんなラストを認めたくありません。カツ、レツ、キツカに希望を託してみたいのです。それは

僕自身の甘さだったのでしょう。それを近藤氏に見透かされたような気がします。ガンダムのENDマークの後ろに、あの世界の未来を予想した人は多いと思います。しかし何もかも平和的に解決すると考えた人は少ないのではないのでしょうか？とは言いつつ彼らが平和に暮らしてくれば良いなあ、と考えている人は多いと思います。

(K)

今回、ここに掲載した評論以外に、「高千穂氏、光瀬氏に対する反論」というものも数多く寄せられたのだが、いささか感情的な文章が多く、載せるのを見合わせた。ガンダムファンが、ガンダムを批判されて感情的になるのはわかるが、やはり理論的に反論してもらいたいものだ。(だいたいアニメックに載った批判ではありません。)

発表され、てんやわんやの騒ぎになる。どういうわけか、その時もアニメックにクレームが山のように来たものである。なんでアニメックに来たのかはいまだにわからない。



※高千穂通氏は、ガンダムをSFとは認めていなかった。この翌年のOUT誌上では、かの有名な「ガンダムはSFじゃない」発言が

## 第五章 ● ガンダム映画化

# ガンダム劇場公開

## 突然の発表

当時としては画期的な「機動戦士ガンダム記録全集」は、制作会社が作る出版物であり設定段階からの資料が惜し気もなく投入されている。山浦さんからの要請で、バトンタッチされたものの途中まで進行していた本の編集は苦戦した。

発注されているイラストや文章はそのまま使うにしても、スタッフの座談会やコメントをもらわなければならないものもあり、暫く準備期間が必要であった。

それでも2巻を4月1日に出した頃には、その後の流れが安定した。基本的に通信販売なのであるが注文が殺到し、直接売りもアニメックを初め幾つかのショップでする事が可能となった。

その後は比較的安定して3巻は6月1日、4巻は8月1日、最終の5巻は9月24日に発行する事ができたのである。

つまり、アニメックが奇数月の1日に発売され、偶数月の1日には記録全集が発売され

ていたわけである。よくもまあ、毎月ガンダムの編集ばかりをやっていたものだと思分ても感心するのだが、あらゆるデータが自由に扱えたのでネタ不足にはならなかった。

記録全集では、最初の構成案である富野メモをそのまま掲載するのも許されたから、割愛されたストーリーも紹介できたのである。

実際は素案であつたから、テレビシリーズにそのまま加えられないのだが、原案がこうであると知らされたファンが熱狂し、本物のガンダムが見たいという欲求に繋がって行った。本物も偽物もないのだが、理解できない部分があるファンとしては、完全放映されていれば自分にもわかんと思つたのだろう。

今のファンにとって、ファーストガンダムは、伝説の作品であるからLDで映像を見る前に予備知識があるのだが、この当時の再放送によってガンダムを見たファンに予備知識はほとんどなかったのである。

だからこそ、アニメックや記録全集を集めて理解したかったのだろう。またバンダイから発売された1/144のガンダムプラモデルも非常な人気を呼んでいた。

※毎月ガンダム

というわけで、サンライズの近くに引っ越したりもした。西武新宿線の、上井草の隣駅となる井荻である。  
作詞家の富野さんのペンネームが、井荻雄なのはこのです。サンライズのある上井草からは歩いて10分足らずなので仕事には便利だったが、食事に出るとスタッフの誰かに会うのでとても疲れた

※多数のミス  
本放送は1月で終了している。2月は再放送だ。  
アムロは15歳、20パーセント近い視聴率は、再放送のもので本放送は惨敗している

アニメ雑誌の締め切りには絶対に間に合わない10月2日に日刊スポーツが「ガンダム映画化決定」をスクープした。

もともと10月9日に記者会見をするという発表はあったのだから、スクープというか、スッパ抜きに近いかもしれない。ガンダムを知る人ならば多数のミスを発見できるだろう。

# 【日刊スポーツ】より

ポスト・ヤマトはガンダムだ

来春3月、松竹が1本立てで公開

'81アニメ界殴り込み

ヤマトのつぎはガンダムだ！

大手映画会社が争奪戦を展開していたSFアニメ「機動戦士ガンダム」（日本サンライズ制作）が来年3月、春休みをねらって松竹で一本立てで公開される。「ガンダム」は、昨年四月から今年二月にかけてテレビ朝日で放映されたが、最近になってが然人氣が急上昇、アニメ雑誌の人氣投票では「宇宙戦艦ヤマト」「銀河鉄道999」を抜いて断然トップに踊り出た人氣アニメだ。これまでアニメに手

を出さなかった松竹がこの「ガンダム」を武器に八一年アニメ界に殴り込むことになった。

「機動戦士ガンダム」は、宇宙を舞台にした連邦軍とジオン軍の壮烈な戦いを中心に、戦士たちの心のふれ合い、ニュータイプとしての目ざめなどを描く人間ドラマ。ガンダムは装甲強化服モビルスーツの名前で、この中に入った人間の意のままに動き、機能的には戦艦のような働きをする。これが巨大な宇宙戦艦ヤマトとは違った新兵器として人氣を集めているが、ヤングのそれも十五歳を中心とした女の子の間で圧倒的な人氣を得ているのはヒーローのアムロ少年（14）と敵方のシヤア（18）だ。

テレビ朝日で今年二月まで約一年間放映され、二十％近い視聴率を挙げていたが、爆発的な人氣となったのはここ二、三か月。

「戦争を美化せず、現実的に表現し、キャラクターが人間くさくて血が通っている。放送が終わってから懐かしさが倍加した」

「加藤すえ子さん(16)」と、アニメ雑誌アニメージュ十月号の人気投票では一位にのし上がり、他の雑誌でも「ガンダム研究」特集が続々。

この異常人気に松竹、東映、東宝東和が劇場上映の名乗りを上げ、結局「アニメ処女」の松竹が上映権を掌中に収めた。現在二時間ものに再編集集中。

来年は、東映が正月に大作「サイボーグ009 超銀河伝説」三月に「白鳥の湖」八月に「銀河鉄道999」東宝が三月に「タブチくん3」等公開、アニメラッシュの中で、果たして「ガンダム」がどこまで配収をのばすかみものだ。

(谷口(源))

※他の雑誌のガンダム研究とは、アニメック11号の65ページだろう。Gアーマーに乗るセイラの写真が無断転載されていたから間違いない。凄いキャプションがついてましたよ。

「機動戦士ガンダム。」若い女の子に人気のヒーローアムロン少年

だからGアーマーに乗るセイラさんだって。ともかく、この新聞記事の発表は、月末近くに発売されるO.U.Tも、10日発売のアニメ雑誌も、奇数月1日のアニメックも次回の締め切りにしか間に合わないという絶妙の日付であった。

これは戦略だったのだと思う。アニメ雑誌でどんなに大きな記事になっても、不特定多数をターゲットにした劇場公開では不安である。それを業界の外部にある新聞で発表すれば、一般の反応が違うではないか。

10月9日、築地の東劇ビル「エスカルゴ」にて急遽公式会見がもたれ、アニメ誌のみならず週刊誌や月刊誌の記者が殺到した。中には何がなんだかかわからずに来た記者もいたらしく妙な会話が交わされていた。

「松竹もヤマトやるんだねー」

オイオイ、アニメ映画はヤマトだけじゃないだろうに。

ともあれ、機動戦士ガンダム制作発表記者

会員の熱気は大変なものであった。松竹、サンライズの錚々たるメンバーが勢揃いし劇場作品への意気込みを語ったのである。

しかるに締め切りギリギリなので、11月1日発売のアニメック14号には簡素な記事しか掲載できていないのだった。

【アニメック14号 インフォメーション】

ガンダム劇場公開決定!! 機動戦士ガンダムの劇場版が81年3月に松竹系150館で公開されることになった。

制作はもちろん日本サンライズ。

富野喜幸、安彦良和両氏は10月9日の制作発表会で「ガンダムのテレビ放映版を熟知しているファンがこの映画を観て十分満足していただけるものになりたい」と語った。制作総額は5億、上映時間3時間以内とされ、一話完結のエピソード(例: クルスドアン島の15話等)は、省略されるということ以外、今のところ未定である。新年号で詳細を発表するので楽しみに!

※うーん、凄いな。クルスドアンと以下略は、このころからベアだったのだ。(笑)  
ちなみに、14号でのガンダム記事は用語事典をたんとんとやっています。

とにかく、劇場版は、1話から13話までの総集編になるだろうというのは、周知の事実であった。なぜならば、富野監督の話を聞けば誰でも予想できるからである。

「総集編のダイジェスト版にはたくありません。43本の話を二時間半にまとめることは不可能な話で、一本の映画としてひとつの話の流れを持った作品に仕上げたいと思っています」

この富野監督の言葉は、ガンダムやイデオンの取材に慣れているアニメ雑誌の記者には次のように翻訳されて伝わるからである。

「機動戦士ガンダムの映画版というのは、最初から何部作かに分けて映画館にかけるのが決定しているんですよ。パート1にするのは、完成度の高いTV1クール分をリメイクするしかありませんが、これがうまく行くとうなら未完成だった部分や、安彦さんが倒れ

た部分を全面的に作り直して上映したいですね。それで、余裕があるのなら最後には完全新作ができたらいなと思います」

(ほとんど超訳の世界ですな)

公式記者会見から暫くしての12月17日、劇場公開を知らせる広告が新聞に掲載された。

「青春の熱い魂に出会える―この瞬間に未来は、始まった。」

富野監督は、記者会見の時から「日陰の俗悪番組の代表のようにいわれていたロボットアニメが目の目を見た」と発言されているからよほど嬉しかったのであろう。

そのノリはアニメ誌の取材陣にも伝わり、ガンダム劇場公開報道は、どこも盆と正月が一緒に来たような華やかさであった。

だいたい硬派のアニメックでさえ、新年号である15号は明るくまとめていた。

1話から13話の使われるであろう名シーンと全体構成の予測である。当然ほとんど正確だったが、劇場版で大きく異なったのは、アメリカ大陸で母との再会をし、ランバールとの初戦で幕を綴じるという構成であった。

アニメ新世紀宣言に至るまでの話は、歴史

編でした通りである。野辺忠彦宣伝プロデューサーが、ファンに協力を求めなければ、この映画の成功はなかったのである。

宇宙戦艦ヤマトでも宣伝プロデューサーとして活躍した人だけに、ファンのパワーというものを心底知り尽くしていたのが成功の秘訣であろう。

昭和56年2月22日の『アニメ新世紀宣言』は、やはりエポックメイキングな話であったと結論づけるしかないようである。

当初の動員目標数は五千人でしかなかったわけで新聞告知に「ガンダム50000人キャンペーン」と銘打った段階では、それだけの数が確保できるかどうかギリギリだった。

それが2万人近く集まったのであるから、当時のファンがどれだけ危機感をもっていたかがわかうというもの。

今年の8月1日、バシフィコ横浜でのガンダムビッグバンプロジェクトにおいて、植田プロデューサー(今やサンライズの役員)が会場のファンに向かい懐かしそうに尋ねたのがこのイベントの事であった。

※アメリカ大陸

ランバールと戦うのは太平洋なので、その前になれば、アムロの実家は西海岸となるわけだ



※中身の無いイベント  
つまり集まる事が最大の  
目的のイベントだったわけ  
で、それを承知のファン  
が集合してくれたのであ  
る。

「アニメ新世紀宣言」にも、参加してくれた人はいませんか」

まあ、40を過ぎてしまった取材陣はほとんど手を上げたのであるが、けっこう若い客の中に手を上げた人がいたのには驚きだった。

顔見知りの30前の人間に聞いてみたら、小生で参加していたそうで、その時からのアニメックの読者だそうである。

ある意味で、機動戦士ガンダム劇場公開というのはファンに手札を晒してスタートした企画であった。パートIが成功すれば、パートIIがあり、それも成功すれば、本当に観たかった新作のラストも劇場公開されるぞと予告したも同然であり、観客動員数が少なければそれまでであると教えているのだから。

今でこそ、ルパン三世の最高傑作として知られる「カリオストロの城」ですら、公開時に動員数が少なく上映期間が短縮されたという苦い思いをしたばかりのアニメファンにとって前宣伝により、一般客が動員できなければどうにもならなくなるのを肌で感じていた時期でもあった。

2・22は、たしかに中身の無いイベントで

あった。それは集まったファン自身が承知の出来事である。それよりも、ファンの力を結集して「機動戦士ガンダム」には若者が群がるという既成事実を作らなければならなかったのである。それだけに新宿アルタ前に集まることそのものがお祭りだったのだ。

アニメ新世紀宣言に参加した。これはガンダムファンの大いなる勲章でもある。

「新世紀宣言の時、君はどこに居た」は、戦中派の合言葉でもある。

一度アルタ前マップを作りたいくらい、色々な所に知り合いがいたようだ。

私は、司令部にいたからステージ周辺の事までしかわからなかったが、クライマックスには、ガード下や交番の前、それに紀国屋近くまでファンが集まっていたのだから驚くことはない。

機動戦士ガンダムの劇場公開を成功させ、本来見られたはずのラストシーンを見たいという欲求のなせる行為であろう。

本当に、ボランティアとしてこれだけの人数が集まったというのは、歴史的な出来事であった。

## 第五章●ガンダム映画化

※ボランティア

たしかに金はないけど、  
暇はあるという若者が多  
かったのは事実。全員の  
名前までは知らないが顔  
は覚えてる。後半のア  
ニメファンの質の低下に  
嘆きながらも、最後まで  
混乱が起きないように身  
体を張って活躍してくれ  
た若者たちには今も感謝  
している。  
私くらいは、これを書き  
残さないで失礼になると  
思う。昔の青年たちに  
あらためてありがとう

(ま)

2・22アニメ新世紀宣言は、ガンダムの巨  
大看板の前に若者が集合しているという記事  
としては扱いやすいものだったので、新聞や  
雑誌でセンセーショナルに取り上げられた。

『人気巨大ロボット松竹でロードショー』

『あのガンダムが大画面で』『新世紀のアニ  
メ登場』と、多少違っているにもかかわらず  
い。一般メディアが報道すれば、それだけブ  
ームに拍車がかかろうというもの。

事実、昭和56年3月14日に劇場版ガンダム  
は封切られたが、松竹系劇場は朝から凄い行  
列ができていた。それもそのはずで、前夜か  
らだけでも数百人が並んでいたのである。

まあ、アニメ大作には徹夜行列を作らねば  
ならないというマニアのポリシーがあるから  
なのだが、新宿松竹は編集部から近いせいも  
あり定点観測にはもってこいであつた。

先頭の寝袋持参の4人組などは一週間前か  
ら並んでいたのだから良い広告塔である。

まだ寒いよ、3月なんだからという心配を  
他所にこれが少しず伸びて行く様子は怖い  
やら楽しいやらである。それに伴い、ボラン  
ティア活動も活発になって行った。

アニメ新世紀宣言が成功した裏には、ボラ  
ンティアでファングループの連絡を取り合っ  
てくれた幾つもの集団がいた。彼らは無償で  
事前に並ぶ行列の整理もしてくれていたのだ  
である。早めの春休みに入った未成年者が事故  
に巻き込まれてはいけない。事故があれば作  
品が叩かれると真剣に活動していた人が沢山  
いたのを忘れることは出来ない。

もつとも彼らも、パートII、パートIIIと進  
むにつれ「身勝手なファンが増えて大変です」  
と愚痴をこぼすようになるのだから、人間が  
増えるとモラルが低下するのは事実のようだ。

しかし、彼らが目を光らせていてくれたか  
らこそ、今までの劇場公開のように行列に接  
近して盗品のセルや絵コンテを売りさばいて  
いたグループも出沒できなくなり、結果的に  
は明るい劇場公開で幕を閉じられたのではな  
いかと思っている。

☆アニメ新世紀宣言に参加してくれていたガ  
ンダムファンの皆さん。いい歳の大人になっ  
ていると思いますが、ガンダム伝説ってのは  
やっぱりあなたたちファンが作りあげていっ  
た物だと思いますよ。

完

## 第六章 ●アニメーションで振り返る近代年表

# 1973

(S48)

| 12       | 10   | 7                                   | 6                         | 5                                   | 4                        | 3                    | 2                              | 1                  | 月      |
|----------|--|-------------------------------------|---------------------------|-------------------------------------|--------------------------|----------------------|--------------------------------|--------------------|--------|
| 日本沈没(劇場) | ドラゴンエン魔くん<br>イナズマン<br>新造人間キャシャーン<br>キューティーハニー    | セロテスター<br>ミラクル少女リミットちゃん<br>エースをねらえー | 仮面ライダーV3 対デストロン怪人<br>(劇場) | スーパードロボットレッドバロン<br>マシンガンZ対デビルマン(劇場) | 哀しみのペラドンナ(劇場)<br>スカイダー01 | ウルトラマンタロウ<br>マイクロイドS | 仮面ライダーV3<br>ジャングル黒べえ<br>ロボット刑事 | パンビル二世<br>ジャンボーグA  | アニメ・特撮 |
| 12       | 11   | 10                                  | 8                         | 5                                   | 4                        | 3                    | 2                              | 1                  | 月      |
| ブーム到来    | 燃えよドラゴン公開。ドラゴン<br>ペーパー買い占め騒ぎ発生<br>オイルショックで、トイレット | 巨人V9<br>江崎玲於奈、ノーベル物理学賞受賞            | 金大中氏らチ事件発生                | 山口百恵、『ふりむく』、ビデオリコー                  | パブロ・ピカソ死去                | 水俣病裁判、患者側全面勝訴        | 円、変動相場制に移行<br>大伴昌司死去           | ベトナム戦争終結<br>世相・その他 |        |

## ●アニメファンレベルの話題と忘れ話

1973年

※「エースをねらえー」は、ラストがまるっきり違う話でガッカリしたという話題沸騰。

※オイルショックは、情報先行型のパニック。買いためがあるから店頭商品が、不足した感じがあった。

「石油不足でこれからはストッキングが値上がりする。今、東京湾に5トンのストッキングを積んだ船がいるので安く売ってあげよう」なんて、詐欺事件もあった。

※日本沈没は、基本のセリフを押さえておくのがマニアに流行。小松左京の大ベストセラーで、映画公開の後は、テレビドラマや漫画連載もされた。

1974

(S49)

| 10 9  | 7 6  | 4 3 2 1  | 月      |
|---|--|--|--------|
| グレートマジンガー<br>宇宙戦艦ヤマト<br>SFドラマ猿の軍団<br>スーパーロボットマッハバロン<br>破裏拳ポリマー<br>がんばれ!!ロボコン<br>はじめ人間ギャートルズ<br>仮面ライダーアマゾン | 五人ライダー対キングダーク<br>(劇場)<br>マジンガーZ対暗黒大將軍<br>(劇場)<br>ゼロテスター地球を守れ!<br>電人ザボーガー | ウルトラマンレオ<br>星の子チヨピン<br>魔女っ子メグちゃん<br>イナズマンF<br>ゲッターロボ<br>ゴジラ対メカゴジラ (劇場)<br>仮面ライダーX<br>アルプスの少女ハイジ          | アニメ・特撮 |
| 12 11   | 10 9   | 4 3 2  | 月      |
| 田中角栄、首相辞任を表明<br>『エマニエル夫人』劇場公開   | 原子力船むつ放射能漏れ事故<br>長島茂雄引退<br>ゲイラカイト輸入開始                                    | ユリゲラー来日。超能力フーム到来<br>米ウォーターゲート事件起る<br>小野田元少尉、ルバンク島より帰還<br>ハンク・アーロン、ベーブ・ルース<br>のホームラン記録を破る<br>モナ・リザ、日本で初公開 | 世相・その他 |

1974年

※SFファン・特撮ファンの垣根なしに熱狂した作品は「アルプスの少女ハイジ」である。

潜在的な宮崎ファンが多く、動きの基本がいかに素晴らしいかを力説したものである。

この頃からスタッフによる作品の傾向が通う分析が始まる。テレビアニメでは、そういう系統立った研究は始まったばかり。

※宇宙戦艦ヤマトの放映は、あらゆるジャンルを越えてシヨックを与える。

松本零士漫画は「フタミ牧場」の昔からマニアに有名だったが、「電光オズマ」や「スーパー9」の根強いファンがいたから一部では熱狂的に迎ええられる。ぬえのデザインにメカファンが興奮した。ともかく知る人ぞ知るといった人気であった。

# 1975

(S50)

| 月      | 1  | 3  | 4  | 5  | 7   | 10 |       |
|--------|--|--|--|--|---|----|-------|
| アニメ・特撮 | まんが日本昔話<br>メカゴジラの逆襲 (劇場)<br>グレートマジンガー対ゲッターロボ<br>(劇場) | ガンバの冒険<br>みつばちマーヤの冒険<br>ラ・セーヌの星<br>勇者ライディーン<br>仮面ライダーストロンガー<br>秘密戦隊ゴレンジャー<br>ゲッターロボG | 宇宙の騎士テッカマン<br>新幹線大爆破 (劇場)<br>鋼鉄ジーグ<br>UFOロボグレンダイザー<br>元祖天才バカボン<br>アンデス少年ペロの冒険<br>アクマイザー3<br>一休さん<br>クムクム<br>タイムボカン |  |   |    |       |
| 月      | 3  | 4  | 5  | 6  | 7   | 8  | 10 12 |
| 世相・その他 | 山陽新幹線開通  | ベトナム南北統一   | エリザベス女王初来日<br>タワリングインフェルノ公開<br>ソユーズ19号とアポロ宇宙船、<br>ドッキング成功  | 沖縄海洋博開催<br>日本赤軍、クアラルンプールの<br>米、スウェーデン大使館占拠 | 中島みゆきデビュー<br>三億円事件時効成立<br>ジョーズ公開<br>コミックマーケット開催 |    |       |

1975年

※勇者ライディーンの話は、説明抜きで、主人公たちの日常生活にいきなりカメラが入り込むという富野作品の黄金パターンで始まる。

伝説のロボットに相応しい姿のライディーンに、青少年が熱狂した。

この作品がアニメに走ったきっかけというファンは多い。

※ベルサイユのばら宝塚公演は、原作ファンに関係なく大ブームとなり、宝塚を観てからコミックスを購入する層を拡大した画期的な例である。笑いを体験しに行ったが、結構はまった。(笑)

※第一回コミケが、年末に開催される。

サークル数32で、700人ほどの参加者が、虎ノ門日本消防会館の会議室に集結した。

1976

(S51)

|          |             |  |  |  |                         |                                     |                              |           |        |
|----------|-------------|--|--|--|-------------------------|-------------------------------------|------------------------------|-----------|--------|
| 12       | 10 9        | 7  | 4  | 3 1  | 月                       |                                     |                              |           |        |
| 5年3組魔法組  | キャンディ・キャンディ | マグネロボガ・キーン<br>ボールのミラクル大作戦<br>恐竜探検隊ボーンフリー | ゴッパ5ゴードム<br>ザ・カゲスター<br>UFO戦士ダイアポロン<br>忍者キャプター<br>大空魔竜ガイキング<br>宇宙鉄人キョーダイ<br>マシンハヤブサ | 母をたずねて三千里<br>長靴をはいた猫80日間世界一周<br>(劇場)<br>UFOロボグレンダイザー対<br>グレートマシンガー(劇場) | アニメ・特撮                  |                                     |                              |           |        |
| 12 11    | 10          | 9 8                                      | 7  | 6  | 2                       | 月                                   |                              |           |        |
| キングコング公開 | アグネス・ラム来日   | オーメン公開                                   | 奥志堅用高、世界チャンピオンになる  | 毛沢東死去<br>ソ連のミグ25戦闘機、函館に強制着陸  | オリバー・君来日<br>ピンクレディ、デビュー | モントリオールオリンピック開催<br>コマネチブーム起こる<br>対戦 | 新自由クラブ発足<br>アントニオ猪木、モハメド・アリと | ロッキード事件発覚 | 世相・その他 |

1976年

※宇宙戦艦ヤマト再放送により、大ブレイク。

これが一番大きな話題だろう。放送前からのファンは、嬉しいのが半分、自分だけのヤマトが無くなる喪失感半分だった。

※「ゴ・レンジャー」の企画

案で進んでいた「ゴッパ5ゴードム」始まる。ゴレンジャーとの混同を避けるために変更。

※キャンディ・キャンディに密かに転ぶ男性多し(笑)。原作はアニメに近寄りアニメは原作に似せようとするとても珍しい例で、原作とアニメの違和感は始とない作品となった。

※当時の二択問題より

「アグネスはラムかチャンカ？」  
今だと「ラムって誰ですか」と尋ねる人の方が多いだろう。

# 1977

(S52)

| 7                   | 6                        | 4                                   | 3                                   | 2   | 1                   | 月      |
|---------------------|--------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|---|---------------------|--------|
| 超人戦隊バラタック           | 超電磁マシーンボルトスV<br>ジャッカー電撃隊 | あしたへアタック<br>氷河戦士ガイスラッガー<br>ロボット100番 | 大鉄人17<br>キングコング対ゴジラ再々映(劇場)<br>バーバババ | 合体魔術ロボギンガイザー<br>ジェッターマルス<br>快傑スパット<br>惑星ロボタンガードA<br>合身戦隊メカンドーロボ | あらゆるまふスカル<br>ヤッターマン | アニメ・特撮 |
| 7                   | 6                        | 4                                   | 3                                   | 2   |                     | 月      |
| ニュージージラント沖ニューネッシー事件 | 八甲田山公開<br>気象衛星ひまわり打ち上げ   | ロッキード公開<br>月刊OUT「ヤマト」特集<br>惑星ソラリス公開 | 炎の少女キャリー公開<br>月刊OUT創刊               | 国産戦闘機F-1公開  |                     | 世相・その他 |

1977年

※あらゆるまふスカル、ワフフシーンに泣くファン多し。放映初期の作画がまるつきり間に合っていないと見ていての方がハラハラした。

※月刊OUT創刊。

創刊号を見てアニメ誌になると思った人はこの世にいなかったはずである。特撮系の人間も多かったのだから一歩間違っていたら、特撮専門誌になる可能性もあった本。そうになったらアニメ界の歴史が違ってしまうことになるだろう。

※メカンドーロボだけは、スタジオ見学に行ってもセルがもらえなかった。それもそのはず、有るセルは何でもバンクに使用されたのだ。今見ても最低三回は使われているので話数の限定はできない。



# 第六章 ●アニメーションで振り返る近代年表

|   |  |   |   |
|---|--|---|---|
| 12  | 10   | 9 | 8 |
| 惑星大戦争 (劇場)<br>女王陛下のフティアンジェ<br>若草のシャルロット<br>新巨人の星<br>風船少女テンブルちゃん<br>恐竜大戦争アイゼンボーグ<br>無敵超人ザンボット3<br>とびだせーマシーン飛竜<br>激走ルーベンカイザー<br>ルパン三世パート2 | 家なき子<br>アローエンブレムグランプリの鷹<br>冒険ファミリーこは惑星0番地<br>おれは鉄兵<br>一発貫太くん<br>宇宙戦艦ヤマト (劇場)         |   |   |
| 12  | 10   | 9 | 8 |
| リニアモーターカー浮上走行に成功<br>福田内閣成立  | プリントゴッコ発売<br>王貞治、国民栄誉賞第一号を受賞<br>ラン記録を抜く<br>王貞治、ハンク・アーロンのホーム<br>獄門島公開<br>エルビス・プレスリー死去 |   |   |

※惑星ソラリス公開。

試写で寝た。GFF大会の上映会で寝た。映画館で寝た。記憶を繋ぎ合わせても赤坂の高速道路と、不気味な沼しか思い出せない。誰か全体のストーリーを説明して欲しい。

※プリントゴッコがかなり細かい線を再現できるので、ミニブックを作るのが流行。イベント案内はこのマシンの発明により、とっても楽になったものだ。

※ザンボット3を見るのに、やらアルバイトをさぼった記憶がある。心底ビデオが欲しいと思った作品の第一号である。

※フティアンジェのマニアが急増。どうしてヤマトとアンジェを並列に語れるのかが不思議であったが、今なら何でもない出来事。ようするにこの手のファンが誕生した走りである。

# 1978

(S53)

| 月      | 1   | 3 | 4 | 5 | 6                                 |
|--------|---|---|---|---|-----------------------------------|
| アニメ・特撮 | ペリーヌ物語<br>透明ドリちゃん<br>魔女っ子チックル<br>宇宙海賊キャプテンハーロック<br>ジャッカー電撃隊VSゴレンジャー<br>(劇場)<br>スターウルフ<br>SF西遊記スターシンガー<br>一球さん<br>未来少年コナン<br>スパイダーマン<br>闘将ダイモス<br>UFO大戦争戦えレッドタイガー<br>宇宙からのメッセージ (劇場)<br>野球狂の歌<br>コメットさん<br>無敵鋼人ダイターン3<br>はいからさんが通る |   |   |   |                                   |
| 月      | 1   | 2 | 3 | 4 | 6                                 |
| 世相・その他 | ソ連の原子力衛星コスモスの破片が落下<br>未知との遭遇公開<br>開港寸前の成田空港管制塔を過激派が占拠<br>キャンディーズ解散  |   |   |   | 宮城県沖地震発生<br>スターウォーズ公開<br>アニメージュ創刊 |

1978年

※ムックブーム。

後にフル・ノアのSF考証を担当するSF研究家の金子隆一さんが「SF兵器カタログ」を編集されて話題になったのだが、若手がムックを編集したルーツがこれかもしれない。今やムックは表現手段として一般的。

※宇宙からのメッセージに感然とする。いっそ「宇宙八大伝」みたいな和風映画にすればよかったのにも思ったものである。

※スターウルフとスターシンガーは同時にスタート。

この業界もアニメと特撮とSFが混沌としていた時期なので、月曜の混乱と呼ばれる食い違いがあった。

「おい、スター見たか？」と仲間話にかけて、途中から違う番組を見ていた事に気が付いて、

# 第六章 ●アニメーションで振り返る近代年表

|       |  |
|-------|--|
| 7     | 星の王子さまプチ・フランス<br>宇宙魔神ダイケンコー<br>恐竜戦隊コセイドン<br>宇宙からのメッセージ銀河大戦<br>科学忍者隊ガッチャマン (劇場)<br>さらば宇宙戦艦ヤマト愛の戦士たち<br>バンダーブック (24時間TV)<br>西遊記<br>9<br>銀河鉄道999<br>10<br>科学忍者隊ガッチャマンII<br>宝島<br>ふしぎ大トントン<br>ピンクレディー物語<br>宇宙戦艦ヤマト2<br>新・エースをねらえ<br>キャプテンフューチャー<br>12 11<br>ルパン三世 (劇場) |
| 7     | 英で初の試験官ヘビー誕生   |
| 8     | 24時間TV愛は地球を救う放映  |
| 10    | 日中友好条約締結   |
| 12 11 | マニフィック創刊<br>ピンクレディ、レコード大賞受賞  |

互いに「なんであんな物を見てる」と罵倒しあう光景がそこら中で見られたものである。

※未来少年コナンは、かなり良質の同人誌が出ていた。

その頃の主だった同人誌のメンバーは、後に漫画家になった人が多い。ともあれ、NHKで連続アニメーションが放送されるくらいアニメというものに市民権が与えられたのである。なんせ長髪だからという理由でグループサウンズを出演させなかった徹しい局だもの。

※ヘリーヌ物語の秋からの展開は秀逸である。今でも40代の人間が集まると、シミーズを自作するシーンで盛り上がる。

※マニフィック創刊

この当時の喧噪は人生最大の物であった。よく本が出たと回想しながらも不思議である。

1979

(S54)

| 5         | 4  | 3   | 2                                | 1                 | 月      |
|-----------|--|---|----------------------------------|-------------------|--------|
| 炎の超人メガロマン | ドラえもん<br>くじらのホセフィーナ<br>ザ・ウルトラマン<br>巴里のイザベラ<br>機動戦士ガンダム<br>新巨人の星II<br>リスのパナー<br>マルコボーロの冒険 | サイボーグ009 (新)<br>未来ロボタルタニアス<br>ウルトラマン (劇場) | 花の子ルンルン<br>バトルフィーバーJ<br>ゼンタマン    | 赤毛のアン<br>野ばらのジュリー | アニメ・特撮 |
| 6         | 5  | 3   | 2                                | 1                 | 月      |
| 東京サミット開催  | 英初の女性首相サッチャー就任<br>病院坂の首縊りの家公開  | 米スリーマイル島原発で放射能漏れ<br>事故発生                  | アントニオ猪木、熊殺しとの異名をもつウィリアムス・ウィリーと対戦 | 初の共通一次試験実施        | 世相・その他 |

1979年

※東京サミットが開催された時には、新宿御苑から市ヶ谷の印刷所まで原稿を届ける度に不審者として職務質問を受けた。

確かにボスターの入った筒下げて歩いていたら怪しいものなあ。

※ウオークマンを初めて使った時のショックは、子供の時にNHK第一と第二を一台のラジオで受信する実験ステレオ放送以来の物であった。

(言はそうだったの)

校正をしている編集部の人間が誰も知らないくらいに太古の話。

※カリオストロの城における城壁を登るルパンのステールを正しい位置で使ったのはアニメックだけだった。

今でも天地逆版で使う本があるが、映画観てないのかな？

# 第六章 ●アニメーションで振り返る近代年表

|    |  |
|----|--|
| 7  | SF西遊記スタージンガーII<br>金髪のエニ<br>科学冒険隊タンサー5<br>ウルトラマン怪獣大決戦 (劇場)  |
| 8  | 銀河鉄道999 (劇場)   |
| 9  | 円卓の騎士物語燃えるアーサー<br>エースをねらえ! (劇場)  |
| 10 | 闘士ゴーディアン<br>科学忍者隊ガッチャマンF<br>まんが猿飛佐助<br>ベルサイユのばら<br>さすらいの少女ネル<br>仮面ライダー (新)<br>宇宙空母ブルーノア<br>こくまのミーシャ<br>星のオルフェウス (劇場)<br>ルパン三世カリオストロの城 (劇場) |
| 7  | ウォークマン発売   |
| 10 | 近鉄バッファローズ初優勝<br>KDD事件  |
| 11 | ジ・アニメ月刊化<br>ジュディオンク、「魅せられて」で<br>レコード大賞受賞   |
| 12 |  |

※本社ビル建築のため、編集部  
引っ越し。

子供の頃にマガジンの記事で読  
んだ、王選手が両親の為に立て  
たビルに入居し感激する。

通称、ワンチャンビル時代。

新品の浴槽に設定書を入れて運  
んでいたら大雨になったので、  
Uと二人で浴槽を被ってコナン  
のような引っ越しになった。

浴槽を付けた直後にアパート取  
り壊しが決定して引っ越した部  
屋からの戦利品なのだが、その  
後、編集部が数年転がるという  
致奇な運命を迎える。

※スタート1万部のアニメックが  
倍々に部数を伸ばし1年で10万  
部までになったのは、ガンダム  
特集があったからという説は間  
違いないだろう。

ガンダムのアニメックときだに  
言われるわけである。

# 1980

(S55)

| 4   | 3  | 2  | 1      | 月 |
|---|--|--|--------|---|
| 燃えるアーサー白馬の王子<br>釣りキチ三平<br>僕ら野球探偵団<br>ウルトラマン 80<br>ムーの白鯨 | 8人ライダー対銀河王 (劇場)<br>スーキャット<br>あしたのジョー (劇場)<br>ドラえもん のび太の恐竜 (劇場)<br>宇宙大帝ゴッドシグマ<br>オタスケマン | 無敵ロボトライダーG7<br>電子戦隊デンジマン<br>魔法少女ララベル<br>ふたこのモンチッチ<br>メーテルリンクの青い鳥<br>トム・ソーヤの冒険<br>ニルスのふしぎな旅 | アニメ・特撮 |   |
| 4   | 2  | 1  | 月      | 月 |
| 影武者公開<br>ヒッチコック死去                                       | 地獄の黙示録公開<br>で逮捕  | ソ連アフガニスタンに侵攻<br>ボール・マッカートニー麻薬所持<br>で逮捕   | 世相・その他 |   |

アニメーションで振り返る近代年表・1980

1980年

※伝説巨神イデオンのオーブニングには掲載(予定)誌が全てクレジットされていた。

小学館・てれびくん、学習誌、秋田書店・冒険王、徳間書店・テレビランド・アニメージュ・アニメ、OUT、アニメック、月刊アニメーションである。放送開始時にアニメーションを扱う雑誌はこれだけしかなかったのである。月刊アニメーションはアニメ誌とはいいがたく、アニメ情報なら冒険王の方が豊富であった時代である。その秋田書店から出るマイアニメは、少しの差でクレジットに間に合わなかった。

※この時期に発売された任天堂のゲームウォッチは、今やマニア垂涎のレアアイテムとなっている。

# 第六章 ●アニメーションで振り返る近代年表

|   |                               |    |  |                 |                        |   |
|---|-------------------------------|----|--|-----------------|------------------------|---|
| 12  | 10                            | 9  | 8  | 7               | 6                      | 5 |
| <p>がんばれゴンベ</p> <p>地球へ… (劇場)</p> <p>伝説巨神イデオン</p> <p>宇宙戦士バルディオス</p> <p>復活の日 (劇場)</p> <p>がんばれ元氣</p> <p>ヤマトよ永遠に (劇場)</p> <p>とんでも戦士ムテキング</p> <p>おじゃまんが山田くん</p> <p>怪物くん (新)</p> <p>あしたのジョー2</p> <p>鉄腕アトム (新)</p> <p>ぼえろフンフン</p> <p>鉄人28号 (新)</p> <p>仮面ライダースーパー</p> <p>超宇宙マシーンXボンバー</p> <p>宇宙戦艦ヤマトIII</p> <p>サイボーグ009 超銀河伝説 (劇場)</p> |                               |    |  |                 |                        |   |
| 12  | 11                            | 10 | 9  | 7               | 6                      |   |
| <p>王貞治現役引退</p> <p>長浜監督死去</p> <p>ジョン・レノン暗殺</p>   | <p>山口百恵引退</p> <p>ふぁんろーど創刊</p> |    | <p>モスクワオリンピック開催</p> <p>日本他西側諸国は参加せず</p> <p>イラン・イラク戦争勃発</p> | <p>イエスの方舟事件</p> | <p>スター・ウォーズ帝国の逆襲公開</p> |   |

※復活の日。

残された人類の再会という感動的ラストシーンが、この年のコスプレで大人気。知らない人は南極ホームレスの話だと思っていられない。CMもそうだった。

※11月4日長浜忠夫監督死去。

その週末にイデオン記録全集の富野監督とすぎやまこういち氏の対談をセッティングしていたのを独断で中止し、富野監督に叱られる。葬儀に参列できたから後悔はしていないのだが、早過ぎる死であった。アニメファンの底辺拡大には必要な人だったと思っている。

※ガンダムのプラモデルが小学生にまで浸透し、社会現象になる。この時の小学生ガンダム層が、空白期間のガンダムブームを底辺で支え続けたのは間違いない。そのファンがこの本の読者だったりするから世の中面白い。

# 1981

(S56)

| 月      | 1   | 2 | 3 | 4 | 7 | 8 | 9 | 10 |       |
|--------|---|---|---|---|---|---|---|----|-------|
| アニメ・特撮 | ふしぎな島のフローネ<br>最強ロボダイオージヤ<br>太陽戦隊サンバルカン<br>ヤットデタマン<br>百獣王ゴライオン<br>ハローサンディベル<br>機動戦士ガンダムー(劇場)<br>名犬ジヨリイ<br>黄金戦士ゴルドライタン<br>新竹取物語ー0000年女王<br>Dr・スランプアラレちゃん<br>戦国魔神ゴーショーグン<br>機動戦士ガンダムII哀・戦士編(劇場)<br>さよなら銀河鉄道999(劇場)<br>忍者ハットリくん<br>ロボット8ちゃん<br>銀河旋風フライガー<br>うる星やつら<br>六神合体ゴッドマーズ<br>太陽の牙ダグラム<br>じゃりん子チエ |   |   |   |   |   |   |    |       |
| 月      | 1   | 2 | 3 | 4 | 6 | 7 | 8 | 10 | 12 11 |
| 世相・その他 | レーガン大統領就任<br>しんかい2000進水<br>2・22新世紀宣言<br>ポルトピア81開催<br>ピンクレディ解散<br>初代タイガーマスク蔵前国技館に<br>初登場<br>スペースシャトル打ち上げ成功<br>佐川一政事件<br>科学雑誌ニュートン創刊<br>チャールズ皇太子とダイアナ妃結婚<br>ねらわれた学園公開<br>ガンダムセンチュリー発売<br>DAICONIII開催<br>フォーカス創刊<br>ヤンバルクイナ発見<br>セラー服と機関銃公開  |   |   |   |   |   |   |    |       |

1981年

※2・22アニメ新世紀宣言が最大のイベントだったろう。

これに参加していたファンは、自分たちの支持した作品が後に「一年戦争」と呼ばれる歴史になることは知らないでいた。つまり戦中派なのだ。

※機動戦士ガンダムの劇場公開は、宇宙戦艦ヤマト以来の社会現象となり、新聞や週刊誌が一斉に取り上げたがどこかズレていた。

※ダイコンIII開催

これも、日本のアニメの歴史にとってエポックとなるSF大会であった。

※なめねこブーム

一瞬のブームだったので記録されない場合が多い。猫に特攻服着せた写真カードと写真集である。



# 1982

(S57)

| 月      | 1   | 2 | 3        | 4                     | 5  | 7   | 10 |    |
|--------|---|---|----------|-----------------------|--|---|----|----|
| アニメ・特撮 | 南の虹のルーシー<br>戦闘メカザングル<br>大戦隊ゴグルV<br>逆転イッパツマン<br>機甲艦隊ダイラガーXV<br>魔法のプリンセスミンキーモモ<br>宇宙刑事ギャバン<br>1000年女王(劇場)<br>機動戦士ガンダムIIIめぐりあい宇宙<br>(劇場) |   |          | トントラキュラ<br>パタリロ!      | 魔境伝説アクロバンチ<br>おちやめ神物語コロコロポロン<br>銀河烈風バクシンガー<br>伝説巨神イデオン接触&発動編<br>(劇場) | わが青春のアルカディア<br>超時空要塞マクロス<br>さすがの猿飛<br>ときめきトゥナイト |    |    |
| 月      | 2   | 4 | 6        | 7                     | 8  | 9   | 11 | 12 |
| 世相・その他 | ホテルニュージャパン火災<br>日航機、羽田沖に墜落<br>志村喬死去   |   | 500円硬貨登場 | 東北新幹線開通<br>ブレードランナー公開 | 戸塚ヨットスクールが社会問題化<br>グレース王妃事故死<br>トキワ荘解体始まる<br>E・T公開                   |   |    |    |

1982年

※機動戦士ガンダム 山めくりあい宇宙公開。

※機動戦士ガンダム 山めくりあい宇宙公開。解放感溢れる映画であった。この頃には伝説巨神イデオンの宣伝活動に走っていたのだが、ザ・ブングルが始まり、宣伝方針を大転換したりして、とても忙しい年だった。

※伝説巨神イデオン・接触編が終わったインターミッションで、そろそろ帰る客がいた。ダブルリリスの意味が、通じていなかったらしい。慧星の赤バラは修正済みであるから子供が見ても安心だ。

※前年にアニメックでロリタ特集をしたせいか、ロリコンに市民権が与えられてしまった年でもある。

それまでは語源すら知らない人がいたのに...

1983

(S58)

| 10                  | 7           | 6                | 4                    | 3  | 2             | 1                     | 月   |                 |                  |           |                   |           |          |           |           |        |
|---------------------|-------------|------------------|----------------------|--|---------------|-----------------------|---|-----------------|------------------|-----------|-------------------|-----------|----------|-----------|-----------|--------|
| 銀河漂流バイファム<br>キャプテン翼 | 機甲創世記モスピーダ  | ザブングルグラフィティ (劇場) | ドキュメントタグラム (劇場)      | 魔法の天使クリィミーマミ                             | 超時空世紀オーガス     | ブラレス三四郎               | イタダキマン<br>ななこSOS<br>装甲騎兵ボトムズ<br>銀河疾風サスライガー<br>キン肉マン | 宇宙戦艦ヤマト完結編 (劇場) | クラッシュジャージョウ (劇場) | 宇宙刑事シャリバン | うる星やつらオンリーユー (劇場) | 科学戦隊ダイナマン | 聖戦士タンバイン | 未来警察ウラシマン | わたしのアンネット | アニメ・特撮 |
| 12                  | 11          | 9                | 8                    | 7  | 4             | 3                     | 1   | 月               |                  |           |                   |           |          |           |           |        |
| 初回のOVAダロス発売         | 劇団四季、キャッツ開演 | 大韓航空機撃墜事件        | DAICONIV開会<br>アキノ氏暗殺 | ファミコン発売<br>スターウォーズジェダイの復讐公開<br>時をかける少女公開 | 東京デイズニールランド開園 | 片岡千恵蔵死去<br>ダーククリスタル公開 | 中曽根首相不沈空母発言   | 世相・その他          |                  |           |                   |           |          |           |           |        |

1983年

※千葉に、東京デイズニールランド開園。

失敗したら土地の転売でもするの、かという憶測にもかかわらず、テーマパークとして大ヒット。バブル期にも地道に稼いだ施設。

※この夏に発売された、任天堂のファミコンに多くの青少年がはまる。この時からゲーム業界に人材が流れ出し、後のアニメ業界の新人不足が起きたのではないだろうか。

※アニメック32号となるはずだった物から「10月号として月刊化」なぜか、月刊アニメ雑誌は10日発売という規定は、適用されなかった。  
月刊化への長い道程を振り返って涙する間もなく、仕事量が二倍となる。そりゃそうだ。

1984

(S59)

|   |  |                            |  |  |  |                       |        |
|---|--|----------------------------|--|--|--|-----------------------|--------|
| 11  | 10 9                                       | 7                          | 4  | 3  | 2  | 1                     | 月      |
| 名探偵ホームズ                                     | 機甲界ガリアン<br>超力ロボガラット<br>北斗の拳                | どきんちょーネムリン<br>愛おぼえてますか(劇場) | 鬼神ゴーク<br>超時空騎団サザンクロス<br>魔法の妖精ベルシャ<br>超時空要塞マクロス | さよならジュビター(劇場)<br>風の谷のナウシカ(劇場)<br>とんがり帽子のメモル<br>宇宙刑事シャイダー<br>ビューティフルドリーマー(劇場) | うる星やつら2<br>超電子バイオマン<br>重戦機エルガイム<br>スターザンスS | 牧場の少女カトリ<br>星雲仮面マシンマン | アニメ・特撮 |
| 12 11                                       | 8 7 5                                      | 3                          | 2  | 1  | 月  | 世相・その他                |        |
| ゴーストバスターズ公開<br>クレムリン公開<br>新紙幣3種発行<br>都はるみ引退 | 衛星放送開始<br>ロス五輪開催。山下金メダル獲得<br>くりいむレモンシリーズ発売 | グリコ・森永事件発生                 | サラエボ冬季五輪開催<br>植村直巳遭難                           | ロス疑惑報道始まる  |  |                       |        |

1984年

※重戦機エルガイムは、扱う媒体によって3つの物語に分裂していた。いまでも混乱している。

※この年の収穫は「うる星やつら2ビューティフルドリーマー」だろう。

これこそが、うる星やつらだという、なぜか反論が多い。

※新札の発行により、お札から聖徳太子が消えてしまった。

これにより聖徳太子の一万円札を描いたマンガが全て古くなってしまったのである。

※年末はクリスマスソングよりも、ゴーストバスターズが街中に流れていた。

プロモーションフィルムがおしゃれ感覚で大流行。

本家はマイケル・ジャクソンのスリラーだと思う。

# 機動戦士ガンダム伝説 まとめにかえて

「ガンダム伝説とは何か？」

人によつてはガンブラがそうだと言うだろうし、別の人は作品論を出すのではないだろうか。たしかにガンダムは語るに値するものが多いのだから。

「私にとつてのガンダム伝説は、やはりファンの動きです。」

「歴史編」の導入部で当時のファンの動きから書いてみたのも、やはり歴史として残しておきたかったからでした。

今回は、ガンダムブームを作ったアニメックの記事と連動して、伝説を振り返ってみました。誤差率以下の視聴率しか取れず、打ち切りが決定したマイナー人気のアニメーション作品が、今もなお支持される秘密が明かされればと思つたのですが、これが奥が深い。

「テレビアニメを書籍で再現する」という仕事は、私より前の世代では存在しません。

つまり、自分たちの大好きだったアニメーションを本にして記録しようと考えた最初の世代が我々だったのです。アニメと限定してはいけませんね、「映像記録を書籍に残す」です。

◇1998年8月1日のガンダムビックバン宣言は、ほとんど同窓会。1970年代後半にアニメや特撮のムックを最初に作った連中が編集屋やライターとしてゾロゾロ集結していたのです。気持ちは同じってなもんで……

「やっぱりガンダムのイベントですからね」  
どうして、こうもお祭り好きの連中が集まるのか不思議なものです。富野監督が「最近、インタビュに来る人って顔触れが変わらないなあ」と嘆くわけです。(笑)

◇ああそうだ、現在一線で活躍しているアニメ系の編集者のほとんどが、ファンの成れの果てではないのか？ という鋭い疑問に突き当たってしまったのでありました。アニメが好きでこの業界に入った人ばかりです。いや業界そのものを作った人たちですね。(苦笑)  
◇だったら、そうした人脈が摩訶不思議なクロスオーバーをしてしまった昭和49年に潮つて、ガンダム伝説が一夜にして出来たものではなく、長年のアニメファンの行動が作り上げたものと解説してみたらどうだろう。と考えたのです。表面の動きではなく、何故ガンダムに若者たちが燃えたかの解説ですね。

「こうやってまとめて見ると、ガンダムが時代を作ったのか、時代がガンダムを作ったのかがますます混沌としてしまったのですが、アニメブームが発生した理由だけは、はっきりしました。ファンが熱狂するような作品がなければ、大きな流れは生まれないのです。

◇だとすれば、常に熱狂できる作品が放送されていた我々は幸せだったのですね。しかし、そういう流れを作れるアニメーション作品がまったく無くなってしまったわけではありません。まだ現れていないだけで、これからも登場するはずですよ。

◇ガンダム伝説は、まだ継続中です。終わっていないのですから、まだ総括は早いでしょう。そういう意味では、この本は素材にしかないかもしれないですね。全てのデータが完全に網羅され、あらゆる解説が揃っている現在、初めてLDで機動戦士ガンダムを観て悩む人はまずいないでしょう。しかし、20年前に放送されていたガンダムは、何ひとつ手引きがなかったのです。この作品は面白い、だからもっと知りたいと思ったファンの要望により生まれたのがアニメックの記事でした。

◇そのアニメックも、いきなり誕生したわけではなく、好きなアニメ作品だけを集集してみたいという、数人のアニメファンの欲望によって生まれた本です。こうやって振り返って見るとやっぱり時代の要請で出来た本だったのだなあという気がします。

◇数日前の事はどうか、今日の昼飯は何を食べたかも忘れてるのに、なぜか20年前のガンダム放映中の出来事は克明に覚えていました。それだけ、密度の濃い時間を送れたのだなあと感慨深いですね。編集部では原稿を打ち込みながら思い出し笑いをする編集長をかなり気味悪がっていました。それだけあの頃が面白かったのですからしょうがないです。

◇当時の記事を再録しながら、富野監督のインタビューが面白いなあと思ひました。中途半端に再録するよりはと考えると、この20年間のインタビューを集めた「富野語録」を現在編集中です。ガンダムからブレンパワードまでを収録してありますのでお楽しみに。

◇今回は、ガンダムからVガンダムまでの全体的な検証をしてみたいと思います。



## 機動戦士ガンダム 宇宙世紀vol.1

**歴史編**

好評発売中

A5/カラー16頁・白黒192頁/定価：本体952円＋税

一年戦争の多面的な内容と歴史を包括して、ファーストガンダムの興奮を当時の資料で再現するスペシャル企画。アニメック独自のガンダム解説とサンライズ・オフィシャル資料が融合した

最高のガンダム読本がここに登場！



## 機動戦士ガンダム 宇宙世紀vol.2

**大事典編**

好評発売中

A5/カラー16頁・白黒192頁/定価：本体952円＋税

機動戦士ガンダム・一年戦争を中心に、基本設定と公式スペックを

余すところなく網羅した、究極のガンダム大事典。ガンダムの世界観をリアルに支える用語や多彩な登場人物を大胆に解説していく20年目のメモリアルブックです。



## 富野語録

12月15日発売予定

A5版／定価：本体1143円＋税

ガンダムからブレンパワードまでの  
20年間に、富野監督の語った  
アニメーションの世界。  
最先端アニメーションを送り続ける  
クリエイターの心情を吐露した  
白熱のインタビュー集。

ラポートテラックス  
**機動戦士ガンダム  
宇宙世紀vol.3**

**伝説編**

©創通エー・エー・サンライズ

---

**STAFF**

編集/小牧雅伸 千手孝一 穂浪優子 最上満衣子 賀屋聡子  
レイアウト/北の湖角子

Special thanks/飯塚正夫&サンライズ資料室  
表紙CGワーク/荻原博子

1998年12月20日 初版発行

編集人 小牧雅伸

発行人 海野榮一

発行 ラポート株式会社

〒160-0022 東京都新宿区新宿2-1-1  
TEL03(3354)3951 FAX03(3354)1366  
©RAPPORT K.K.1998

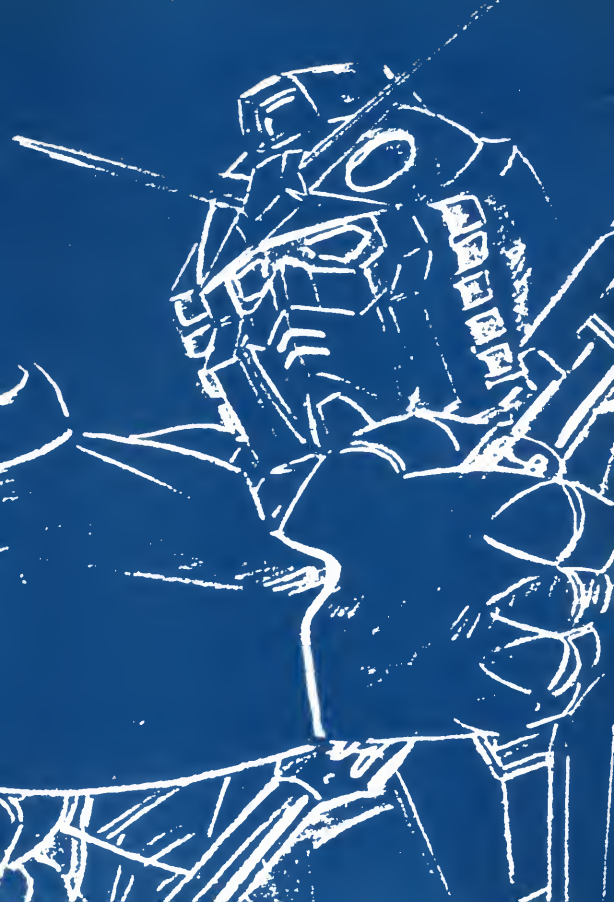
印刷所 株式会社 美研  
凸版印刷株式会社

禁断転載 Printed in Japan  
定価は表紙に表示しております  
乱丁・落丁がありましたら、おとりかえします

ISBN4-89789-298-2

---







# 機動戦士ガンダム 宇宙世紀vol.3

伝説編



# MOBILE SUIT GUNDAM



ISBN4-89799-298-2

C9474 ¥952E

雑誌69160-65

**レポート**

定価：本体952円 + 税



9784897992983



1929474009526

RD

RAPPORT  
DELUXE

NO

機

要

戰

士

力

身

身

子

田

世

紀

一

心

伝説編

又

一

次

特別編集集

—